

- (d) 未ダ文化ノ發達セザル國ニ於テ大地主及封建制度ノ凡テノ形式及傳説ニ對抗スル農民運動ヲ支持スルコトハ特ニ必要ナリ
- 就中吾人ハ農民運動ニ對シテ革命的性質ヲ與ヘ出來得ベクンバ總テノ農民及凡テノ被搾取者ヲ「ソウヴェエト」ニ組織シ、西歐ニ於ケル共產主義的「プロレタリア」ト東方(植民地半開國)ニ於ケル農民トノ間ニ出來得ル限リ密接ナル聯絡ヲ設立スルニ努メザルベカラズ
- (e) 半開國ニ於テ實際ハ共產主義的革命的ニアラザル自由解放運動ニシテ而モ共產主義ヲ裝ハシメントスル企圖ニ對シテハ斷乎トシテ抗爭スルノ必要アリ
- 共產「インターナショナル」ハ(イ)總テノ國ニ於テ將來建設セラルベキ「プロレタリア」政黨ノ黨員(單ニ名義上ノミナラズ眞ノ意義ニ於テ共產主義的性質ヲ有スルモノ)ヲ集メ(ロ)此等黨員ヲシテ其ノ特別ノ任務殊ニ其ノ自國ニ於ケル「ブルジョア」的民主主義ノ思潮ニ對シテ闘スルノ任務ヲ意識スル様教育スル目的ニ於テノミ植民地及半開國ノ革命的運動ヲ支援スベキ義務ヲ負フ
- 共產「インターナショナル」ハ植民地及半開國ニ於ケル革命的運動ト一時的共同關係ノミナラズ同盟關聯ヲサヘ結ブベキモノナルモ之ト融合スベカラズ、共產「インターナショナル」ハ其

ノ獨立ノ存在ヲ有スル「プロレタリア」運動タルノ特質ハ其ノ出生ノ形態ニ於テモ存シタルモノニシテ絶對ニ之ヲ保持セザルベカラズ

- (f) 帝國主義諸國ガ被搾壓國ニ於ケル特權階級ノ援助ヲ以テ政治的ニハ獨立ノ存在ヲ有スルモ經濟上財政上及軍事上ハ全然右帝國主義諸國ニ隸屬スルガ如キ國家ヲ形成スル事ハ一ノ欺瞞ナルコトヲ各國殊ニ半開國ノ廣汎ナル勤勞民衆ノ間ニ引續キ指示シ且ツ闡明スルコトヲ要ス
- 帝國主義ノ聯合國ト當該民族ノ「ブルジョア」階級トカ共力シテ被搾壓民族ノ勞働大衆ヲ欺瞞セル最モ拙劣ナル例トシテ「チオニスト」ノ「バレスチナ」事件ヲ舉グル事ヲ得ベシ、「チオニスト」ハ「バレスチナ」ニ「ユダヤ」人ノ國家ヲ建設セントスルカ如ク裝ヒ實ハ同地方ニ於ケル「アラビヤ」人ノ勞働者大衆(其ノ内「ユダヤ」人ノ勤勞者ハ極メテ少數ナリ)ヲ英國人ノ搾取ノ犠牲トナシタリ現今ノ國際時局ヲ見ルニ弱少ニシテ且ツ獨立シ得ザル民族ニ對スル救濟策トシテハ「ソウヴェエト」共和國ト同盟スルノ一策アルノミナリ

- (三) 帝國主義ノ強國ハ數世紀ノ永キニ互リ植民地民族及弱少民族ヲ奴隸的地位ニ置ケリ從テ此等被搾壓民族ノ勤勞大衆ハ搾壓民族ノ一般ニ對シ即チ搾壓民族中ノ「プロレタリア」ニ對シテモ憤怒ノ情ヲ有スルノミナラズ不信ノ念ヲ抱クニ至レリ

此等「プロレタリア」ノ公ノ指導者タルモノノ多數ガ社會平和主義者トシテ祖國ノ守護ノ名目ノ下ニ祕ニ殖民地民族ヲ奴隸的地位ニ置キ且ツ財政上獨立ノ存在ヲ有シ得ザル各國ヲ奪掠シテ其上ニ「ブルジョア」階級ノ利益ヲ擁護セルハ社會主義ニ對シ卑賤ナル反逆ヲ爲セルモノニシテ斯ノ如キ反逆ハ只被抑壓國勤勞大衆ノ不信ノ念ヲ只強メタルノミナルガ右不信ノ念ハ全然正當ノ理由アルモノト云ハザルベカラズ

右不信及民族的偏見ハ文化ノ進歩セル國ニ於テハ其ノ帝國主義ヲ撲滅シテ後又未ダ文化ノ進歩セザル國ニ於テハ其ノ經濟生活ノ根本ノ全部ニ互リ之ヲ急激ニ改造シテ後ニ於テ始メテ之ヲ除去シ得ベキモノニシテ斯ノ如クセバ民族的偏見ノ除去ハ極メテ除々ニ進歩スベキモノナリ

茲ニ於テ各國ノ階級意識ノ強固ニシテ且共產主義ヲ奉ズル「プロレタリア」ハ長キニ互リ奴隸的地位ニ置カレタル各國民族ノ中ニ傳統スル民族感情ノ現在及將來ニ對シ特別ノ注意ヲ拂フヘキ義務及此ノ種ノ偏見及不信ヲ出來得ル限り急激ニ除去スヘキ義務ヲ負フ

全世界ノ總テノ國家及總テノ民族ノ「プロレタリア」及總テノ勤勞大衆カ自發的ニ結合シ一ノ同盟及協同關係ヲ作ルニアラサレハ資本主義ニ對スル共產主義ノ戰勝ヲシテ有終ノ美アラシムルヲ得ス

第四節 「ファシズム」ニ對ル共產「インターナショナル」ノ政策

共產「インターナショナル」ハ「ファシズム」運動ノ本質ニ關シテ如何ニ之ヲ觀念スルカ又右運動ニ對シテ如何ナル具體的對策ニ出デントスルカ右ノ二點ニ關シテハ共產「インターナショナル」ノ第五回大會議ニ於テ採擇セラレタル「テーゼ」ガ明白ナル解答ヲ下セルヲ以テ茲ニ同「テーゼ」ヲ蒐録セントス

第一、「ファシズム」ノ本質

「ファシズム」ハ資本主義的社會制度ノ沒落期即チ「プロレタリア」革命期ニ於テ特ニ「プロレタリア」ガ政權獲得ヲ開始セルモ革命ノ經驗充分ナラザルト且「プロレタリア」ヲ指導スベキ階級ヲ基礎トスル革命的政黨ノ存在セルガ爲革命ヲ組織シ及大衆ヲ「プロレタリア」獨裁ニ導ク事ヲ知ラザル地ニ於テ勃發セル反革命運動ノ傳統的形式ノ一ナリ

「ファシズム」ハ「プロレタリア」ガ發達シテ最早國家ノ合法的權力手段ヲ以テシテハ之ヲ抑壓スルヲ得ザルニ至リタル場合ニ於テ大「ブルジョア」ガ「プロレタリア」ニ對シテ用フル戰闘手段ナリ

「ファシズム」ハ大「ブルジョア」ノ非常戰闘手段ニシテ「ブルジョア」ノ獨裁ヲ樹立シ之ヲ確立ス

ルコトヲ目的トスルモノトナス

然レトモ其ノ社會的構成ヨリ見レバ「ファシズム」ハ小「ブルジョア」ノ運動ニシテ資本主義ノ危機ニ因リ其ノ没落ニ類セル中産階級、戦争ノ結果階級的ニ低下スルニ至リタル分子（舊士官等）及革命ニ對スル期待ヲ裏切ラレ困窮セル「プロレタリア」ノ分子ノ内ニ其ノ根底ヲ有スルモノナリ

「ブルジョア」的社會ノ没落ガ愈々其ノ歩ヲ進ムルニ及ンデハ凡テノ「ブルジョア」的政黨特ニ社會民主黨ハ多少トモ「ファシスト」的性質ヲ帶ビ「プロレタリア」ニ對スル戰鬥ヲ利用シ自ラ形成シ維持セル社會秩序ヲ自ラ解體スルモノニシテ「ファシズム」ト社會民主主義トハ資本主義獨裁ヲ實現シ之ヲ維持スル同一ノ手段ノ兩面ナリ從テ「ファシズム」ニ對シテ戰鬥ヲ繼續中ノ「プロレタリア」ニトリテハ社會民主黨ハ對「ファシズム」戰鬥ニ於テ信頼シ得ベキ戰友タルコトヲ得ルモノニアラズ

其ノ内部ニ於テ大「ブルジョア」ト小「ブルジョア」及「プロレタリア」分子トノ間ニ於テ利害相反セルガ爲メ「ファシズム」ハ其ノ勝利ヲ收メタル後政治的破産ノ状態ニ陥リ其ノ内部ヨリ崩壊ス（伊太利）又「ファシズム」ガ形式上ノ勝利ヲ收ムルコトナク又「ブルジョア」ノ政府ヲ公然支

持シ且ツ擁護セザルベカラザル國ニ於テモ「ファシズム」ハ類似ノ危険状態ニ陥レリ（獨逸）

第二、「ファシズム」ニ對スル對策

「ファシズム」ノ歴史的役割、其ノ本質及社會的關係ニ應シ共產主義者ノ「ファシズム」ニ對スル戰鬥方法ハ（イ）「ファシズム」ヲ政治上征服シ（ロ）且革命的「プロレタリア」ニ對スル「ファシスト」ノ武力的攻撃ヲ防禦スルコトヲ可能ナラシメ且之ヲ保障スルモノナラサルヘカラス其ノ手段ハ就中左ノ如シ

(A) 政治的範圍

- (1) 共產黨ノ眞實革命的ナル戰術及政策ヲ遂行スルコト即チ「プロレタリア」「ブルジョア」的中産階級及小農ヲ共產主義運動ニ引キ入レ且「プロレタリア」ノ獨裁ニ依リ經濟、社會、政治及文化ノ問題ヲ解決シ得ヘシトノ信念ヲ促進シ且鞏固ニセサルヘカラス
- (2) 「ファシズム」ノ反革命的性質及労働者ノ敵タルノ特質ヲ労働階級ニ對シ組織的ニ闡明スルコト
- (3) 小「ブルジョア」及農民階級ハ資本主義ノ危機ニ因リ「プロレタリア」ト爲リ經濟上壓迫セラルルニ至レルカ右小「ブルジョア」及農民ノ大衆ヲシテ彼等ノ境遇及「ファシズム」カ純然タル

ル資本主義的作用ヲ有スルコトヲ組織的ニ闡明セサルヘカラス

- (4) 積極的外交政策、帝國主義的平和條約、賠償問題、國際聯盟等ニ對スル反對、勞働大衆ニ對シ帝國主義的外交政策ノ本質及其ノ結果ヲ廣汎ナル範圍ニ互リ闡明スルコト
- (5) 「ソヴェエト」共和國聯邦ト共同シテ革命的戰闘ヲ爲スコト民族問題ニ於テ積極的ナル「レニン」ノ政策ヲ遂行スルコト被抑壓民族ノ自決權及獨立權ノ爲メ戰闘スルコト
- (6) 「ファシスト」ニ對スル戰闘ニ於テ總テノ勞働階級ヲ結合シテ統一戰線ヲ作ル爲努力スヘキ事、共產「インターナショナル」ノ指揮下ニ世界「プロレタリア」ノ國際的統一戰線ヲ作ル爲戰闘ヲ繼續スルコト

(A) 各國共產黨中央部間ニ於テ反「ファシズム」ノ宣傳ヲ爲スコト宣傳「ピラ」ニ依リ新聞ニ依リ「ファシスト」ニ對シ反對煽動ヲ爲スコト

(B) 組織及軍事的行動ノ範圍

- (1) 武裝セル「ファシズム」ニ對シテ武裝セル防禦軍ヲ編成スルコト(「プロレタリア」百人組等)
- (2) 「ファシスト」ノ武裝ヲ解除シ且ツ其ノ武器彈藥製造所ヲ廢止スルコト
- (3) 「ファシスト」ノ示威運動ニ對シテハ勞働者ハ武裝セル護衛ノ下ニ反對示威運動ヲ爲スコト

(4) 「ファシスト」ノ恐怖行爲(勞働組合事務所印刷所等ノ破壞、勞働者及勞働運動首領等ニ對スル襲撃)ニ反對シ總罷業ヲ組織シ且「ファシスト」及其ノ首領、印刷所、企業ニ對シテ勞働者ハ報復手段トシテ集團的恐怖行爲ヲ爲スコト

(5) 「ファシスト」ノ動員、進軍、集合及示威運動ニ際シテハ其ノ鐵道輸送ヲ妨害スルコト

(6) 職業團體ヨリ「ファシスト」ヲ驅逐シ又「ファシスト」カ勞働ニ從事シ或ハ監督又ハ分裂ノ爲メニ斡旋スル職業組合ニ於テハ「サボターヂ」消極的抵抗及罷業ヲ爲スコト

(D) 「ブルジョア」ノ教育獨占ノ廢止

(a) 「ブルジョア」ノ教育獨占ノ打破
資本家階級ノ生産手段ノ獨占終止スレハ又同様ニ「ブルジョア」階級ノ教育ノ獨占即チ大學ヲ含ム全學校制度ノ獨占終止スベシ

(b) 「プロレタリア」ノ有資格者ノ養成

「プロレタリア」ノ特ニ重要ナル任務ハ生産ノ範圍(技師、技術家、組織者、簿記者等)並ニ科學及兵制等ノ範圍ニ互リ勞働者階級ヨリ専門家ヲ養成スル事ナリ

共產「インターナショナル」ノ根本問題トシテノ共產主義大衆政黨ノ組織ニ關スル問題

(1) 資本主義ノ危期ト主觀的要求

帝國主義トノ戰爭ニ於テ共產主義ガ世界ノ「ブルジョア」階級ヲ征服スルコトヲ得ザリシハ共產主義者ガ主要國ニ於テ未ダ共產主義の大衆の政黨ヲ有セザリシニ因ルモノナリ、共產主義の大衆の政黨ニシテ初メテ革命ヲ組織シ且ツ戰爭發起者ニ對シテ自發的ニ奮起セル大衆ヲ戰鬥ニ引キ入ルル事ヲ得ベシ

社會民主主義ノ支持ナクシテハ最早資本主義ノ支配シ得ザル状態ニ於テ即チ資本主義ノ危期ガ緩漫ナルモ絶エズ絶望ノ状態ニ陥リツ、アル時期ニ於テ「プロレタリア」大衆及共產主義ノ前衛ノ組織團結ヲ強固ニスルコトハ歴史の時期ニ於ケル最モ重要ナル問題ナリ

(2) 「大衆へ」ノ標語

「大衆へ」ノ標語ハ共產「インターナショナル」ノ第三回大會ニ於テ決定セラレ其後モ依然トシテ效力ヲ有スルモノナリ
 共產「インターナショナル」ガ過去ニ於テ爲シ得タル功績ハ其ノ端緒ニシテ各支部ノ業績又未ダ確定スルニ至ラズ

共產主義者ハ大衆ヲ味方トスル點ニ於テ歩ヲ進メザレハ容易ニ退歩シ得ル状態ニ在リ

(3) 大衆ノ獲得

大衆ノ獲得ニ關シテハ主觀的要素（自覺ノ程度戰鬥意志ノ程度及前衛ノ下ニ於ケル労働階級ノ組織ノ程度）ガ驚クベキ重大ノ意義ヲ有スルニ至レリ

米國並ニ歐洲労働者ノ多數ヲ味方トスルコトハ從來ト同様共產「インターナショナル」ノ決定的任務タリ又植民地及半植民地ニ於テハ共產「インターナショナル」ハ二個ノ任務ヲ有ス左ノ如シ

- (イ) 各國共產黨ノ核心ヲ作り「プロレタリア」ノ全般ノ利益ヲ代表セシムルコト
 (ロ) 帝國主義ニ對抗スル民族の革命運動ヲ全力ヲ以テ支持シ、此種運動ノ前衛トナリ且ツ民族運動ノ内ニ社會運動ヲ喚起シ之ヲ増進スルコト

共產「インターナショナル」ハ一面ニ於テ右翼的傾向ヲ否定ス右翼的分子ハ勤勞大衆ノ統計的多數ヲ味方トスルコトヲ要求シ且ツ勤勞大衆ノ九十九「パーセント」ヲ獲得スルニアラザレバ眞面目ニ革命ヲ論議スルノ資格ナシトスル見解ヲ持スルモノナルガ共產「インターナショナル」ハ他面ニ於テ又極左派ノ過失ヲ退ケタリ極左派ハ即今日ニ至ル迄「大衆へ」ノ標語ガ有スル世界歴史的意義ヲ解スルヲ得ズシテ共產黨ハ恐怖政治ヲ行フ小數ノ黨派タルコトヲ得ベシトス即チ共產黨ハ大衆組織タラズトスルモ何時ニテモ大衆ヲ戰鬥ニ引キ入レ得ベシト信ズル

第六章 共產「インターナショナル」ノ煽動宣傳

(第五回大會ニ於テ採擇セラレタル「テーゼ」ニ據ル)

第一節 「マルクス」主義宣傳ノ組織

第一條 各支部カ其ノ事情及ヒ其ノ發達ノ階程ヲ異ニスルニ從ヒ又其ノ宣傳ノ組織及方法ヲ異ニセサルヘカラサルカ各國各黨ニ對スル共通ノ原則左ノ如シ

(a) 黨教育ノ組織ハ何等カノ形式ニ於テ其ノ黨員全部ヲ網羅スルヲ得ル様之ヲ構成スヘシ、共產黨ハ各其ノ黨員ヲシテ「マルクス」「レニン」主義ノ基礎的智識ヲ得シムルヲ以テ其方針トスヘシ其ノ最高級職員ハ其ノ政治的組織的煽動的活動ヲ不斷ニ更新シ且之ヲ補充スヘシ

(b) 共產主義ノ教育及宣傳機關ノ各分科ハ實際的且確定的目的ノ爲設立セラレ出來得ル限り同質ノ人材ヲ包括スヘシ人員ノ選擇並「プログラム」及方法ノ確定ニ際シテハ當該宣傳機關ハ黨事業ノ限ラレタル範圍及特定ノ實際的任務ノ遂行ニ對シ其生徒ヲ教育スルヲ以テ根本原則

トナラサルヘカラス

(c) 宣傳機關ノ組織ニ於ケル各分科ハ獨立ノ一體トシテ一定ノ仕事ヲ爲スモノナラサルヘカラス單ニヨリ高等ナル教育ヲ施ス準備トシテ見ルヲ得ス

第二條 「マルクス」「レニン」主義ノ宣傳機關ノ組織ハ精神上及物質上ノ資料ニ乏シキモ而モ出來得ル限り多數ノ黨員ヲ包括シ且二個ノ系統ニ於テ組織セラルヘシ(一)黨教育機關及(二)獨習之ナリ

第三條 黨ノ教育機關ニ關シテハ各黨ハ絶對ニ二個ノ支柱ヲ設立スルニ努ムヘシ(a)黨ノ中央教育機關(b)最モ廣汎ナル基礎的學級(夜間學校、講演、日曜學校等)

第四條 黨ノ中央教育機關ハ既ニ進歩シ且「マルクス」「レニン」主義ノ根本ニ關シテ智識ヲ有スル黨所屬ノ労働者ヲ包括シ、該黨(若シクハ同語ヲ話ス共產黨ノ團體)ノ物質的資力ニ從ヒ短期又ハ長期ニ互リ之ヲ教育ス其ノ目的ハ既ニ有スル「マルクス」「レニン」主義ノ智識ヲ更ニ組織的タラシメ、廣汎ナラシメ且ツ深奥ナラシメ斯クシテ有資格ノ黨所屬労働者ヲ養成スルニ在リシ特ニ最初ノ時期ニ於テハ新ナル宣傳部隊ヲ組織スルヲ以テ目的トスベシ

第五條 基礎的夜學校(日曜學校)ハ「マルクス」「レニン」主義理論及實際ニ關スル基礎原則

ノ初步ヲ修得セシメ以テ黨員ノ基礎的政治智識ヲ養成スルヲ以テ目的トス本課程ニ於テハ共產「インターナショナル」ノ「プログラム」ヲ以テ教育ノ基礎トナスヘシ本教育課程ノ目的ハ黨員ヲシテ黨ノ積極的活動ニ堪ユル能力ヲ得セシメ且黨内及特ニ黨外一般勞働大衆間ニ於テ個人的ニ宣傳ヲ遂行スルノ能力ヲ獲得セシムルニ在リ

第六條 各國及各黨ノ特別ノ事情ニ應シ右二個ノ支柱機關ノ間ニ種々ノ形式ヲ備フル黨教育機關ヲ設置シ得ヘシ日曜學校短期地方學校ヨリ各行政區ノ黨教育機關ニ至ル迄既ニ相當ナル要求ヲ充タシ且ツ地方ノ指導者タル職員ノ養成ニ努メツツアリ

尙宣傳部隊ノ常設の高級教育機關トシテ時ニ短期ノ複習學校開催セラルルハ特ニ注意スヘシ

第七條 共產黨ハ黨派の偏見無ク只勞働者ノ教育ヲ目的トスル各種學校（勞働者大學、「レーボアカレツヂ」「フォルクスシューレ」職業委員會學校及勞働組合ノ各種教育機關等ヲ度外視スルヲ得ス此等ノ學校ニヨリ「プロレタリア」ノ階級觀念カ脅カサルル危険ニ對シテハ抗爭スルモ共產主義的教育ニ利用スル爲出來得ル限り此等ノ學校ニ對シ其ノ勢力ノ普及ヲ圖リ且之ヲ其ノ監督ノ下ニ置ク様努力スヘシ

第八條 尙獨習ニ對シ黨員ノ興味ヲ喚起シ且最モ廣汎ナル範圍ニ互リ獨習組織ヲ構成セサルヘカ

ラス只特ニ獨習團體ノ形式ニ付キ注意セサルヘカラス、「マルクス」「レニン」主義ノ獨習ヲ促進スル目的ヲ以テ黨ノ中央煽動宣傳機關ノ内部ニ一個ノ委員會ヲ設立シ通信ノ方法ニ依リ又定期發行物ヲ利用シ以テ個人的獨習及團體的獨習ニ對スル顧問機關タラシム

第九條 宣傳ノ組織及其ノ機關ノ構成ハ比較的高級ナル黨團體ニノミ之ヲ限ルヘカラス比較的大ナル黨職業細胞及比較的少ナル黨ノ地方團體ニ迄之ヲ擴張セサルヘカラス右團體内ニ於テ宣傳部隊ヲ選任スヘク右ハ黨ノ宣傳機關ノ訓令ニ從ヒ宣傳ノ組織化ヲ促進シ且黨教育ニ對シ勞働者ノ興味ヲ喚起スルコトヲ以テ職能トスヘシ

第十條 共產「インターナショナル」執行委員會ハ「マルクス」「レニン」主義ニ關スル模範的學校及模範的夜學校ヲ設立スヘシ、右ノ設立ニ關シテハ當該共產黨中央委員會ノ提議ニ基キ之ト直接提携シ思想上之ヲ援助スルノミナラズ書籍又ハ教育補助手段ノ交付ニ依リ之ヲ支持スヘシ、各共產黨ノ中央委員會ハ最モ重要ナル勞働區ニ於ケル宣傳機關及「マルクス」「レニン」主義ノ學校ト直接聯絡ヲ保持スルコトヲ希望ス又共產「インターナショナル」ノ仲介ニ依リ露國共產黨ノ共產主義大學、黨學校「マルクス」「レニン」主義學級ト各國ノ同種機關トノ直接聯絡ヲ圖ル事ヲ希望ス

第十一條 黨機關ハ青年ニ對スル黨教育ヲ目的トスル適當ナル機關ヲ設置シ右機關ニ對シテ宣傳
カヲ供給シ及共產主義青年ヲ黨ノ教育機關ニ引入ルル事ニ對シ之ト共カスヘキ義務ヲ有ス

第十二條 共產黨ハ共產主義學生及他ノ智識階級ノ教育ニ注意セサルヘカラス共產主義學生ノ孤
立的存在ハ之ヲ打破セサルヘカラス現存ノ共產主義學生團體及細胞ノ多クハ從來何等ノ組織ナ
キ孤立的獨習者ノ團體タリキ從テ勞動運動ニ對シ效果ナカリキ而レドモ「マルクス」「レニン」
主義ニ基キ之ヲ組織シ且ツ勞動運動ノ實際ニ經驗アル共產黨ヲシテノ直接指導セシムルニ於テ
ハ共產主義宣傳ノ效果ヲ收メ得ヘシ他方ニ於テ學生團體ノ團員ハ共產黨ノ實際的活動ニ參加ス
ル事ハ例外ノ場合ニノミ許容サル

第十三條 各共產黨ハ「マルクス」「レニン」主義ノ宣傳組織構成ノ問題ヲ最近ノ黨會議ニ於テ其
ノ日程ニ上スヘキ義務ヲ有ス

第二節 綱領及宣傳ノ方法

第一條 「マルクス」「レニン」主義ノ宣傳ノ直接且現實ナル政治的目的
共產黨ノ教育ハ同等ノ「ボルシエビキ」化ノ爲メ共產「インターナショナル」及各共產黨ノ時々
ノ政治上ノ實際問題竝ニ術略及組織ニ關スル任務ニ關スルモノナラサルヘカラス

第二條 「マルキシズム」「レニズム」ノ本質ニ關スル見解

「マルクス」主義及「レニン」主義ハ勞動者階級解放戰爭ノ理論竝ニ實際ヲ包含スルモノニシテ
換言スレハ革命ノ理論ト革命ノ實際ノ一致ヲ意味ス

(1) 「マルクス」正統ノ「マルクス」主義及第二「インターナショナル」所謂「マルクス」主義ト
ハ異ル第二「インターナショナル」ハ其ノ所謂正統「マルクス」主義ニ於テハ革命的行動ニ付
其ノ理論ニ於テハ之ヲ認ムルモ實際ニ於テハ之ヲ批難セリ

(2) 「レニン」主義ハ帝國主義及「プロレタリア」革命期ニ於ケル「マルクス」主義ナリ換言ス
レハ「スターリン」ノ云フカ如ク一般の意義ニ於テハ「プロレタリア」革命ノ理論及戰術ニ
シテ特別ノ意義ニ於テハ「プロレタリア」獨裁ノ理論ト戰術ヲ意味ス

(3) 共產黨宣傳機關ノ教育計畫ノ内容ハ「マルクス」主義ヲ離レテ「レニン」主義ニノミ存ス
ルヲ得ス「マルクス」主義ハ帝國主義及「プロレタリア」革命ノ時期ニ於テハ只「レニン」主
義ノ形態ニ於テノミ合理的ニ宣傳スルヲ得ヘシ

第三條 共產主義教育ノ上級課程

共產主義教育ノ稍々上級課程ニ於テハ左ノ諸項ヲ包含スヘシ

- (1) 「マルクス」「レニン」主義ノ經濟學說 此ノ點ニ於テハ帝國主義諸現象ヲ其ノ研究ノ基本トス
- (2) 「マルクス」「レニン」主義ノ國家理論
- (3) 「プロレタリア」革命ノ戰術上 戰略上及組織上ノ諸問題及右問題ニ關スル「レニン」ノ標語
- (4) 最重要ナル諸國及當該國ニ於ケル勞働運動ノ歴史及當該共產黨ノ歴史(特ニ勞働運動ニ於ケル社會的根源及第二「インターナショナル」ノ役割ニ關シ)
- (5) 農業問題「レニン」主義ニ於ケル勞働階級ト農民トノ關係
- (6) 國民運動植民地問題ニ於ケル「レニン」主義理論ノ根本
- (7) 婦人勞働者ノ經濟的社會的地位

第四條 「マルクス」「レニン」主義社會觀

凡ノ學級ヲ通シテ「マルクス」「レニン」主義ノ社會觀ハ之ヲ教課中ニ加ヘサルヘカラス而シテ其ノ政治的目的ハ觀念主義的思潮各種形態ニ於ケル哲學的理想主義及宗教ニ對シテ共產黨ノ基礎ヲ強固ナラシム

第五條 宣傳方法論

宣傳ノ方法ハ其ノ效果ヲ左右スルモノナルヲ以テ宣傳部隊ノ組織ニ關シテハ宣傳者カ單ニ充分ナル理論的教養ヲ有スルヲ以テ足レリトセス其ノ教育方法ニ關シ又充分ノ智識ヲ有スルヲ要ス共產黨ノ中央宣傳機關ハ其ノ宣傳員ニ對シ常ニ宣傳方法ニ關シ訓令シ其ノ材料ヲ蒐集シ其ノ方法上ノ經驗ノ普及ニ努メ且ツ之ヲ尊重セサルヘカラス

第七章 共產「インターナショナル」ノ豫算

一、在露田中大使ノ電報ニ依レハ共產「インターナショナル」ノ千九百二十六年—千九百二十七年年度收支決算ニ於テ支出百三十七萬三百一留トアル處在壽府共產「インターナショナル」反對國際同盟發行雜誌(千九百二十六年五月號)ニ依レハ同上年支出豫算ハ七百九十三萬四千六百三十二留トアリ其ノ開キ甚タ大ナルモノアリ蓋シ後者カ幾分大袈裟ニ報道サレ居ルモノトスレハ前者ハ可ナリ内輪ニ發表セラレ居ルモノナルヘク例ヘハ支出ノ決算ニ於テ五十三ヶ國ニ互リ支部ヲ有スル共產「インターナショナル」ノ一年ノ通信費カ三萬三千留ト發表セラレ居ルカ如キ一寸受取レサル數字ト云フヲ得ヘシ

唯收入ノ大部分カ各國支部(各國共產黨ト一致ス)ノ會費ナルコト並支出ノ過半カ各國共產黨

共產「インターナショナル」支部ト一致スニ對スル補助金ナルコトノ二點ハ相關聯シテ如何ニ
共產「インターナショナル」ト各國支部即各國共產黨ト密接ナル關係ヲ有スルモノナルカラ示ス
ニ足ル

二、左ニ共產「インターナショナル」ノ千九百二十七年年度收支決算表ヲ掲クヘシ（註「ソヴェト」聯
邦ノ一般會計年度ハ十月一日ヨリ翌年九月三十一日ニ至ルモノトス）

收 入（昭和三年五月十五日附「インプレコール」掲載）

百三十七萬四千九百九十四留六〇哥

内 譯

百二萬九千三百六十七留十八哥

共產「インターナショナル」支部會費（支部四
十四會員、百七十萬七千七百六十九人分）

十七萬六千六百七十九留八十哥

寄 附 金

十五萬二千二百二十八留

出 版 收 入

一萬六千八百十九留六十二哥

前年度繰越金

支 出

百三十七萬三百二留六十四哥

内 譯

五十九萬五千五十九留四哥

人件費及事務費

三萬三千七百五十留

通 信 費

五萬一千二百八十六留七十五哥

出 張 費

六十九萬二千六百八十五哥

各國ニ於ケル共產黨新聞俱樂部及學校ニ對
スル補助金

四千六百九十一留九十六哥

剩 餘 金

共產「インターナショナル」一九二六—二七年度經費

一、經 常 費

一、共產「インターナショナル」執行委員會内中央諸機關維持費

三〇七、二五〇

二、職員諸經費

七七、五一四

三、屋舎維持費

四五、五〇〇

四、印刷新聞部經費

九五、八五一

(イ) 共產「インターナショナル」新聞其ノ他ノ刊行物編輯費 二七、五〇〇

- (ロ) 漢堡ニ於ケル煽動宣傳刊行物費 二五、八〇〇
- 五、圖書賣聞雜誌費 四、〇〇〇
- 六、旅費及技術部經費 一〇三、九七一
- 七、情報部 一九、二四〇
- 八、煽動宣傳部 一四、二〇〇
- 九、組織編成部 一七、〇〇〇
- 十、國際連絡部 二五六、〇三八
- 十一、職業同盟「インターナショナル」 一〇〇、〇〇〇
- 十二、青年「インターナショナル」 七五、〇〇〇
- 十三、農民「インターナショナル」 七五、〇〇〇
- 十四、婦人「インターナショナル」 五、〇〇〇
- 十五、共產「スポーツ」「インターナショナル」 六、五〇〇
- 十六、「モーブル」中央委員會 一五〇、九二〇
- 十七、「メジ、ラブ、ボム」中央委員會 一六二、五一八

- 十八、「ロシヤ」赤十字中央委員會 一〇、〇〇〇
- 十九、「デモンストレーション」及祭日費 五三、〇〇〇
- 二十、交通部ニ對スル支拂 七、八三〇

二、臨時費

- 一、共產「インターナショナル」各支部經費（國際監督委員會案ニヨル）
 - (イ) 英國部 一〇〇、〇〇〇
 - (ロ) 米國部 四二、〇〇〇
 - (ハ) 「バルカン」部 三一〇、〇〇〇
 - (ニ) 獨逸部 七六、〇〇〇
 - (ホ) 佛國部 一〇〇、〇〇〇
 - (ヘ) 伊國部 五〇、〇〇〇
 - (ト) 波蘭部 三〇、〇〇〇
 - (チ) 波羅的部 七五、〇〇〇
 - (リ) 「スカンデナヴィア」部 六〇、〇〇〇

(ヌ) 埃國、「チエコ」國、洪國、羅馬尼、白耳義、和蘭、瑞西、西班牙、「ポルトガル」部ノ特別代表者ニ對スル支出

(ル) 近東、極東、中東

小計 二、〇四二、〇〇〇

二、會計部

(イ) 第一種割當 五八〇、〇〇〇

(ロ) 第二種割當 四七五、〇〇〇

小計 一、〇五五、〇〇〇

三、共產「インターナショナル」執行委員會幹部會（外國ニ於ケル機關組織編成ノ爲）

(イ) 外國ニ於ケル新團體 四三〇、〇〇〇

(ロ) 罷業委員會ニ於ケル特引補助 二七五、〇〇〇

(ハ) 外國ニ於ケル煽動、文化的宣傳 三〇〇、〇〇〇

(ニ) 「プロレタリア」百人組、其ノ他ノ鬭爭部隊 六五〇、〇〇〇

小計 一、六五五、〇〇〇

四、共產「インターナショナル」執行委員會西歐書記局 二三〇、〇〇〇

五、特別割當金

(イ) 幹部會 六〇、〇〇〇

(ロ) 組織部 一一〇、〇〇〇

(ハ) 書記局 八〇、〇〇〇

小計 二五〇、〇〇〇

六、國際活動部第二班

(イ) 煽動費 六〇、〇〇〇

(ロ) 「エイヂェント」 二二〇、〇〇〇

小計 二七〇、〇〇〇

七、共產「インターナショナル」執行委員會議長附職員

(イ) 渡切費手當 一〇〇、〇〇〇

(ロ) 特別賞與 三〇〇、〇〇〇

小計 一三〇、〇〇〇

八、共產「インターナショナル」統行委員會書記長附職員

ニ對スル渡切手當

七〇、〇〇〇

九、國際連絡部ノ在外「ミッション」班費

一五〇、〇〇〇

十、「コミンテルン」執行委員會總會及大會開設費

八、〇〇〇

合計

五、八六〇、〇〇〇

參、追加臨時費

一、東洋其他ニ於ケル勞働者ノ爲メノ共產黨大學建設臨時支出

「ナリマノフ」東方研究學院及「マルフレスキー」西方少數民族共產黨

「スターリン」東方勞働者共產大學

一三五、〇〇〇

二、煽動及宣傳臨時支出

(イ) 煽動、宣傳部

四五、〇〇〇

(ロ) 東方部

四五、〇〇〇

三、P、O、U、R、海上部臨時支出

一三五、〇〇〇

四、學術的協會及探査隊ノ組織ノ爲臨時支出

五〇、〇〇〇

五、國營企業ノ株券購入費

二五、〇〇〇

合計

四三五、〇〇〇

累計

七、九三四、六三二

第八章 「ソヴェエト」聯邦ニ於ケル政府、共產黨及

第三「インターナショナル」ノ相互關係

一、「ソヴェエト」聯邦政府（中央執行委員會及人民委員會會議）ハ固ヨリ憲法上ノ機關ナルモ共產黨及第三「インターナショナル」ニ至ツテハ憲法外ノ機關ニシテ少クトモ形式上純然タル私的團體ナリ

二、政府ノ要路者ハ殆ト例外無ク共產黨員ニシテ又實際上黨員ニ非サレハ政府ノ要路ニ立テ得サル状態ニ在リ共產黨ノ最高幹部ハ同黨中央委員會政治部^{ポリティビューロー}ニシテ左ノ九名ヨリ成ル

「スターリン」

「トムスキー」

「ブハーリン」

- 「モーロトフ」
- 「カリリーニン」(中央執行委員會議長)
- 「ルイコフ」(人民委員會議長)
- 「ウオロシロフ」(陸、海軍人民委員)
- 「クイプイシエフ」(最高國民經濟會議議長)
- 「スズターク」(交通人民委員)

茲ニ注目スヘキハ「スターリン」、「トムスキ」、「ブハーリン」氏及「モーロトフ」ノ如キ共產黨ノ錚々タル人物カ政府ノ表面ニ立チ居ラサル事實ナリ

三、第三「インターナショナル」(一各共產主義「インターナショナル」ハ千九百十九年三月露國共產黨(今日ハ「ソヴェエト」聯邦共產黨ト稱ス)ノ幹部「レーニン」、「トロツキー」、「ジノエフ」等)カ中心トナリ當時露國ニ參集又ハ亡命シ居タル諸國ノ共產主義者ヲ糾合シテ創立シタルモノニシテ各團ノ共產黨ヲ指揮シ所謂世界革命ノ實現ヲ企圖スルモノト目セラレ現ニ莫斯科ニ於ケル第三「インターナショナル」本部ノ如キハ宛然各人種ノ合宿所タルヤノ觀アリト云ハル

第三「インターナショナル」執行委員會幹部會ハ左ノ二十五名ノ各國共產主義者ヨリ成ル

- (「ソヴェエト」聯邦) 「ブハーリン」、「ロゾウスキー」、「スターリン」、「マヌイルスキー」
- (日本) 片山潜
- (支那) 譚平山
- (印度) 「ローイー」
- (「インドネシヤ」) 「セマヴン」
- (英國) 「ハラヘル」、「メルワイ」
- (米國) 「ルアムベルグ」
- (佛國) 「セマール」
- (伊國) 「エルコーリ」
- (波蘭) 「ブルマニヤク」
- (「チエッコ」) 「シメラル」
- (勃牙利) 「コラロフ」
- (芬蘭) 「クーシネン」

(獨逸) 「テルマン」「レンメレ」「クララ、ツエトキン」
(其他) 「ガーケン」「シヤツキン」「デウンカン」「クレメ」「シーレン」

第三「インターナショナル」ノ最高幹部ト目セラルル執行委員會ポリティビューロ政治部ハ左ノ九名ヨリ成ル

(「ソヴィエト」聯邦) 「ブハリン」「マヌイルスキ」「ビヤトニツキー」

(印度) 「ローイ」

(伊國) 「エルコーリ」

(「チェッコ」) 「シメラル」

(芬蘭) 「クーシネン」

(獨逸) 「レムネレ」

(其他) 「クレメ」

右ニ依リテ知り得ヘキカ如ク第三「インターナショナル」主要部門ニ於ケル「ソヴィエト」聯邦共產黨代表者連ハ其ノ數ニ於テ將又其ノ質ニ於テ他國共產主義者代表ニ對シ一頭地ヲ拔キ指導的地位ニ立テツツアルモノノ如シ

四、從來「ソヴィエト」聯邦政府ハ共產黨又ハ第三「インターナショナル」ナルモノハ政府ト何等

關係ナキ團體ニシテ政府トシテ私的團體ノ行動ニ付責任ヲ負フコトヲ得スト主張ス蓋シ「ソヴィエト」聯邦政府トシテハ尠クトモ形式上ハ前記兩團體ノ行動ニ付直接關知スル所ニ非スト爲シ得ヘキヲ以テ右ノ主張モ同政府ノ表面上ノ主張トシテハ一應ノ根據ヲ有スルモノトモ見ルヲ得ヘシ

第二編 共産「インターナショナル」ノ補助機関

支那共産第一支部「インターナショナル」ノ補助機関

支那共産第二支部「インターナショナル」ノ補助機関

支那共産第三支部「インターナショナル」ノ補助機関

支那共産第四支部「インターナショナル」ノ補助機関

支那共産第五支部「インターナショナル」ノ補助機関

支那共産第六支部「インターナショナル」ノ補助機関

支那共産第七支部「インターナショナル」ノ補助機関

第二編 共産「インターナショナル」ノ補助機關

第一章 赤色職業組合「インターナショナル」

(略稱「プロフィンテルン」)

Красный Интернационал Профсоюзов (Пролитерн)

Internationale Syndical Rouge.

Die Rote Gewerkschafts-Internationale.

第一節 概 説

「コミンテルン」ノ活動ヲ益々適切、確實ナラシムル爲設ケラレタル各種「インターナショナル」ノ中ニテ「プロフィンテルン」ハ其尤ナルモノナリ。「プロフィンテルン」ハ各産業別ニ労働者ノ團體ヲ組織シ之ヲ以テ一ノ職業組合ヲ作り各職業組合ヲ糾合シテ單一ノ國際的團體トナシ各組合ノ中ニ宣傳ヲ行ヒ以テ共産主義及「プロレタリア」獨裁ノ實現ヲ期セントスルモノニシテ一九二八年四月第四回大會ニ於テ會費徴收豫算豫定表ニ掲ケラレタル加入國及所屬員數ハ左ノ如シ(尤モ大會ニ代表者ヲ出席セシメザル國ハ五十個國ニ達セリト)

大亞爾然丁 七千
 漢 十二萬
 英 七十萬
 伯刺西爾 四萬
 洪牙利 五千
 「ベネズエラ」 千二百
 獨逸 百萬
 希臘 六萬
 丁抹 二千
 「インドネージャ」 二萬五千
 伊太利 一萬二千
 加奈陀 一萬
 支那 三百萬
 「コロンビヤ」 六萬
 朝鮮 三萬

玖馬 十萬
 「ラトヴィア」 八千
 墨西哥 九萬三千
 蒙古 七千
 諾威 三萬三千
 祕露 二萬
 葡萄牙 四千
 波蘭 九萬五千
 米國 三十八萬八千
 蘇聯邦 千〇二十萬
 「ウルグアイ」 四千五百
 佛蘭西 五十二萬五千
 智利 五萬
 「チリコ、スロヴァキア」 二十一萬

瑞 典

八萬

「エストニア」

三千

「ユーゴ、スラヴィア」

二萬一千

日 本

八千

「グアテマラ」

八百

ニシテ合計三十四個國ノ職業組合コレニ加ハリ全員千六百九十二萬三千五百人ニ達シ侮り難キ勢カヲ有ス

本部ヲ莫斯科ニ有シ、全聯邦共產黨幹部員、全聯邦職業組合中央評議會議長ニシテ「コミンテルン」幹部員タル「ロゾフスキー」之ヲ主宰シ「プロフィンテルン」ト「コミンテルン」其ノ他トノ關係ハ頗ル密接ナリ

大戰後平靜ニ歸シタル世界ニ對シテハ「コミンテルン」ノ活動ヨリモ「プロフィンテルン」ノ活動ノ方カ實行性ニ富ムヲ以テ現在ハ「プロフィンテルン」ノ時代ニ推移シツツアリト認メラレツツアリ、而シテ「プロフィンテルン」ハ共產主義ノ祖國タル「ソヴィエト」聯邦ト反對ナル「アムステルダムインターナショナル」ノ勢力ヲ打破セントシタルモ優勢ナル「アムステルダム」派ト正面ヨ

リ争フコトハ却テ不利ナルヲ覺リ最近ハ「アムステルダム」派ニ屬スル職業同盟ヲ内部ヨリ切崩スノ方針ヲ執リ各國ノ凡有少數派(過激分子)運動ヲ支持シ漸進的ニ目的ヲ達セントシツツアリ、大會ニ於テ選舉セラルル中央評議會其活動ノ指導機關タリ。機關雜誌「プロフィンテルン」及ヒ國際労働運動等ヲ發行スル外各國語ヲ以テ翻譯セル「パンフレット」ヲ頒布シ全世界ノ労働者ヲ「プロフィンテルン」ノ統制下ニ置カント努力シツツアリ

第二節 「プロフィンテルン」ノ成立

抑々赤色職業組合「インターナショナル」(「プロフィンテルン」)ノ設立ナル考ハ一九一九年十一月革命直後ニハ存在セズ、コノ考ノ發達シタルハ、共產「インターナショナル」(「コミンテルン」)ノ成立以來餘程後ノコトナリ。當時一般労働運動ノ流れニ於テ(一)「ロシア」労働組合運動ノ復活(二)「コミンテルン」ノ發生ハ顯著ナル出來事ニシテ「ロシア」労働組合運動ノ確立スルヤ國際的ニ労働組合ヲ如何ニ取扱フヤノ問題ニ直面セリ

一九二〇年「コミンテルン」第二回大會「モスクワ」ニ開會セラレタルガ「コミンテルン」ハ労働階級及革命的ナル知的労働者ヲ糾合シ一ツノ國際的闘争機關ヲ創立スルコトヲ決議セリ當時「コミンテルン」ハ「アムステルダム、インターナショナル」ノ日和見的態度及階級協調主義ニ慚

タラザリシ折柄「モスクワ」ニ歐洲諸國ヨリ労働組合ノ代表者例ヘハ英國ノ Robert Williams 伊國ノ D'Aragnas, Colombino 等參集シ居リシヲ以テ之ニ全露労働組合中央評議會ノ代表者ヲ加ヘ六月十五日ノ會議ニ於テ共產主義的傾向ヲ有スル國際職業組合ノ建設ニツキ協議セシメタリ、七月十五日遂ニ「ロシア」労働組合、「イタリー」労働同盟、「スペイン」、「ユーゴースラヴ」及「ブルガリア」ノ諸組合ノ間ニ一致點ヲ見出セリ即「アムステルダム、インターナショナル」ノ政策及戰術ニ不滿ナルコト、「プロレタリア」專制及社會革命ノ爲ノ闘争ヲナスタメ總テノ革命的労働組合ヲ糾合スベシト云フニアリキ、斯クテ一九二〇年七月一個ノ「職業別及産業別諸組合ノ國際評議會」ナル宣傳中心ヲ設立セリ、而シテ其翌年一九二一年七月三日ヨリ十九日ニ互リ莫斯科ニ開カレタル第一回大會ニ於テ赤色職業組合「インターナショナル」(略稱「プロフィンテルン」)ナル名稱ヲ附セラレタリ

尙ホ同創立大會ハ「プロフィンテルン」ノ加入條件トシテ次ノ諸條件ヲ舉ケ革命的階級的經濟團體ニシテ之ニ服スルモノハ總テ加入ヲ認ムルコトニ決定セリ

- 一、革命的階級的闘争ノ主義ヲ認ムルコト
- 二、常ニ右主義ヲ實行シ資本主義及「ブルジョア」國ト戰フコト

三、社會革命ヲ以テ資本主義ヲ顛覆シ過渡期ニ於テ「プロレタリア」ノ獨裁制度ヲ樹立スルノ必要ヲ認ムルコト

- 四、「プロレタリア」ノ國際的規律ヲ認メ之ニ服従スルコト
- 五、「プロフィンテルン」創立大會ノ決議ヲ認メ之ヲ實行スルコト
- 六、「アムステルダム、インターナショナル」ト斷絶スルコト
- 七、「ブルジョア」階級ト戰フ爲ニハ攻守共自國內ノ凡有革命團體及共產黨ト一致協同スルコト

第三節 「プロフィンテルン」ノ組織

第一款 大 會

「プロフィンテルン」ノ最高機關ハ「プロフィンテルン」大會ナリ

大會ハ一年一回開會シ「プロフィンテルン」ニ加入スル各國職業組合ノ代表ヲ以テ組織セラル、其召集期間ハ「プロフィンテルン」ノ執行局ニテ決定ス、大會ハ戰略、戰術、組織問題ヲ決定シ、又「プログラム」及條例ヲ變更スルコトヲ得

大會ハ「プロフィンテルン」中央評議會及執行局ヲ選任ス

各國職業組合ヨリ「プロフィンテルン」大會ニ出席スル議員ハ次ノ方法ニ依テ行ハル

「プロフィンテルン」ノ「プログラム」ヲ實行スル各國ノ職業組合ニシテ一萬人以下ノ組合員ヲ有スルモノハ評議權ヲ有スル一名ノ代表ヲ派遣ス（例ヘバ朝鮮ノ如シ）一萬人以上二萬五千人迄ノ組合員ヲ有スルモノハ一名ノ決議權ヲ有スル代表ヲ派遣ス（例ヘバ日本ノ如シ）二萬五千人以上五萬人迄ハ二名ノ決議權ヲ有スル代表ヲ派遣ス
十萬人以上二十五萬人迄ハ四名ノ決議權ヲ有スル代表ヲ派遣ス
二十五萬人以上ハ四名ノ外二十五萬人毎ニ一名ノ代表ヲ増加ス

第二款 中央評議會

中央評議會ハ各大工業國ヨリノ代表者二名及全聯邦職業組合中央評議會ヨリノ代表者四名ヨリ成リ（委員九十五名委員候補十八名）「プロフィンテルン」ハ中央評議會ノ指揮ニ服シ同評議會ハ一年二回召集セラル

第三款 執行局

同中央評議會ニ於テ執行局員ヲ任命ス、執行局ハ七名ヨリ成リ其中二名ハ「プロフィンテルン」ガ其本部ヲ有スル國即「ソヴィエト」聯邦ヨリ選任ス。「プロフィンテルン」ノ本部ハ「モスコウ」ニ在リ、「プロフィンテルン」ノ書記長ハ其創立以來「ソヴィエト」聯邦共產黨ノ有力者ニシテ全聯邦

職業組合中央評議會議長タル「ロゾフスキー」ナリ

執行局員ハ一九二六年「フシア、モスクワ」ノ掲載スル所ニ從ヘバ全聯邦共產黨員ノ外英（アリスン）、獨（ラデッキー）、佛、伊、日本（谷某）「オランダ」、「チエコスロワキヤ」諸國ノ主義者ヨリ成リ而モ全聯邦共產黨側ノ本部員ハ前記「ロゾフスキー」ノ外露國ノ大統領トモ稱スベキ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會長「カリニン」露西亞社會主義聯邦「ソヴィエト」共和國中央執行委員會幹部會員「ドガードフ」中央利權會議委員「レブセ」「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦中央施行委員會委員「メリニチヤンスキー」等ナリ

因ニ「ロゾフスキー」ノ經歷ニ就キ略述スレバ左ノ如シ
露國共產黨ハ元ト露國社會民主勞動黨ト稱シ勞動者ヲ本位トシタルカ今尙ホ大體ニ於テ之ヲ本位トセリ露國ニ於テハ今モ亦昔ト同シク勞動者ヲ指導スルノ局ニ當ル者ハ依然猶太人ニシテ現ニ「コミンテルン」ノ分派タリ又ハ其機關トシテ世界各國ノ勞動者ヲ引率指揮スル「プロフィンテルン」ノ書記長ハ露國知名ノ猶太人「ロゾフスキー」ニシテ又露國共產黨（聯邦共產黨）ノ分派タリ又ハ其ノ機關トシテ聯邦内ノ勞動者ヲ引率指揮スル全露勞動組合長モ亦同國知名ノ猶太人「トムスキー」トス「ロゾフスキー」ハ「トムスキー」ト同シク働キ盛リノ名物男ニシテ現ニ

此間「モスクワ」ニ於テ開カレタル第四回「プロインテルン」大會ハ「ロゾフスキ」誕生五十年祝賀式ヲ舉行シタリ「ロゾフスキ」ハ千八百七十八年三月二十九日ニ生レ十四歳ノ時鍛冶屋ノ徒弟トナリテ二十歳マテ鍛冶職ニ従事シ其餘暇ニ獨學シテ以テ二十三歳ノ時文部省ノ檢定試験ヲ受ケテ及第シ其前ニ於テ當時秘密結社タリシ社會民主黨ニ加ハリテ黨ノ爲メニ奔走活動シタル爲メ千九百三年一時拘引セラレタルコトアリシカ其後千九百五年革命運動ニ従事シテ勞働者ヲ指揮シタル爲メ更ニ再三拘禁ノ身トナリ千九百六年ヨリ千九百八年マテ「ハリコフ」監獄ニ投セラレ千九百八年ノ末外國ニ出奔シテ其當時巴里ニ在リタル露國社會民主労働黨「ボリセヴィキ」支部ノ部員トナリテ責任アル役目ヲ演シ尙ホ其後「アントノフ」「オフセンコ」及「ウラジミール」等ト共ニ千九百十二年ヨリ千九百十三年マテ「労働生活」「従業員生活」其他諸機關紙發行ニ従事シ一時猶太従業員機關紙「猶太労働者」ノ主幹ヲ勤メ歐洲大戰ノ際ニハ巴里ニ在リテ佛國労働運動ニ従事スル主義者革命分子ト始終聯絡ヲ保チ千九百十七年露國二月革命後佛國労働者ヲ煽動シ同年六月露國ニ歸リテ同年開カレタル第三回全露労働組合大會ニヲナシテ佛國労働者ヲ煽動シ同年六月露國ニ歸リテ同年開カレタル第三回全露労働組合大會ニ於テ全露労働組合理事ニ選ハレ千九百十八年三月露國社會民主労働黨中央委員會長トナリタリ

「ロゾフスキ」ハ千九百二十七年七月十五日ニ其端ヲ發シタル國際労働聯盟創立者ノ一人ニシテ同聯盟ハ千九百二十一年ニ開カレタル第一回國際労働聯盟大會ニ於テ職業組合赤色「インタナショナル」「プロフインテルン」ト改稱セラレタリ「ロゾフスキ」ハ千九百二十一年五月ヨリ「プロフインテルン」ノ書記長「ゼネラルセクレタリー」トナリ千九百二十二年六月及千九百二十五年巴里ニ開カレタル労働會議及千九百二十二年「アムステルダム」「インテルナショナル」ノ主宰ニ係ル海牙ニ於ケル萬國労働會議千九百二十七年漢口ニ開カレタル太平洋労働會議ニ出席シタリ「ロゾフスキ」ハ現在「プロフインテルン」ノ書記長タルト同時ニ全聯邦共産黨幹部員、共産「インタナショナル」幹部員、全聯邦職業組合本部員、「ロシア」社會主義聯邦「ソヴィエト」共和國中央執行委員會委員、共産黨大學院委員等ノ要職ヲ兼ヌ

(千九百二十八年三月三十日「イズウエスチャ」)

執行局ノ下ニ中部歐洲局「ラテン」局「ブリタニア」局太平洋局アリ

太平洋局ハ一九二七年五月二十六日ニ組織セラレ左ノ五名ノ委員ヨリ成ル

秘

書

「プロウデル」

補

佐

「アブレン」

委員(西田)

「ニシダ」 日本

「シユシウチエン」 支那

「ガルデン」 濠洲

其任務トスル所次ノ如シ

一、太平洋沿岸各國ニ於ケル戦争ノ危険ヲ回避スル爲ノ共同戦線ヲ構成スルコト

二、支那革命ニ對スル帝國主義的脅迫ニ反對スルコト

三、太平洋全被壓迫民族ヲ帝國主義ノ羈絆ヨリ解放スル爲ノ援助ヲナスコト

四、搾取壓迫階級ノ利益ノ爲ニ分割セラレ居ル被搾取被壓迫階級ノ人種的民族的偏見ヲ一掃スル

コト

五、被壓迫民族及被搾取階級ノ協同戦線ヲ構成スルコト

六、職業組合運動ノ世界的統一及職業「インターナショナル」ノ組合ヲ組織スルコト

執行局ノ下ニハ尙書記部國際宣傳部組織部行政經濟部調査部ノ各機關アリ

書記部ハ「プロフィンテルン」日常ノ政治業務ヲ管掌スル重要機關ニシテ書記長ハ「ロゾウスキー」

ナリ

千九百二十八年四月十二日「プロフィンテルン」執行局ハ書記局ノ構成ヲ認可シタリ同書記局ハ左ノ人名ヨリ成ル

「ロゾフスキー」

「ガクケルト」

「アペリタ」

「ガール」

「ドゼルマケツト」

「デロベリ」

「ヤグロム」

(四月十四日「イズウエスチャ」)

國際宣傳部ハ機關雜誌赤色職業組合「インターナショナル」ノ編輯出版部ヲ管理ス

第四節 「プロフィンテルン」第一回大會

第二節ニ述ヘタル如ク一九二一年七月三日ヨリ十九日迄開催セラレタル「プロフィンテルン」第一回大會ニハ四十二ヶ國三百八十名ノ代表參列シ當時「プロフィンテルン」ノ傘下ニ屬スル勞働者

ハ千數百萬人ヲ以テ算シタリ、同大會ニ於テ「コミンテルン」及共產黨ノ行動上ノ統一ト協力ノ
絕對必要ナルコトヲ力説シ

一、資本主義ノ撲滅ト「プロレタリア」ノ獨裁建設ヲ決議シ

二、舊キ改良主義的勞働組合ニ對スル態度トシテハ「組合ヲ破壊スルコト勿レ、之ヲ占領セヨ」
ト宣言シ

三、「イタリー」勞働總同盟ノ曖昧ナル態度ニ對シ斷乎タル反對ヲ表明シ

四、「コミンテルン」第三回大會ニ採用サレタル綱領ト完全ニ一致スル行動綱領ヲ作成セリ、其根
本精神ハ資本主義ニ對スル大衆ノ鬭争ヲ必要トスト云フニ在リ

五、近東、中東及極東ニ於ケル組合運動ニ對スル決議ニ於テ大會ハ人種的偏見ヲ階級的憎惡ニ轉
換スルコト及大衆ヲシテ社會革命ヲ理解セシムルコトノ必要ナルヲ力説セリ

六、「プロフィンテルン」ノ活動ニ關スル「プログラム」ヲ定メタルカ右「プログラム」ハ次ノ如
ク收約スルコトヲ得

(a) 「プロレタリア」獨裁ノタメニハ如何ナルコトヲ爲スモ敢テ辭セズ

(b) 一般ニ改良主義者ニ反對ス殊ニ「アムステルダム、インターナショナル」ニ反對ス

(c) 國際聯盟ノ國際勞働事務局ニ反對ス

(d) 「ブルジョア」ト親マントスル企圖ニハ總テ反對ス

(e) 革命的宣傳ヲ行フ

第五節 「プロフィンテルン」第二回大會

「プロフィンテルン」第二回大會ハ一九二二年十一月開カレタルカ特ニ次ノ問題カ注意ノ焦點トナ
レリ

一、共同戰線

第二回大會ニ於テハ共同戰線ノ戰術ニ付テハ最早論ゼラレズ如何ニシテコレヲ實現スベキカ又
如何ナル問題ノ上ニ勞働者ノ注意ヲ集中シ如何ナル具體的問題ヲ宣傳ト煽動ノ第一位ニ置クベ
キカラ討論セリ

二、勞働組合運動ノ統一

「プロフィンテルン」ハ勞働組合運動ノ分裂ヲ防カンカタメ幾度モ「アムステルダム」「インター
ナショナル」ニ書ヲ送り衝突中止ヲ提議シタルモ常ニ成功セザリキ從ツテ「プロフィンテルン」ハ
單ニ資本ニ對シテ鬭争スルノミナラズ、「アムステルダム」派ニ對シテモ争ハザル可ラザルヲ認

三、無政府主義的「サンデカリスト」ト「プロフィンテルン」トノ關係

第一回大會後無政府主義的「サンデカリスト」ノ團體ハ其採用セラレタル決議ニ對シ殊ニ「プロフィンテルン」ト「コミンテルン」トノ間ノ密接ナル結合ヲ定メタル決議ニ對シテ辛辣ナル批判ヲ始メタリ其頭目ハ佛國ノ「サンデカリスト」ニシテ、別ニ「インターナショナル」ヲ作り出サンコトヲ主張セリ、コノ傾向ハ獨逸ノ「ロカリスト」「イタリー」「スエーデン」「オランダ」ノ「サンデカリスト」等ノ中ニモアリタリ。サレド又「サンデカリスト」ノ中ニモ「コミンテルン」ト一致セントスル傾向モアリタリ

仍ツテ第二回大會ニ於テハ改良主義及資本主義ニ對スル闘争ニ於テ「サンデカリスト」ト共同戦線ヲ張ランカ爲讓歩シ革命的「サンデカリスト」ト一團トナルコトトセリ

第六節 「プロフィンテルン」第三回大會（「イン、ブレ、コール」一九二

四年五月二十四日所載）

「プロフィンテルン」第三回大會ハ一九二四年七月五日莫斯科ニ於テ開會スルコトニ決シタルガ「プロフィンテルン」書記長「ロゾフスキー」ヨリ「プロフィンテルン」所屬ノ總テノ團體ニ宛テ左記

ノ如ク通知セリ

大會ノ議事日程ハ次ノ通補足セラレ議事日程各個ノ問題ニ對スル報告者及報告者補佐モ決定セリ

議事日程

- 一、「プロフィンテルン」執行局ノ事業報告（報告者、同志「ロゾフスキー」）
- 二、革命的労働組合ノ最近ニ行フベキ緊急使命（報告者、同志「ロゾフスキー」）
- 三、八時間制ヲ世界中ニ實施セシメンガタメノ闘争（報告者、「ヘツケルト」）
- 四、労働組合ト工場委員會（報告者、同志「ニン」、報告者補佐、獨逸國內ニ在ル各種ノ工場委員會ノ代表者及佛國ノ同志「エルクレ」）
- 五、革命的労働組合ノ職業組合「インターナショナル」ニ對スル態度（報告者同志、「ジュセフオウイチ」報告者補佐、同志「セマール」）
- 六、罷業ノ戰略（報告者、同志「モンムーソウ」、報告者補佐米國ノ同志「フォステル」及獨逸ノ代表者）
- 七、組織上ノ建設（反對派ノ組織形式、獨立セル各種團體ト反對派中ニ在ル少數派トノ相互關係及組合ノ統一問題）（報告者ハ未定ナリ、本問題ニ關スル材料ヲ準備スベキ委員任命セラレタ

リ)

八、英國ニ於ケル「プロフィンテルン」所屬者ノ使命(報告者、同志「トム、マン」報告者補佐、同志「カルニン」)

九、植民地、半植民地即、英領印度、埃及、「アルゼリー」、蘭領印度、支那、印度支那、朝鮮其他ニ於ケル「プロフィンテルン」ノ使命(報告者同志「ヘラー」報告者補佐同志「セマオエン」)

一〇、農民「インターナショナル」ト農業労働者ノ組合(報告者同志「チルコフ」及「ドムバル」)

一一、労働組合ト産業組合(報告者、同志「ベツテル」及「タスカ」)

一二、「ロシア」労働組合運動ニ關スル報告(報告者、同志「トムスク」)

一三、移民問題(報告者、同志「ロカモン」)

一四、「ファシスト」的労働組合ニ對スル戰鬥(本問題ハ大會ニ於テ組織セラルル委員會ニ於テ論議セラルベシ)

報告者ハ皆報告ヲ面書ニ纏メラレ、執行局ニ提出セラレタシ

莫新科 一九二四年四月二十五日

「プロフィンテルン」書記長 「アー、ロゾフスキー」

一九二二年第二回大會ト第三回大會トノ間一九二三年六月二十五日ヨリ七月二日ニ互リ開カレタル「プロフィンテルン」中央評議會第三回會議ニ於テ本第三回大會ニ對スル準備トモ見ル可キ幾多ノ決議ヲナシタルガ其中主ナルモノ左ノ如シ(「イン、ブレ、コール」所載)

第三回「プロフィンテルン」中央評議會ノ決議及命令

(イ) 各國ニ於ケル「プロフィンテルン」ノ代表機關ニ關スル決議

「プロフィンテルン」中央評議會ハ各國ニ於ケル「プロフィンテルン」ノ代表機關ノ組織、權限及活動ハ如何ニスヘキヤヲ明ニシタル後此等代表機關ノ完成及其活動範圍ノ擴張ニ深長ナル注意ヲ拂フコトヲ「プロフィンテルン」執行局ニ委任ス

各機關相互間ノ權限ノ關係及範圍ハ一一執行局ノ決定スル所トシ執行局ハ此等總テノ機關カ宣傳煽動ヲナスニ當リ又互ニ連絡シ、情報交換ヲ爲スニ當リ其權限ヲ越エシメサルコトニ注意セサル可カラス各機關ハ執行局ノ直轄下ニアリ其訓令ニ從ヒ行動スルモノトシ其活動範圍ノ擴張ハ執行局カ之ヲ必要ト認メタル場合ニノミ許サルモノトス中央會議ハ外國ニアル各代表機關ノ權限ヲ出來得ル限り正確ニ決定セル詳細ナル訓令ヲ作成センコトヲ執行局ニ委任ス

(ロ) 極東及近東ニ於ケル労働ニ關スル決議

一、一九二二年十一月—十二月ノ第二回「プロフィンテルン」大會ニ於ケル殖民地問題ニ關スル決議即「プロフィンテルン」ニ屬スル革命的地方機關及殖民地領有國（英、佛、米、日、和、伊、白耳義其他）ノ革命的少數派ハ殖民地ト労働組合トノ連絡ヲ保ツタメ特殊機關ヲ組織セサル可ラストノ決議ハ何處ニ於テモ實現セラレ居ラズ

中央會議ハ英、佛、米及和ノ同志ニ對シ前記特殊機關ヲ今ヨリ三ヶ月以内ニ組織スルノ義務ヲ負ハシム

此ノ特殊機關ノ具體的任務ヲ舉クレハ

(a) 新聞ヲ通シ、労働組合ノ會合ニ於テ又ハ特ニ會議ヲ催シテ労働大衆ノ全般ニ殖民地及半殖民ノ解放戰ニ對スル理解ヲ與ヘ且ツ彼等カコノ戰ニ如何ニ利害關係ヲ有スルヤヲ明示シ彼等ヲシテ常ニコノ點ニ注意ヲ怠ラサラシメ殖民地ノ本國ニ於ケル労働者ヲシテ帝國主義的觀念ヨリ解放シ、殖民地及半殖民地ノ戰闘的「プロレタリア」ト彼等トハ共通利益ヲ有スルコトヲ知ラシムルコトナリ

(b) 労働組合新聞及共產黨ヲ通シ或ハ總テノ有效ニ用キ得ル手段ヲ以テ煽動、宣傳ヲ殖民地ニ在ル歐洲人ノ労働者及被傭者間ニ行ヒ當該國ノ「プロレタリア」ノ味方トナシ戰モスレハ資

本ニ叩頭セントスル彼等ノ戰術ノ誤レルコトヲ指摘スルコトナリ

(c) 當該國人タルト歐洲人タルトヲ問ハス労働者及被傭者ノ全テノ階級ニ「同一労働ニ對シテハ同一報酬ヲ與フヘシ」トノ主義ヲ貫徹センカ爲メニハ國民性、男女ノ性及皮膚ノ色ノ如何ニ拘ラス、精神的方面並組織的方面ヨリ戰フコトナリ

二、英國ノ同志ハ此他尙ホ緊急ナル任務トシテ各國ノ船舶ニ乗込ミ英國ノ港灣ニ入り來ル印度水夫ノ間ニ啓明運動ヲ起シ諸機關ヲ組織セサルヘカラスコレ印度ニ於テ革命的ナル労働組合運動ヲ有效ニ支持シ得ル手段ナリ

印度ニアル英國「トレード、ユニオン」ノ勢力カ印度ニ侵入シ急速ニ發展スル危險アルヲ以テ前記英國ノ「プロフィンテルン」同志ノ責務ハ現實ニ頗ル重要ナリ

三、佛國ニ於ケル「プロフィンテルン」ノ機關ハ廣大ナル殖民地ヲ有スル諸國中最モ強大ナルモノニシテ殖民地問題ニ關シ其責任ハ特ニ重大ナリ、佛國労働總同盟カ今日迄ニナシ遂ケタル所ハ未タ頗ル貧弱不充足ニシテ僅ニ其端緒ニツケリト認メ得ルノミナリ、交代制度ト相併ンテ殖民地ノ土民労働者ノ間ニ當該地方ニ在ル「プロフィンテルン」ノ同志ハ組織的ニ且ツ間斷ナク活動セサル可カラス「アフリカ」ノ殖民地ノミナラス印度支那ニ於テモ手ヲ延ハササル可ラス「ブ

「ロフィンテルン」中央評議會ハ全部ノ佛國殖民ニ於ケル經濟狀態、職業ノ分派及ヒ勞働運動ニスル正確ナル報道ノ先ツ第一ニ「プロフィンテルン」ニ達センコトヲ期待ス

四、米國ノ同志ニ對シ太平洋上ノ最モ重要ナル地點タル「フィリッピン」ニ關シ右同様ノコトヲ要求ス

五、和蘭ノ同志ハ「インドネシア」ノ勞働運動殊ニ「ジャバ」ノ革命的勞働組合ト出來得ル限リ密接ニシテ有效ナル連絡ヲ保タサル可カラス

六、「スペイン」ノ同志ハ勞働運動ニ關スル仕事即チ啓明運動ト諸機關ノ組織トヲ「タンジール」ノ勞働者間ニ行ハサル可ラス

七、「アフリカ」ニ於ケル廣大ナル「ボルトガル」領殖民地ニ關シ參考資料ヲ蒐集スヘシ

八、殖民地ヲ有スル總テノ國並ニ殖民地ニ在ル吾人ノ同志ハ勞働運動勞働組合組織ノ現狀ニ關シ又其ナシタル事績ニ關シ定期的ニ「プロフィンテルン」ニ對シ報道セサル可ラス

(ハ) 勞働組合ノ新聞及文獻ニ關スル決議

中央評議會ハ「プロフィンテルン」ニ加ハレル總テノ機關ニ對シ其機關ニ屬スル者カ勞働組合新聞及文獻ヲ改善シ完成セン爲陳容ヲ備フヘキコトヲ提議ス、實際上ノ提案ヲ檢審シ必要ナル措置

ヲトルコトヲ執行局ニ委任ス

(ニ) 「プロフィンテルン」ノ將來ノ任務

(「ロゾウスキー」ノ報告ニ關スル決議)

一、世界ノ勞働運動ハ著ルシキ變化ニ直面シツツアリ即改良派の分子ハ漸次其勢力ヲ失ヒ大衆ノ活動ハ漸次其力ヲ増シツツアリ、コノ現象ノ最モ明ニ現ハレ居ルハ改良派ノ内部ニ在ツテ國際的勞働組合運動ハ左傾シ且「アムテルダム、インターナショナル」ノ内訌ハ激烈トナリツツアルコトナリ

二、コノ現象ハ勞働者ノ共同戰線問題ガ完全ニ拒絶セラレ「ルール」占領ニ際シ「アムステルダム、インターナショナル」ノ内部ニ國民主義的帝國主義的ナル矛盾セル說ノ行ハレタル結果並ニ「プロフィンテルン」ノ活動旺盛トナリタル結果ナリ

三、「プロフィンテルン」ニ加ハレル全機關ノ最モ注意スヘキハ戰爭ノ危險並ニ平和主義者ノ錯覺ニ對シテ戰フコトナリ、大衆ヲシテ帝國主義國家ノ國民主義的防衛ト「プロレタリア」國家ノ自己防衛トノ區別ヲ明ニ了解セシメサル可ラス、勞働階級ハ「ブルジョア」ニ對スル戰ニ於テ勞働階級ヨリ成ル「プロレタリア」國家ヲ防衛スルノ權利ト義務トヲ有ス、各國勞働者ハ其獨

立ノ爲ニ戦ヒツツアル労働者國家ヲ凡ユルカヲ以テ支持スルノ義務アリ

四、「ファシズム」ニ對シ及「ファシズム」カ労働組合ニ侵入スルコトニ對シテ極力抗争セサル可ラス、地方労働者及農民ハ「ファシズム」ニ心酔シ易キヲ以テ彼等ニ對シテハ特ニ注意ヲ拂ハサル可ラス「ファシズム」ト抗争スルニ當リ労働者百人組ヲ組織スルコト又ハ「ファシズム」横行ノ國家ヨリ亡命セル労働者ヲ團結セシムルコト特ニ緊要ナリ、コレニヨリ「ファシズム」ニ對スル戦闘隊ヲ漸次増加スルコトヲ得ヘシ

五、發生スヘキ戦争ノ危険並ニ「ファシスト」的反動スル戰ニ於テ勝算アラシメムカ爲ニハ共同戦線確立ニ没頭セサル可ラス、各方面ノ労働者カ共同戦線ニツクコトハ又資本ノ襲撃ニ對シ經濟上之ト戰フノ準備トナリ資本ニ對スル抗争團體ヲ組織スルノ前提トナルヘシ、共同戦線ハ先ツ第一段ニ於テ各國々ノ労働組合運動ノ統一ヲ招來シ一方國際的ニモ通用シ得ルモノナラサル可ラス、コノ原則ハ總テノ「プロレタリア」ニ了解セシメサル可ラス、此點ニ關シ最モ重要ナルハ如何ニシテ共同戦線ヲ組織スルカノ問題ナリ、之ニ對シ模範トナルヘキハ運輸労働者ノ國際會議ナリ

六、工場閉鎖ニ反對シ又被閉鎖労働者ノ就職ノ爲ニハ以前ヨリモ更ニ大ナル努力ヲ拂ハサル可ラ

ス、現在完全ニ存立スル労働組合ハ總テ分裂セル組合ノ糾合ノタメ盡力セサル可ラス
二ツノ労働組合ノ中心點カ併合スル國ニ於テ「プロフィンテルン」ニ屬スル労働組合ハ全労働組合運動ヲ統一セシメンカタメ絶ヘス盡力セサル可ラス、コレカタメニハ「プロレタリア」ノ意思尊重ナル主義ノ下ニ特別會議召集ノタメ擾亂ヲ勃發セシムルコト有效ナルヘシ

七、二ケノ労働組合組織ノ併存スル國々（佛、「チッコ、スロヴァキア」西班牙）ニ於テ改良主義者ヨリ排斥セラレタル労働組合ハ革命的労働組合ニ加入セサルヲ得サルヘシ、但シコノ場合ト雖モ吾人ト相容レ得サル改良主義團體中ノ分子ヲ革命的労働組合ニ加入セシム可ラス、若シ革命的労働者カ個人トシテ或ハ一團トシテ黄色労働組合ヨリ除外セラレタル時ハ被除外者ハ同黄色労働組合内ニアル革命的ナル少數派ノ全部ト協力シテ彼等ノ用キ得ル總テノ手段ヲ盡シテ其有スル限リノ努力ニヨリ被除外者ノ復歸ヲ計ラサル可ラス

八、工場委員會ノ未タ存セサル工場ニ於テ工場委員會ヲ設置シ又既ニ其存在スル場合ニハコレヲ革命的タラシムルコトハ現下ノ急務ナリ、工場委員會ヲ發達セシメ強力ナルモノトナスコトハ労働組合運動ノ統一ヲ再建スル最善ノ方法ナリ、工場委員會ハ其特殊ノ機能ヲ有スルコトヲ充分眼中ニ置カサル可ラス從ツテ労働組合ヲ其組織上工場委員會ニヨツテ置換ヘントスル企圖ハ

其如何ナル輕微ナルモノト雖モ斷然拒絕セサル可ラス

四二八

九、勞働階級ノ行フ經濟上及政治上ノ争闘ニ於テ工場委員會ハ常ニ重要ナル役割ヲ演スルモノニ

シテコノ役割ハ勞働管理問題ニ對シ大衆ノ注意ヲ向ケシメ得ルハ得ル丈愈々重大トナルナリ

一〇、社會問題ニ關シ種々ノ争議カ激烈トナルニ連レ罷業ノ形態及方決ハ重要ナル意義ヲ有ス、

「プロフィンテルン」カ多數ヲ占ムル國ニ於テモ亦少數ナル國ニ於テモ罷業ノ形態及方法ハ「プロフィンテルン」所屬員ニ於テ深長考慮スルヲ要ス、改良主義的勞働組合運動ノ指導者ハ常ニ罷業ニ反對ナリ、從ツテ革命的勞働者ハ資本家ニ對スル戰闘ニ從事スルノミナラス、「サヴォタ―ヂ」的ナル官僚勞働者ニ對シ戰ハサル可ラス、斯カル狀態ナルヲ以テ罷業戰術ヲ完成スルコトハ非常ナル意義ヲ有スルコトナリ、當該企業ノ所在國市場並世界市場ニ於ケル地位ヲ考慮ニ入レ、企業家ノ反抗力ヲ冷靜ニ測定シ勞働者ノ戰闘能力並忍耐力ヲ考量スルコトハ經濟戰ニ於テ勝利ヲ得ルノ前提ナリ

一一、多數ノ國々ニ於テ勞働組合ヲ純粹ナル職業機關ヨリ國家全體ノ産業上ノ機關ニ變更スルコト及同業組合ニ對スル反對及勞働組合運動ノ分裂阻止ノ企圖ハ頗ル遅々トシテ行ハレツツアリ而モ各勞働組合ノ組換及類似セル勞働組合ノ合同ハ巧ミニ組織セラレタル企業運動ニ對シ有效

ニ戰ハンカタメニハ是非トモ必要ナリ、我我ノ側ニ於テ組織上缺クル所アル場合ニハ假借ナクコレカ補足ヲナササル可ラス、コノ問題ニ關シ「プロフィンテルン」大會ニ於テ決定セル決議ハ忍耐強クコレカ實現ニ努メサル可ラス

一二、種々ナル國籍及人種ノ勞働者ノ居住スル國ニ於テハ「プロフィンテルン」ニ屬スル者ノ任務ハ全部ノ勞働者ヲ一ケノ勞働組合ニ合流セシムルコトナリ

「ブルジョア」的國民主義ハ勞働者ニ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ當該國ニ於テ多數ヲ占ムル國籍ノ所有者ニシテ「プロフィンテルン」ニ屬スル者ハ革命的ナル種々ノ異國籍人間ニ於ケル微細ナル意見ノ相違ニモ特別ナル注意ヲ向ケサル可ラスカカル國ニ於テハ些細ナル争ガ國民的軋轢ノ原因トナリ得ルナリ、「プロフィンテルン」ニ屬スルモノハ常ニ被壓迫民族ニ對シテハ注意深ク且妥協的態度ヲトラサル可ラス、外見の革命主義又ハ假設「インターナショナル」主義ノ背後ニハ純然タル國家主義的傾向ノ穩セラレ居ルコト屢々ナルヲ以テコレニ對シテハ斷乎トシテ戰ハサル可ラス

一三、「ブルジョア」カ其殖民地及半殖民地ニ勢力ヲ有スル國ニ於ケル勞働組合ノ使命ハ特ニ重大ナリ、カカル國ニ於テ帝國主義的政策ノ破壞ハ如何ナル範圍ニ於テ又如何ナル速度ヲ以テ殖民

四二九

地ノ被壓迫大衆カ革命的勞働組合ニ引入レラルルヤニヨリテ決セラル、サレハコノ國ニ於テ「プロフィンテルン」ニ屬スルモノハ大衆ニヨル擾亂ヲ起シ宣傳ヲナシ大衆ヲ勞働組合ニ加入セシメンカタメ團體組織ノ計ヲ立ツルノ義務アリ、サレト上記ノ劃策ヲナスニ當リテハ其殖民地ノ本國ニ於ケル當該勞働組合ノ指令ニハ從ハサル可ラス

一四、全部ノ革命的勞働組合ヲシテ當該産業「インターナショナル」ニ加ハラシメンカ爲メニハ絶エス其促進ニ注意セサル可ラス、各産業ニ對シ單一ナル「インターナショナル」ヲ創設スルコトハ國際宣傳委員會ノ最重要ナル仕事ナリ、但シ各種ノ異ナレル勞働組合ノ出席ヲ得テ大會ヲ開キ各産業毎ニ統一セル（遠慮ナク階級闘争ヲ敢行スル）「インターナショナル」設立セラレタル時國際宣傳委員會ハ解散セラレサル可ラス

一五、「プロフィンテルン」ノ「アムステルダム、インターナショナル」ニ對スル態度ニハ變化ナシ、即チ從來通り最モ決然タル態度ヲ以テ少シノ遠慮モナク改良主義ノ理論及ヒ實際ヲ攻撃シ「アムステルダム、インターナショナル」ノ行フ勞働階級ノ共同動作ニ反對シ又一方吾人ハ以前ト同様勞働階級ノ敵ニ對シ共同戦線ヲ張ルタメニハ何時タリトモコレニ同意スルノ用意アリ、「プロフィンテルン」ハ將來「アムステルダム、インターナショナル」及ヒ「アムステルダム、イ

ンターナショナル」カ拒絕シタル場合ニハコレニ加擔セル勞働組合ヲ世界ノ反動運動ニ對スル共同策動ニ加ハラシメンカタメ爲シ得ル總テノコトヲ爲ササル可ラス、コレカタメノ最良手段ハ「プロフィンテルン」カ「アムステルダム、インターナショナル」ト協同シテ招集スル國際勞働會議ヲ開催スルコトナリ

一六、中央評議會ハ運輸勞働者國際同盟ト「プロフィンテルン」ノ理論ヲ基礎トシテ立テタル運輸勞働者聯盟トノ間ニ締結セラレタル協定ニ對シ満足ノ意ヲ表ス、且ツ「プロフィンテルン」ニ加入セル總テノ勞働組合ニ對シ大衆ヲ味方ニ引入レ統一セル有力ナル革命的國際勞働組合運動ヲ實現スルハタタコノ方法ニヨリテノミ可能ナリトノ確信ヲ以テ總テノ産業ニ於テモ類似ノ會議ヲ招集シ、類似ノ協定ヲ締結センカタメ努力センコトヲ要求ス

(ホ) 日本ノ革命的勞働者ニ與フ

「プロフィンテルン」中央評議會ハ日本政府ノタメ牢獄ニ投セラレタル革命的ナル日本勞働組合ノ勞働者ニ對シ同情ヲ表ス日本ノ革命的勞働者多數ニ對スル迫害ハ非常ニ慘酷ヲ極メタリ、裁判所警察及軍隊ノミニテハ勞働運動ヲ彈壓スルニ不充分ナルカ如シ

日本ノ資本家ハ故意ニ又政府ノ支持ヲ受ケテ至ル所ニ「ファシスト」的團體ヲ組織シ勞働者ニ打

撃ヲ與ヘ且ツコレヲ殺シツツアリ

政府ハ議會ニ於テ革命取締法ヲ通過セシメ得サリシヲ以テ專斷主義ト「ファシスト」的暴力主義トヲ認メタリ

日本ノ労働階級ハ階級戦ニヨリ進路ヲ誤ラス戦フヘキコトヲ決議セリ

欺瞞モ脅嚇モ彼等ノ進路ヲ變更セシムルコト能ハサルヘシ労働者ハ日本ニ於テモ亦其主張ヲ貫徹シ彼等ノ指導者ヲ釋放スヘク迫ルヘシ

(ヘ) 「ロシア」労働組合ノ現状ニ對スル決議

(「トムスキー」ノ報告ニ對スルモノ)

「プロフィンテルン」中央評議會ハ大ナル喜悅ト満足トヲ以テ「ロシア」労働階級ノ現状ハ何レノ點ニ於テモ確實ニ改善セラレタルコトヲ確認ス、此労働階級コソ革命ニ從事シ世界ヲ敵トシテ犧牲的ニ戦争ニ從軍シ自己ヲ顧ミス忍耐強ク戦ヒ未曾有ナル功績ヲ立テタル労働階級ナリ

中央評議會ハ「ロシア、プロレタリア」ニ對シ親好ナル友情ヲ披瀝スルト同時ニ各國ノ被搾取階級ハ「ロシア、プロレタリア」及ヒ其ノ組織スル労働組合ト強固ニ結合シ離ル可ラサル關係ニアルコトヲ確信ス、全世界ノ革命的労働組合ハ(労働階級ニ日毎ニ勢力ヲ増シツツアルガ)「ロシ

ア」プロレタリア」ト相併ンテ進撃シ全世界共産主義ノ最後ノ勝利ヲ來スマテ戦フヘキコトヲ誓約ス

(ト) 米國労働組合運動ニ對スル決議

一、「プロフィンテルン」中央評議會ノ第一總會ハ北米合衆國及「カナダ」ニ於ケル労働組合運動啓蒙同盟ノ目覺シキ發展ニ全然満足ノ意ヲ表ス、本總會ハ米國ノ組織労働者ノ大衆ノ中ニ右同盟トノ合同ニ對シ又右同盟ノ主張全部ニ對シ同情ヲ捷チ得タルコトヲ多トス、更ニ本總會ハ此傾向ヲ具體的ニ組織セラレタル形ニ迄結晶セシムルコトヲ希望シ併セテ右同盟トシテ最モ緊急ナルハコノ順調ナル氣運ノ逃避ヲ免ルルコトニシテコレカ爲ニハ是非トモ右結晶ヲ實現セサル可サルコトヲ宣言ス

二、中央評議會總會ハ右同盟カ各種ノ異レル産業別ニ從ヒ特別ナル團體ヲ作り團體委員會ヲ設定セル功績ヲ認ム、本總會ハ右委員會ニ對シ「プロフィンテルン」ノ當該國際宣傳委員會ト連絡ヲトルヘキコトヲ薦ム、本總會ハ更ニ各産業ニ於ケル爭議ノ前衛後援ノタメ特別ノ宣傳ヲ行フヘキコトヲ認ム、例令ヘハ労働者管理ノ下ニ於ケル鑛業ノ國有化ヲ來タサンカタメ鑛山労働者ノ間ニ宣傳ヲ行フ場合ノ如シ

「プロフィンテルン」第三回大會ノ結果ニ付「ロゾフスキー」ノ發表セル所左ノ如シ（「インブレ
コール」一九二四年八月二日）

本大會ハ先頃開カレタル「コミンテルン」第五回大會ニ於テ根本方針決定セルヲ以テ其會議進
行ハ容易ナリキ、サレド之等根本方針ノ中ニ於テ實際問題ヲ解決スルノ艱難ニ逢ヘリ

第三回大會ハ原則的ナル決議ヲナスノミナラズ更ニ前大會ニ於テ決定セル原則ノ實行ニ移ラサ
ルヲ得サリキ、即労働組合ハ多種多様ニシテ各國ノ狀勢ヲ研究シ「プロフィンテルン」加盟團體
ニ對シ仕事ノ實際方法ニ關シ指令ヲ與ヘサル可ラサリシナリ

第三回大會ハ個々ノ問題ニ關シテハ先ツ八時間労働制制定ノ爲ノ闘争方法ヲ案出シ
工場委員會ノ爲ノ闘争ヲ決定シ

國際宣傳委員會ノ活動範圍ヲ確定シ職業組合「インターナショナル」統一成功ヲ見ル迄活動ス
ベシトナシ

植民地及半植民地ニ於ケル「プロフィンテルン」加盟團體ノ任務ヲ決定シ
罷業ノ戰術ヲ詳細ニ考察シ

農業労働者ト國際農民協議會トノ關係ヲ明示シ

消費組合ニ對スル労働組合ノ活動方針ヲ案出シ

婦人運動青年運動ニ關スル特別決議ヲナシ、労働組合ト労働者運動トノ關係ヲ論シ、移民間ニ
活動スベキ必要ヲ力説シ

「ファシズム」トノ闘争方法ヲ定メ

次デ大會ハ各國ノ現狀判斷ニ非常ナル注意ヲ拂ヒ北米合衆國及加奈陀ニ在ル「プロフィンテル
ン」所屬團體ニ對スル詳細ナル「プログラム」ヲ採用セリ又西班牙、羅甸「アメリカ」、和蘭、
巴爾幹、「スカンデナヴィア」、白耳義ニ於ケル「プロフィンテルン」ノ將來ノ活動ニ關シ幾多ノ問
題ヲ解決セリ、殊ニ英國ニ於ケル「プロフィンテルン」同志ノ使命ニ就キテハ頗ル之ヲ重要視セ
リ、何トナレバ保守的ナル英國労働組合運動ハ其行詰リヨリ免レントシ同運動内ニ議論沸騰シ
其結果左傾的傾向ヲ示セルヲ以テナリ。此左傾分子ノ中ニ亦二三ノ流レアリ其態度最モ明瞭ナ
ルモノハ少數派運動ニシテ彼等ハ「プロフィンテルン」ト同一原則ノ上ニ立テリ第三回大會ハ
全労働組合運動ニ於テ「プロフィンテルン」同志ノ英國ニ於テ今後ナスベキコト及「プロフィン
テルン」同志ト英國労働大衆ニ深刻ナル影響ヲ與ヘツツアルモ而モ尙ホ未タ態度不明晰ナル左
翼トノ關係ヲ如何ニスベキヤヲ決定セリ

「チエコスロヴァキア」ニ於テハ革命的労働組合ハ改良主義的團體ヨリ分離セルガ同國ニ對シ第三回大會ハ労働組合ノ組織形態ニ關シ各種産業労働團體ノ同盟トスルカ或ハ單一ノ團體トシ其中ニ各産業労働團體ヲ置クカノ孰レカニ決セザルヲ得ザリキ、民族的ニモ政治的ニモ又宗教上ヨリモ複雑ナル「チエコスロヴァキア」ニ於テハ労働者間ニコレニ對スル反動起リ單一團體ノ創立ヲ希望セリ。大會ハ單一團體ニ關スル過酷ナル規則綱領ヲ修正セリ

サレド大會ニ於テ論議ノ中心トナリタルハ疑ヒモ無ク労働組合新聞運動ノ國家的並ニ國際的統一ノ問題ナリ、「コミンテルン」大會モ既ニ統一ノ必要ヲ主張セリ。第三回「プロフィンテルン」大會ハ舊來ノ方針ヲ更ニ確認セリ、從ツテ統一ハ労働組合運動ノ分裂ナキ國ニ於テノミナラズ、労働組合運動ノ既ニ分裂セル國例ヘバ佛國、「チエコスロヴァキア」其他ニ於テモ亦統一實現ノ爲ニ闘ハザル可ラズトナセリ、然ルニ此闘争ニ於テ改良主義者ハ常ニ「吾人ハ適法ニ存在スル労働者ノ團體ナリ諸君ハ吾等ニ參加スベシ」ト提議スルガ爲非常ナル困難ニ陥ルヲ常トセリ、於是第三回大會ハ佛國ニ於ケル革命的ナル労働組合總同盟 (C. G. T. U.) ガ改良主義的ナル労働組合ヨリモ多數ノ組合員ヲ有スルコトヲ考フレバ右ノ如キ提議ノ無意義ナルハ明ナリト主張シ、「プロフィンテルン」ノ所屬員ハ此提議ニ對シ次ノ如ク答フレバ足ルトナセリ「併存スル兩團體

ノ團員數ヲ基礎トシ比例代表ニ據リ大會ヲ招集シ多數ヲ占メタル一方ガ實權ヲ握ルコトトス」サレド改良主義者ハ今日迄斯クノ如キ「プロレタリア、デモクラシー」ヲ基礎トセル解決方法ヲ拒絕セリ、第三回「プロフィンテルン」大會ハ労働組合運動ノ各國ニ於ケル統一ヲ再興スルコトノ必要ヲ力説セルノミナラズ大會ハ更ニ之ヲ實際的ナル目下ノ日常事務ノ中ニ數ヘ舉ゲタリ第三回「プロフィンテルン」ハ併行セル二ツノ労働組合ノ存在スルコトハ「プロレタリア」ノ戰鬥能力ヲ弱ムルハ明ニシテ資本ノ攻撃ニ對シ根據アル強靱ナル抵抗力ヲ示ス能ハザルコトヲ敢テ公言シ「アムステルダム」派ノ維納大會ノ決議ヲ論題トセリ、同決議ハ「ロシア」労働組合ヲ「アムステルダム、インターナショナル」ニ加入セシメントスルモノニシテ其條件トシテ「アムステルダム、インターナショナル」ノ威嚴ヲ損セザルコト及其定款及各種規則ヲ認ムベキコトヲ舉ゲタルモノナリキ

第三回「プロフィンテルン」大會ハ兩「インターナショナル」ノ合併問題ヲ比例代表ニ基ク統一大會招集ニヨリ解決スベシト提議セリ、サレド「アムステルダム」派ハ其威嚴ヲ保タンコトヲ欲シ且ツ「アムステルダム」派ヲ以テ唯一ノ「インターナショナル」ニシテ多數ヲ擁スト主張シテ讓ラズ其儘トナレリ、又同大會ニハ廣東ニ開カレタル太平洋運輸労働者大會ニ關スル報告提出

モラレタリ以テ「プロフィンテルン」ノ活動範圍ノ擴張セルヲ認ムルヲ得ベシ

四三八

第七節 「プロフィンテルン」第四回大會

一、「プロフィンテルン」第四回國際大會開催ノ通知

「プロフィンテルン」第四回國際大會開催準備ニ關シテハ、「プロフィンテルン」執行委員局ハ全世界赤色労働團體ニ對シ次ノ如キ通牒ヲ發セリ

尊敬スベキ同僚諸君！

「プロフィンテルン」第四回國際大會ヲ來ル一九二八年三月十五日莫斯科ニ開催スルノ件ハ前通牒ニ於テ承知ノ事ト信ズ。其ノ際執行委員局ハ世界各國ノ赤色労働團體ガ豫メ大會ニ於テ審議サルベキ諸問題ヲ研究シ、必要ノ諸資料ヲ蒐集シ各自團體ノ意見ヲ作成シ、大會ニ對スル準備ヲ周到ナラシムベキ目的ヲ以テ議事日程ノ豫定ヲ決定次第通牒スル旨附言セリ。執行局ハ今次大會ノ特別重要性ヲ認メ一九二七年十月十一日會議ニ於テ決定サレタル議事日程豫定ヲ通知スルモノナリ

第四回大會議事日程豫定

(一) 執行局報告

(二) 國際労働運動ノ任務

(1) 資本主義合理化ト労働階級

(2) 「アムステルダム」系労働官僚主義ノ右傾ト労働大衆ノ左傾

(3) 労働運動ノ協同戦線ト合同運動

(4) 資本主義的労働運動ノ破産

(5) 太平洋秘書局

(三) 帝國主義並ニ帝國主義的戦争發生ニ對スル反對闘争

(四) 支那革命ト支那労働運動ノ任務

(五) 英國ニ於ケル「プロフィンテルン」系労働團體ノ任務

(六) 労働運動ノ組織的構成問題

(七) 「ファスシズム」及ビ「ファスシズム」系労働組合反對闘争

(八) 植民地ニ於ケル労働運動

(九) 「プロフィンテルン」ト労働青年

(一〇) 社會制度問題

(一一) 改選

四四〇

大會ニ於テハ(1)組織部(2)社會經濟部(3)文化教育部(4)植民部ノ四部ヲ設置シ、委員會トシテハ財務委員會ノ外各國毎ノ委員會モ組織セラルベシ

以上ノ如ク今次大會ニ審議サルベキ問題ハ極メテ廣汎ニシテ、且ツ國際勞働運動上重大ナルモノナルヲ以テ、此ノ際貴勞働團體ニ於テモ十分審議研究ノ上自己ノ意見ヲ執行局ニ提出セラルベシ此等意見ヲ印刷ニ附シ各國代表者ニ豫メ知得セシメ置ク爲メニハ、遅クモ二月十五日迄ニ委員會局ニ到着スルカ如ク發送セラルベシ

二、「プロフィンテルン」大會情況

一九二八年三月十五日ヨリ莫斯科赤色職業組合「インターナショナル」(「プロフィンテルン」)本部ニ於テ第四回總會開催セラレ世界各國ヨリ多數ノ勞働團隊代表者參加セル趣ナルガ本總會ノ情況ニ關シ「イズウエスチャ」紙ノ報道スル處大要左記ノ通りナリ

三月十五日 莫斯科赤色職業組合「インターナショナル」本部ニ於テ第四回總會準備評議會開催各國代表列席

三月十七日 前記本部内大廣間ニ於テ總會開催

開會ノ辭(「プロフィンテルン」中央執行委員「ロゾフスキー」)

概 要

「プロフィンテルン」第三回總會以來三年八月間ニ於ケル政情ノ變化ヲ述ベ勞働運動ノ國際的普偏化ト支配階級ノ反動政策ニ論及シ全世界ノ支配階級、社會主義者、改良論者ノ反「ソヴェト」運動ハ「ソウイェト」ノ建設ガ意外ニ好成績ヲ示セル爲メ加之勞働階級ノ不滿増大シ自己ノ立場ガ危険トナレル爲起リタルナリト斷シ吾「プロフィンテルン」ト提携セムトスル優良ナル勞働階級ノ前衛ヲ世界各國ニ有スル吾人ハ全世界ノ攻撃ニ恐レヲ爲スモノニ非ズト高唱シ最後ニ本總會ハ徹頭徹尾資本主義、改良論者ヲ敵トシ被傭階級及被征服民族ノ解放資本主義政權ノ覆沒、勞働者政權ノ確立等ノ旗幟ノ下ニ各種協議ヲ進ムルナラムト其ノ期待ヲ述ベタリ

共產「インターナショナル」ノ祝辭(「エムベル、ドロ」)

資本主義ハ自己防衛ノ爲メアラユル彈壓手段ヲ以テ勞働階級ヲ壓迫シ居レリ改革論者ノ主張スル消極主義ハ勞働階級革命戰線ノ弱點ナルモ「ソウイェト」聯邦ノ存在ハ世界ノ勤勞階級ニ不滿ヲ増大セシメ資本主義ノ矛盾ヲ明白ニシ結局吾人ニ勝利ヲ與フルモノナリト斷ズ

露國共產黨ノ祝辭(中央執行委員「トムスキー」)

概要

一千萬ノ黨員ヲ代表シテ本總會ノ開會ヲ祝シ資本主義ノ攻撃ヲ受ケツツ革命以來十年殆ンド獨力ヲ以テ破壊ヨリ建設ニ成功シタルモ露國共產黨ノ功績ヲ述ベ「プロフィンテルン」第四回總會ハ世界ノ職業同盟運動ニ新時代ヲ劃シ労働階級ノ糾合ニ成功シ資本主義ニ最後ノ打撃ヲ與フルニ至ル可ク確信スト斷言セリ

「ソウリエト」勞農民ニ對スル聲明書可決

英米獨佛各國代表ヨリ提案セシ前記聲明書萬場一致可決ナル

聲明書ノ概要

最近世界ノ資本主義ハ各種改革論者反動團體ト共ニ反「ソウリエト」運動ヲ開始セリ然レ其吾々「ソウリエト」聯盟者ハ資本主義ノ反「ソウリエト」運動ニ障害ヲ與フ可ク努力スルモノナルコトヲ「ソウリエト」勞農民ニ聲明シ十月革命ハ資本主義ノ間ニ輝ク唯一無二ノ労働者ノ燈臺タリト斷言ス

常議委員選舉

英、米、獨、佛、支、「チエック」 各二名宛

伊、波蘭、「アルゼンチン」、「キューバ」、「ブラジル」、「コロンビア」、「ラトウエア」、「スカン

デナウイヤ」、「バルカン」 各一名宛

「ソウリエト」 四名

日 本 一名(中野某)

三月十八日 休日(巴里「コンムニオン」紀念日)

三月十九日 報告演說(「ロゾフスキー」)

概要

最近資本主義ハ生産ノ合理化ト労働運動ノ壓迫ニ依リ優勢トナリタルコトヨリ説キ起シ資本主義ノ矛盾ヲ強辯シテ市場ノ爭奪ハ第二ノ世界大戰ヲ惹起ス可シト豫斷シ一方勞資間ノ情勢ニ關シ生産ノ合理化ハ勞力ノ増大ヲ見タルモ却テ之ガ爲メニ労働者ノ生活ハ低下セリト述ベ資本家ノ反動的壓迫ハ職業組合運動ヲ一時中斷セシメ労働者ハ經濟的ニハ労働時間ヲ擴大サレ政治的ニハ檢舉殺害ノ「テロル」ニ逢ヒ未ダ大部分ノ諸國ニ於テハ團結權ヲ奪ハレ居ル現狀ニアリト慷慨シ「アムステルダム」系ノ黄色職業同盟ノ戰闘的ナラザルヲ攻撃シ労働

大衆ハ既ニ左傾シ黄色同盟ニテハ最早拾收出來ズト述ベ「アムステルダム」ハ危険ナル労働者ノ敵ナリト警告シ次イデ一九二七年ニ成立セシ太平洋職業組合ニ對シ之レガ使命ノ重大ナルヲ説キ第二「インターナショナル」ニ對スル挑戦ヲ力説シ敵黨ノ共同戦線ニ對シ赤色同盟ハ労働大衆ヲ組織シテ一丸トナシ之レニ對抗スルノ要アリト團結運動ヲ主張最後ニ赤色同盟ハ大衆ニ根ヲ下シ大衆ヲ組織的ニ糾合シ得テ始メテ「ファシスト」系ノ反動ヲ挑ミ労働者階級戰ニ勝利ヲ得資本主義ヲ葬リ去ルヲ得ベシト言ヲ結ベリ

太平洋職業組合秘書部ノ祝辭

三、概

反資本主義ノ爲メ労働大衆ヲ糾合セムトスル「プロフィンテルン」ノ運動ヲ賞讃シ太平洋職業組合ハ決シテ之ト別個ノ組織體ニ非ズシテ其ノ一地方機關ナリト稱シ
最後ニ漢口ニ於ケル太平洋労働會議ノ協議及二月ノ吾ガ決議事項ヨリシテ「プロフィンテルン」ハ當然吾運動ニ大ナル援助ヲ與フルモノナリト確信スト述ベタリ

署名者

「ヂェック、ライアン」(濠洲)
「フアン、ビン」(支那)

川崎 某 (日本)

「エルル、プロウデル」(米國)

(尙本總會ハ四月三日閉會セラレタリ)

三、「プロフィンテルン」第四回大會ノ決議

最近ニ至リ單行本トシテ發送セラレタル「プロフィンテルン」第四回大會(本年三月十七日乃至四月三日莫斯科開催)決議ハ

- 一、「プロフィンテルン」執行委員會報告
- 二、國際職業組合運動ノ成績ト今後ノ方針
- 三、植民地及半植民地ニ於ケル組合運動
- 四、「ファシスト」運動ニ對スル對策
- 五、組織問題
- 六、青年労働者ノ組合誘引方法
- 七、婦人間ニ於ケル組合運動
- 八、農業、林業労働者間ニ於ケル組合運動

- 九、英國ニ於ケル少數派運動
- 一〇、獨逸ニ於ケル「プロフィンテルン」加擔者ノ義務
- 一一、「バラグアイ」ニ於ケル「プロフィンテルン」加擔者ノ義務
- 一二、印度ノ組合運動
- 一三、愛蘭ニ於ケル左翼運動
- 一四、支那組合運動ノ實行綱領
- 一五、米國ニ於ケル「プロフィンテルン」加擔者ノ義務
- 一六、佛蘭西ニ於ケル労働總同盟ノ義務
- 一七、佛蘭西ニ於ケル團體契約問題
- 一八、智恵古ニ於ケル革命的組合運動
- 一九、社會立法促進運動
- 二〇、資本主義的合理化ニ對スル反對運動
- 二一、勞資爭議ノ強制仲裁裁判ニ對スル反對運動
- 二二、移民問題

- 二三、社會經濟問題ノ研究
 - 二四、労働者「コオペラチヴ」ト組合トノ關係
 - 二五、啓發運動ト組合
 - 二六、組合新聞
 - 二七、労働者ノ國際的「スポーツ」運動
 - 二八、黑人(黒色人種)労働者會議ノ召集
 - 二九、國際革命闘士救援會援助
 - 三〇、「プロフィンテルン」規則ノ變更
 - 三一、「プロフィンテルン」第五回大會ノ召集期
- ニ關スルモノ等多岐ニ互リ且約二百何頁ニ互ル長文ナルカ其ノ中重要ト認ムヘキハ第二決議中ノ實行綱領「左記一」及第三決議中ノ朝鮮労働總同盟左翼派ニ對スル訓令「左記二」ノ加入労働組合ヲシテ加入員一人ニ付毎年米貨五仙ヲ「プロフィンテルン」ニ贈金セシムルコト並勞資紛爭其ノ他ノ場合互ニ物質的援助ヲ與フル爲國際共濟基金ヲ醸出スルコトノ決議第三〇、第五回大會ノ召集期ヲ一九三〇年七月十五日トスルコトノ決議第三一等ナリ

左記一、

四四八

社會紛争日ニ益々急ニシテ「レフオーミスト」領袖連ハ右傾シ民衆ハ左傾スルノ事實、資本カ政治上經濟上益々攻勢ヲトルニ至リタルニ鑑ミ革命的勞働者ハ須ク次ノ綱領ニ基キ陣容ヲ整ヘサルヘカラス

一、勞働時間ノ延長ニ反對スルコト「七時間ヲ最大限度トシ地下勞働其ノ他健康ニ有害ナル勞働竝ニ十八歳未滿ノ勞働者ニ對シテ六時間トスルコト」

二、所謂資本主義ノ合理化ニ反對スルコト

三、生活低下ニ反對シ勞銀ノ引上ヲ要求スルコト

四、勞銀ニ對スル課税ニ反對シ租税ヲ支配階級ノミノ負擔トナスコトヲ要求スルコト

五、失業者ノ國家保險ヲ要求スルコト

六、婦人及兒童勞働者ノ保護ヲ要求スルコト

七、組合内部ノ民主主義即組合内ニ於ケル言論ノ自由ヲ主張スルコト

八、不熟練勞働者ヲ組合ニ誘引スルコト

九、組合内ノ人種の差別ヲ撤廢スルコト

一〇、「ファシスト」的組合ニ反對シ階級的組合ノ組織、罷業集會言論ノ自由ヲ要求スルコト

一一、勞働争議ノ強制的仲裁裁判ニ反對スルコト

一二、資本主義及「ブルジョア」國ト戰フ爲統一戰線ヲ作ルコト

一三、階級闘争ヲ基礎トスル全國的組合ヲ組織スルコト

一四、勞資協調ニ反對スルコト

一五、資本主義國ニ於ケル「コーペラチーブ」ヲ勞働階級ノ團體トナスコト

一六、「ソヴェエト」聯邦「プロレタリア」ト資本主義國勞働者トノ接近ヲ計ルコト

一七、生産別ニ依リ勞働者ノ國際協力委員會ヲ組織スルコト

一八、各國組合ヲ包含スル階級的合同「インターナショナル」ヲ組織スルコト

左記二、

日鮮「プロレタリア」ヲ迫害スル日本帝國主義ノ政策ト戰フ爲

一、勞働組合ノ組織ヲ鞏固ニスルコト

二、未加入勞働者ヲ勞働總同盟ニ勸誘スルコト

三、鑛業、林業、漁業、農業勞働者ノ間ニ宣傳スルコト

四四九

四、日本左傾團即評議會ト協調スルコト

五、日鮮組合合同シテ實行綱領ヲ決定スルコト

且又「プロフィンテルン」中央機關ノ組織改正ノ件ヲ決議シタリ同伴決議ノ結果正員九十五名及副員十八名ヨリ成ル「プロフィンテルン」中央評議會ハ直ニ組織セラルルニ至レリ同決議ニ依レハ「プロフィンテルン」中央評議會ハ執行局ヲ組織スルヲ要シ同執行局ハ正員十九人及副員十三名ヨリ成ルモノトス又中央評議會ハ毎年一回總會ヲ開クモノトス

如上第四回大會ハ四月三日閉會ヲ告ケタルヲ以テ同大會ノ組織ニ係ル前記中央評議會ハ同日第一回總會（「プレナム」）ヲ開キ同總會ハ執行局委員（正員十九名及副員十三名）ノ選舉ヲ行ヒ且又「ロゾフスキー」ヲ「プロフィンテルン」書記長ニ選ヒタリ上記正員十九名ノ内露國側委員ノ氏名左ノ如シ

「ロゾフスキー」

「トムスキー」

「ヤグロム」

「ゲイ」

「レブセ」

尙日本人ニシテ第四回「プロフィンテルン」大會ニ於テ中央評議會（委員九十五名同候補十八名）ニ選舉セラレタル者三名アリ其氏名果シテ本名ナリヤ判明セサルモ委員ニ選ハレタルハ中野川崎ノ兩名委員候補ニ選ハレタルハ木村ナリ又中野ハ大會中討論ニ參加シ日、鮮労働組合提携ノ必要ヲ説ケル趣ナリ

第八節 「プロフィンテルン」ト「コミンテルン」トノ關係

「プロフィンテルン」ト「コミンテルン」ノ關係ハ附圖第 號ノ示ス如ク赤色農民「インターナショナル」又ハ「スポーツインターナショナル」ト「コミンテルン」トノ關係ト同様ナリ「プロフィンテルン」中央評議會ハ「コミンテルン」ノ擴大委員會ニ三名ノ代表者ヲ派遣シ通常ハ重要決議ニ關シ參與シ右代表者ハ發言議決權ヲ有ス

「プロフィンテルン」ハ更ニ「プロフィンテルン」ニ加ハレル外國ノ諸組合或ハ同情ヲ有スル組合ニ其地方ノ共產黨ヲ通シテ「コミンテルン」ノ命令ヲ傳達ス

「プロフィンテルン」ノ指導ヲナス者ハ「コミンテルン」ニシテ秘密裡ニ劃策スルニ非サルコトハ特筆スベキコトナリ「プロフィンテルン」ノ指導者ハ毎回ノ大會ニ於テ「プロフィンテルン」ノ活

動ハ「コミンテルン」ノ夫レト密接ニ結付ケルコトヲ公然宣言シ後者ハ後者ニテ機會アル毎ニ兩者活動ノ連絡アルコトヲ高調シツツアリ

實際「プロフィンテルン」ノ活動ニ關シ其方向ヲ指示スルモノハ「コミンテルン」ナリ
左ニ掲クル「プロフィンテルン」ヨリ「コミンテルン」ニ宛テタル書翰ニヨリ兩者ノ關係如何ニ密接ナルカヲ窺フヲ得ベシ

「コミンテルン」創設以來五年ヲ經過セリ、大革命ノ眞最中發生シタル「コミンテルン」ハ「マルクス」ニヨリ基礎ヲ作ラレタル國際労働者同盟ノ遺業ヲ完成セリ、「コミンテルン」ハ第二「インターナショナル」ノ中ニ殘存セル最モ優レタル健全ナル階級意識ト正シキ「プロレタリア」ノ感情ヲ吸收セリ、永年ヲ費シ「プロレタリア」ノ鬭争、世界戦争及改良派ノ破産、更ニ露西亞大革命及過去半世紀ニ互ル革命の大衆ノ鬭争ニ於テ得タル經驗等ヲ經テ始メテ労働者ノ國際的抗爭機關即「コミンテルン」ハ成立シ發展スルヲ得ルニ至レリ、今日ハ「コミンテルン」成立以來僅ニ五ケ年ヲ經過シタルノミナリ、然モ被掠奪者、被壓迫者ニシテ共產主義ノ旗幟ノ下共產主義的革命ニ加ハラントセサル所ハ地上何處ニモ無之有様ナリ、一九一九年ノ「コミンテルン」創立ハ共產主義運動ノ統一指導ヲ求ムル歴史的要求ヲ滿タシ其五年間ノ存在及政治上ノ活

動ハ新タナル「プロレタリア」ノ政權、「プロレタリア」鬭争ノ新形式ヲ生セシメタリ。

「コミンテルン」ハ今日迄見ルコトヲ得サリシ世界の勢力ナリ、「コミンテルン」ハ一方地球ノ六分ノ一ノ支持ヲ受ケ他方各國ノ労働者、被掠奪者ノ數百萬人ノ味方ヲ有ス、「コミンテルン」カ世界の勢力ナルコトハ總テノ國ノ政治家カ「コミンテルン」ノ生長發達ヲ阻止セント大車輪ナルニ見テ明ナリ、世界ノ「ブルジョア」及ヒ英國ノ帝國主義擁護ノタメ奮闘シツツアル第二「インターナショナル」即「阿姆斯特ダムインターナショナル」ノ指導者連ハ相互ニ仲善ク肩ヲ叩キツツ「コミンテルン」ノ名ヲ恐怖ト嫌惡トヲ以テ語り合ヒツツアリ、「ブルジョア」ハ何處ニ敵カアリ何處ニ味方カアルカラ熟知ス然カモ彼等ハ乍遺憾數百萬ノ蒙昧ナル「プロレタリア」又ハ改良主義的指導者連ヨリモヨクコレヲ熟知ス、職業組合赤色「インターナショナル」ハ最初ノ機關構成ノ仕事ヲ終リ且ツ共產主義諸機關トノ連繫ヲ遂ケタル時始メテ成立スルコトヲ得タリ、廉耻心ナキ労働階級ノ裏切者又ハ「ブルジョア」ノ代理人ガ「ブルジョア」社會ヲ没落破滅ヨリ救ハントシテ根ヲ張レル労働組合ニ於テハ特ニ改良主義カ頑強ニ食ヒ込ミ居リタリ吾人ハ世界中改良主義者ノ眞只中ニ於テ「インターナショナル」ト稱シツツ實ハ其運命ヲ「ベルサイユ」條約或ハ國際聯盟及強盜ニ類スル帝國主義ニ委シタル連中ト相見エサルヲ得サリキ

「コミンテルン」ハ「プロフィンテルン」成立ニ對スル條件ヲ豫メ決定セリ、「コミンテルン」ハ「プロフィンテルン」ノ父ニシテ其誕生ノ搖籃ノ側ニ在リタリ「プロフィンテルン」ハ共產黨所屬ノ労働者ノミナラス更ニ數百萬ノ無所屬労働者ヲモ包含ス、此等労働者ハ全世界ニ分布ス、「ストックホルム」ヨリ「メルボルン」北京ヨリ「カルカッタ」東京ヨリ倫敦ニ至ル何レノ地ニ於テモ彼等ハ資本主義ヲ徹底的ニ嫌惡シ共產主義ノ目的ト使命ノ偉大ナルコトニ對シ充分自覺ヲ有ス

如何ニ世界總テノ國々ノ搾取者カ「コミンテルン」及「プロフィンテルン」ニ對シ不平ヲ訴フルトスルモ又如何ニ改良主義者カ世界ノ「ブルジョア」ノ狂氣セル反共產ノ叫喚ニ其聲ヲ和スルトスルモ「プロフィンテルン」ハ「プロフィンテルン」ノ創設者ニシテ其鼓舞者タリシ「レニ」カ天才的識見ヲ以テ豫見豫定シタル道ヲ確實ナル足取ヲ以テ前進スヘシ。

「プロフィンテルン」ニ加盟セル全世界ノ革命的労働者ハ「コミンテルン」ニ對シ心ヨリノ友情ヲ表示スルト同時ニ今日迄名譽アル共產主義旗ノ下ニ戰ヒタルカ今後モ更ニ最後マテ、世界ノ共產主義カ完全ニ勝利ヲ得ル迄戰フヘキコトヲ宣言ス。

「プロレタリア」革命萬歲

「コミンテルン」萬歲

於莫斯科、一九二四年三月四日

「プロフィンテルン」執行局

(「イン、ブレ、コール」、一九二四年三月十五日所載)

而シテ「コミンテルン」ノ第五回大會(一)職業組合問題ニ對スル決議(二)職業組合運動ニ於ケル共產「インターナショナル」ノ戰略ニ關スル左記「テーズ」ヲ議決セリ

第一 職業組合問題ニ對スル決議

- 一、第五回大會ハ同會議ニ於テ「ロソウスキー」ノ提出セル職業組合問題ニ對スル指針條項ヲ確認シ其ノ終局的決定ハ「ロソウスキー」「ラデック」「スマール」「ダニス」「コーン」及英、波蘭、伊太利「バルカン」ヨリ各一名ヅツ選出セル委員ヨリ成ル委員會ニ之ヲ委任ス
- 二、第五回大會ハ擴大執行委員會ノ決定セル指針條項第四節ヲ同委員會ニ委託シ國際労働組合同盟ノ維納會議ト關聯セル此ノ問題ヲ慎重審議シ適當ナル方針ヲ確定セン事ヲ委託ス
- 三、第五回大會ハ「ウイルヘルムシユアハ」一派ノ態度及活動ハ革命ヲ阻害シ獨逸ニ於テ職業組合ヨリノ脱退者ノ増加及職業組合運動ノ分裂ヲ惹起シタル事ヲ認メ職業組合ヨリ脱退セ

ル労働者ニ對シテハ其ノ再ビ職業組合へ復歸センコトヲ慫慂シ又一般労働者ニ對シテハ職業組合ヲ組織センコトヲ要求ス

職業組合ハ被搾取者ノ集團ニシテ共產黨ハ其ノ内ニ於テ革命的啓發的及宣傳的活動ヲ爲スニ努メザルベカラズ

職業組合ヨリ脱退スルハ革命ヨリ脱退シ「プロレタリア」ノ敵ニ共力スルモノナリ

第二、職業組合運動ニ於ケル共產「インターナショナル」ノ戰略ニ關スル「テーズ」

一、右「テーズ」ハ(一)労働運動ニ於ケル急變(二)共同戰線ノ爲メノ戰闘(三)「アムステルダム」インターナショナル「ト其ノ左傾分子(四)世界的労働組合ノ統一(五)共產「インターナショナル」活動ノ弱點(六)共產「インターナショナル」ノ緊急任務(七)結論ニ分ツテ之ヲ論ス

二、職業組合運動ニ於ケル共產「インターナショナル」ノ緊急任務

(1) 戰闘團體ノ建設

専門職業組合竝ニ一般職業組合ニ於テ各職業團體ヨリ始メテ戰闘團體ヲ建設ス各黨員殊ニ労働組合ノ活動ニ關シ共產黨ノ監督ヲ一層嚴ニス

(2) 職業委員會ノ設置

戰闘團體建設ノ要點ハ之ヲ大衆ト營業團體ニ置ク

從テ未ダ職業委員會ノ成立ナキ營業團體内ニハ新ニ職業委員會ヲ設置ス

既存ノ職業委員會ノ活動ヲ一層革命化シ一層徹底セシム

職業委員會ハ積極的且ツ激烈ニ經濟戰爭ニ參加シ以テ修正派労働組合ガ企業者側ニ味方セル場合ハ之ト抗爭ス

(4) 職業組合運動ノ統一

各國ニ於テ樹立セル革命的職業組合ト除外セラレタル者ヨリ成ル職業組合トハ之ヲ統一セサルベカラズ

且ツ實行委員會ヲ通シ修正派團體内ノ反對分子ト結合セザルベカラズ

(5) 職業組合首腦ノ反逆的行爲

職業組合首腦ノ反逆的行爲ニ對シ抗爭シ且ツ之ヲ各營業團體ニ於テ説明スベシ「プロレタリア」ノ列ヨリ反逆的官僚主義者ヲ除外セヨ」ナル標語ヲ一般ニ普及セシム

(6) 全職業組合會議

職業組合運動ノ分離セル國ニ於テハ比例代表ト思想ノ自由ノ基礎ニ依リ全職業組合聯合會議ヲ

召集シ以テ職業組合運動ノ統一ヲ再建スルニ努メザルベカラズ

(7) 職業組合脱退者ノ復歸

職業組合ノ官僚主義ノ政治的又ハ經濟的反逆行爲ノ爲メ職業組合脱退者ノ數増加セル國ニ於テハ此ノ滅亡的且ツ勞働的氣分ニ抗爭シ「職業組合ニ復歸セヨ」ナル標語ノ下ニ戰鬥ヲ遂行セザルベカラズ

(8) 無組織勞働大衆ノ組織

未タ何等ノ團體ニモ所屬セザル勞働者ヲ組織シ且ツ之ヲ戰鬥ニ引キ入ルルニ努ムベシ

但シ無組織勞働大衆ヲ結合シテ新團體ヲ組織スルハ誤ナリ

無組織勞働大衆ヲ結合スル自然的第一ノ中心點ハ職業委員會及其ノ活動中ハ實行戰鬥委員會ニシテ右統一事業ハ無組織勞働大衆ヲ職業組合へ復歸セシムルコト及職業組合ノ政策ニ對シ不備ナル勞働者ヲ變ジテ職業組合ノ官僚主義ニ對スル特權的闘士タラシムル事ヲ目的トセザルベカラズ

(9) 勞働各部門ニ於ケル勞働者ノ組織

勞働者階級ノ政權爭奪戰ノ成敗ヲ決スル所以ナルヲ以テ勞働各部門(運輸、鑛山、冶金、化

學工業、電氣事業、瓦斯工業等)ニ於ケル勞働者ヲ組織シ結合スルニ特別ノ注意ヲ拂ハザルベカラズ

(10) 國際的委員會ノ設置

國境ノ兩側ニ於テ共同ノ目的ヲ有シ且ツ相並行セル活動ヲ統一スル爲メ國際委員會(佛獨、獨波、獨智、英露、露波、佛伊、佛獨、伊等)ヲ設置セザルベカラズ

共產黨ニシテ其ノ組織及人選ヲ眞面目ニ考慮スルニ於テハ右國際委員會ハ極メテ有力ナルベシ

(11) 植民地半植民地ニ於ケル職業組合運動

「ブルジョア」階級ガ植民地及半植民地人民ヲ搾取スル國ニ於テハ共產黨ハ各植民地ニ於ケル職業組合運動ノ發達ニ特別ノ注意ヲ拂ヒ新ナル職業組合運動ヲシテ其ノ國民主義的理想ヨリ解放シ且ツ母國ノ職業組合官僚主義ノ帝國主義的政策ヨリ自由ナラシメザルベカラズ

(12) 「サンヂカリスト」ニ對スル態度

共產黨及共產主義ニ反シ職業組合ノ獨立及自治ノ政策ヲ採ル國ニ於テハ大衆ノ活動ヲ一層強カナラシメ、斯ノ如キ政策標語ノ反「プロレタリア」的性質ヲ摘撥シ、且ツ赤色職業組合「インタナショナル」ノ會議ノ決議ニ立脚スル「サンヂカリスト」的分子トノ共力ヲ益々鞏固ナラ

シムベシ

四六〇

無政府主義「サンヂカリスト」ノ獨斷ト錯亂ニ對スル拾年ハ此ノ種諸國ニ於ケル共產黨ノ最も重要ナル任務ナリ

(13) 企業組織ノ研究間諜組織ノ確立

戰闘ノ效果ヲ收ムル爲メノ第一要件ハ敵ヲ知ル事ナリ故ニ共產黨ハ労働組合ト共ニ企業團體ノ構造、其ノ機關及労働團體ヲ腐敗セシメ且ツ破壊スル彼等ノ手段ヲ詳細周到ニ研究セザルベカラズ

企業家ハ労働者間ニ多數ノ間諜ヲ有ス、從テ共產黨及革命的職業組合ハ其ノ敵タル資本家階級ノ抵抗力ノ強度及限界ヲ知ル爲メ經濟的性質ヲ有スル間諜團體ヲ組成セザルベカラズ

(14) 軍隊海員内ニ於ケル活動

共產黨ハ職業組合ト右職業組合中ニ於テ軍事的役務ニ從事スル組合員トノ間ニ近密ナル聯絡ヲ附ケザルベカラズ
兵卒ト當該職業組合トヲ結合スル爲メ特別ノ機關及會計ヲ設置スルコトハ共產黨ノ反軍事的活動ニトリ效果アリ

特ニ海員團體ト艦隊ノ海員ノ間ニ近密ナル聯絡ヲ設定スルニ努メザルベカラズ

(三) 結 論

第三「インターナショナル」ノ第五回大會ハ職業組合運動ニ於ケル共產「インターナショナル」ノ任務ニ關シ前諸會議ノ爲シタル凡テノ決議ヲ確認シ共產黨ノ總テニ對シ職業組合活動ガ特ニ重要ナル意義ヲ有スル事ニ關シ其ノ注意ヲ喚起ス
職業組合ハ革命準備時期ニ於テモ著シク重要ナル役割ヲ演ズルモノナルガ社會革命期ニ於テハ特ニ重要ニシテ社會主義的制度建设ノ最も重要ナル任務ヲ負擔シ「プロレタリア」ノ勝利ヲ得タル後ニ於テハ「プロレタリア」獨裁ノ機關タルベキモノナリ職業組合ノ獲得ハ即チ労働大衆ノ獲得ヲ意味ス

右ノ點ニ關シ凡テノ共產黨ハ從來著シキ進歩ヲ遂ゲタルガ例令職業組合ノ官僚主義者ノ反逆、労働大衆ノ一時的敗北及其ノ動搖如何ニ大ナリトスルモ將來尙一層ノ進歩ヲ遂グベキナリ而シテ此ノ事アルヤ實ニ社會革命ノ成否ヲ分ツモノナルガ故ニ共產「インターナショナル」ノ第五回大會ハ其ノ總テノ支部ニ對シテ寸毫タリトモ其ノ決議ニ遠ザカル事ナク職業組合ノ獲得即チ労働大衆ノ獲得ヲ完成スベキ事ヲ要求スルモノナリ

四六一

第五回大會ハ總テノ共產主義者ニ對シ赤色職業組合「インターナショナル」ノ來ルベキ第三回會議ニ於テ上述ノ根本原則ヲ代表スベキ事ヲ委托ス

第九節 「プロフィンテルン」ト全聯邦職業組合中央評議會トノ關係

「ロシア」革命ノ當初ヨリ職業組合設立ノ爲ニハ有ラユル努力ガ拂ハレ各種ノ企業ノ中ニハ細胞ト稱セラルル委員組織セラレタリ、次デ各企業ニ對シ一ツノ職業組合ヲ設立セリ、而シテ各職業組合ハ全聯邦職業組合中央評議會ニ統轄セラレ、共產黨ハ「レニン」ノ唱ヘタル「労働組合ハ共產主義者ノ學校タルト同時ニ「ソヴェト」政權ノ最モ鞏固ナル支柱タラザル可ラズ」トノ主張ヲ忠實ニ實現セントシ全聯邦職業組合ヲ急速ニ組織スルコトニ着手セリ

全聯邦職業組合ハ一九二〇年ノ同組合第三回以來「コミンテルン」ニ正式加入スルコトニ決定セリ、其後間モナク「プロフィンテルン」ハ建設セラレタリ

「プロフィンテルン」ハ全聯邦職業組合中央評議會ヲ通ジ全聯邦職業組合員ニヨリ指揮セラルトハ表面云ハレ居ラズ、サレド事實「プロフィンテルン」ニ資金ヲ供給シツツアルハ同中央評議會ニシテ「ロシア」労働者ハ此國際的宣傳ニ要スル費用ヲ支出スルノ義務ヲ負ハサレ居レリ

第十節 「プロフィンテルン」ト全聯邦共產黨トノ關係

他ノ共產主義機關ニ於ケルト同様「プロフィンテルン」ノ場合モ全聯邦共產黨ノ政治部ガ結局ノ最高指揮機關ナリ、政治部ハ無數ノ手ヲ有スル章魚ノ如キモノナリ

次ニ注意スベキハ「プロフィンテルン」ハ非共產主義労働者ヲモ數百萬人包容シ居ルヲ以テ「プロフィンテルン」ハ勿論共產黨ノ如ク完全ニ組織セラレタル團體ニ非ザルコトナリ。從ツテ共產黨ハ思想上及綱領上ニ確乎タル境界線ヲ有スルモ「プロフィンテルン」ノ中ニハ多クノ黨外者同情者其他種々ノ分子アリ、斯ク多數ナル分子ヨリ成立セル團體ノ戰術ガ純粹ナル共產黨ノ如ク明瞭嚴格タリ得ザルハ當然ナリ、サレド其目的ハ(一)資本主義ノ撲滅(二)「プロレタリア」ノ獨裁ニシテ共ニ「プロフィンテルン」ノ規約中及大會決議ニモ明示セラル

尙ホ職業組合内ニ於ケル共產黨ノ事業ハ現在不振ナルガ右ニ關スル「オー、ピヤトニツキー」ノ所論爲參考左ニ掲記ス、(共產「インターナショナル」第十六號乃至第二十號及一九二七年五月「ブラウダ」所載)

各國共產黨ノ労働大衆ニ及ボス思想方面ノ影響ハ頗ル大ナルモ其ノ割合ニ職業組合内ニ於ケル勢力ハ微々タルモノナリ。例ヘバ獨逸共產黨ノ如キ、英國炭坑夫大罷業ニ際シ大々的活動ヲ爲シタルニモ拘ラズ、一ノ職業組合ヲモ味方ニスルコト能ハズ、英罷業ニ對スル物質的援助ハ勿論、石

炭ノ輸出スラモ妨害スルコトヲ得ザリシノミナラズ、從來獨逸ニ於ケル社會改良主義的職業組合ガ労働者ノ利益ヲ裏切ルガ如キ行動ニ出ル場合ニモ之ヲ未前ニ防止シ得ルコトハ一度モ無カリキ斯クノ如キ實力ノ缺乏ハ要スルニ、獨逸共產黨ガ獨逸國內ニ於ケル一ノ職業組合ヲモ其ノ掌中ニ收ムルコト能ハザルニ基因スルナリ。英國共產黨モ同様ナリ。乃チ總罷業及ビ炭坑罷業ニ際シ、英國共產黨及少數派運動ガ絶大ナル役割ヲ演ジタルコトハ周知ノ事實ナルガ、總罷業直後鐵道從業員組合ト企業主トノ間ニ從業員ニトリ不名譽極マル和議ノ締結セラルルコトヲ妨害スルコト能ハザリキ。炭坑夫ノ窮狀ニ直面シテモ相當有力ナル職業組合ヲ動カシテ物質的援助ヲ爲サシムルコトヲ得ザリキ。其ノ原因ハ獨逸共產黨ニ就テ述ベタルト同様ナリ。一九二七年初期ニ行ハレタル少數派運動緊急會議ハ百八萬人ノ職業同盟員ヲ代表スルモノナリキ。サレド此等ノ職業組合ト稱スルモノハ大部分都市職業委員會ニシテ英國ノ法律ニ何等ノ權利ヲモ認メラザルモノナリ（英國職業同盟大會ニモ代表者ヲ出ス權利ナシ）又英國ニ於ケル職業組合ガ多數ニ分裂サレ居ルニモ拘ラズ（紡績五十七同盟、鐵道除外ノ交通—九同盟、金屬—四十八同盟、以上ハ皆英國労働同盟評議會ニ屬ス）其ノ一モ完全ニ少數派運動ニ屬シ居ラズ

又佛國及ビ「チエツクスロワキア」ノ如ク、社會民主系職業組合ト對立シテ赤色職業組合ヲ有ス

ル國々ニ於テハ、前者ニ比シテ幾分良好ナル状態ニアリ「チエクスロワキア」ニ於テハ職業組合ノ數ハ十五ニシテ會員一、七〇七、五九八人ヲ算シ、其ノ中二〇一、〇三五（即チ一一、七七「バーセント」）ハ赤色組合ニ屬ス。而シテ赤色組合ト雖モ其ノ行動ニ於テハ少カラザル他ノ職業組合ニ拘束セラルルガ故ニ「チエツク」共產黨ノ彼等ノ上ニ及ボス影響ハ大ナリト云フヲ得ス。「黨員ニシテ職業組合員タルモノ四五、五七五中赤色組合員三五、六五三、「アムステルダム」系九、一〇一其ノ他八二一）

佛國ニ於ケル赤色職業組合ハ、組合組織ノ労働者ノ五「バーセント」ヲ占ムルモ、各生産ハ各赤色職業組合ニ對スル改良主義系ノ職業組合ヲ有シ、コレニ影響サルルコト少カラズ。佛國ニ於ケル組合組織ノ労働者ハ割合ニ少ク總數百萬人ニシテ全労働者數ノ十一分ノ一ニ相當ス。又佛國共產黨ハ殆ンド全部赤色職業組合ニ加入シ居リ、一般労働者ニ對スル特別ノ影響ト認ムルヲ得ズ

以上ノ如キ状態ハ共產黨トシテ満足ヲ得ズ。之ヲ徹底的ニ改善スルニハ第一職業組合ニ在ル共產黨ノ各方面ニ互ル獻身的努力ト指導機關ノ不斷ノ監督指揮ト相俟ツテ行ハレザル可ラズ。以下注意スヘキ諸件ヲ列記ス

(一) 共產黨員タルモノハ必ズ職業組合ノ會員タラザル可ラズ。這ハ單ニ形式上ノ問題ニアラズ。事實職業組合ニ加盟セズニ該組合ニ何等カノ影響ヲ與フト謂フコトハ望ミ難キコトナリ。元來共產黨ハ其ノ綱領宣言ハ勿論其行動ニ於テ正ニ勞動大衆ニ取ツテ力ニ富ムモノナリ。共產黨員ナラザル勞動者スラ各種ノ選舉ニハ共產黨ニ投票ス。又共產黨員タル勞動者ハ自己ノ周圍ニ少クモ十名ノ勞動者ヲ感化シ居レリ。斯クノ如ク勞動團體内ニ於ケル共產黨員ノ活動ハ最モ有力ナラザル可ラズ。故ニ此等ノ團體ニ籍ヲ置カザル黨員アリトセバ其半モ實現セザルノミナラズ惡影響ヲ及ボス場合ナシトセズ。特ニ階級的職業組合ノ發達ノ妨害ヲ爲スコト多シ

一九二六年六月一日調査ニ據レバ獨逸二十八州中十七州ノ職業組合加入共產黨員百分比ハ七〇「バーセント」ナリ。サレド地方ニ依リ至ク職業組合ニ進入シ居ラズ。例ヘバ「ルール」地方ノ「ヘルタ」機械工場ノ如キ三、二八二ノ勞動者組合員中共産黨員ハ僅カニ四名ナリ「チエツクスロワキア」ニ於テ三、二一九(全數四、七九一)ノ工場街區、村落「ヤチエイカ」ニ就テ調査スルニ、黨員九二、六九一(全數一三三、〇〇〇)職業同盟加入員四五、五七五乃チ四九、二「バーセント」ニ過ギズ。若シ前記黨員ノ中ヨリ農民手工業者、自由職業者、傭人、

廢兵等職業組合ニ加入シ得ザルモノ二二、九三六(二四、七「バーセント」)ヲ控除セバ二四、一八〇乃チ二六、一「バーセント」ノ黨員ハ職業組合加入ノ可能アリナガラ加入シ居ラザルナリ。米國ニ於テハ職業組合加入ノ共產黨員四〇「バーセント」英國ニ於テハ此ノ方面ニ於テ最モ好成績ヲ示シ九〇「バーセント」ニ達シ居ルモ其ノ他ノ國々ニテハ概ネ五〇乃至五五「バーセント」ナリ

(二) 勿論英國、獨逸、伊太利ノ共產黨ハ、「アムステルダム」系ノ職業組合ニ鞏固ナル關係ニ在ルナリ。最近伊太利共產黨ノ熱心ナル努力ニ依リ、一旦「ファシスト」ノ壓迫ヨリ閉鎖シタル伊太利聯盟(「アムステルダム」系)復活セリ。該聯盟内ニ於ケル共產黨ノ勢力ハ中央地方共相當大ナルモノ在リ。唯遺憾ナルハ該聯盟ノ活動範圍ガ極メテ制限サレ居ルコトナリ。英國共產黨ハ勞動評議會及ビ地方各種組合内ニ相當ノ勢力ヲ有ス。獨逸共產黨ニ關シテハ七十ノ勞動評議會、三十五ノ金屬工組合、四十三ノ鑛山夫組合、八ノ紡績工組合、三十二ノ化學工組合ニ於テ多數ヲ占ムルコトヲ得タリ。又一九二六年金屬工及ビ鑛山勞動者大會ヘノ代表者選舉ニ當リ獨逸共產黨ハ金屬ニ於テ三三「バーセント」、鑛山工ニ於テ四〇「バーセント」ノ投票ヲ得タリ。要スルニ獨逸共產黨ハ職業組合内ニ於テ約二五「バーセント」ノ勞動者ヲ味

方ニ有スト言フヲ得ベシ。併カモ此ノ比率ハ年々増加シツシアリ

(二) 職業組合其ノ他各種ノ大衆機關内ニ在ル共產黨員ハ、概ネ一團トナリテ共產黨分會ヲ形成ス

英國共產黨ノ報告ニヨレバ倫敦ニ於ケル共產黨分會八十四(一九二六年ニ於テハ三十)「マンチエスター」八、「リウエルブリス」三十八 又米國ニ於テハ一九二六年八月百八十四ヲ算シタルガ、同年十月ニハ三百二十九ニ増加セリ。「チエツクスロウキア」ニ於テハ赤色職業組合二、二〇〇ノ内、共產黨分會ヲ有スルモノ七百五十四、改良主義系職業組合ニ於ケル黨員ノ結合ハ目下進行中ナリ。獨逸ニ於テハ全國的職業同盟内ニ十四、地方的職業同盟内ニ七十二ノ共產黨分會ヲ有ス。又個々ノ職業組合ニ就テハ金屬工組合三百(全數六百) 化學工組合八十七、紡績工六十其ノ他ニ共產黨分會組織サレ居レリ

斯クノ如ク大衆機關内ニハ相當ニ共產黨分會組織サレ居ルモ其ノ活動ニ至リテハ極メテ不良ノ状態ニ在リ。例ヘバ「ルール」地方ニ於ケル職業組合ノ二百六十ノ共產黨分會ニ就テ調査スルニ其ノ四〇「バーセント」ハ全然無活動ノ状態ニ在リ。尙四〇「バーセント」ハ不良、二〇「バーセント」ノミガ相當ノ活動ヲ爲シ居ル有様ナリ。此ノ現象ハ單ニ「ルール」一地方ニ限

ラズ一般的ノ惡現象ナリ。サレド少クトモ二〇「バーセント」ノ活動分會ノ在ルヲ以テ、手段方法ノ如何ニ依リテハ他ノ劣等分會ト雖モ活動ヲ盛シナラシムルコト不可能ニアラズ斯カル共產黨分會不振ノ原因ハ第一共產黨分會ナルモノガ其ノ大衆機關内ニ存在スル共產黨員全部ヲ網羅セズ、且ツ分會ノ集會ニモ會員ノ全部ガ出席セザルタメナリ。米國ノ某鑛山工組合内ニハ六百五十名ノ共產黨員ヲ有スルモ分會ノ會員タルモノハ七十五名ニ過ギズ又獨逸「ハンブルグ」ノ郵便局員共產黨分會ハ百二十名ヨリ組織サレ居ルモ、其ノ集會ニハ平均三十名ノ出席者ヲ見ルノミナリ。更ニ甚シキハ「フランクフルト」金屬工組合ノ共產黨分會ナルガ、最近ノ集會ニハ分會員二百九名中出席シタルモノ僅カニ四名ナリキ。斯クノ如キ極端ナル不參加ハ共產黨分會ノ集會ノミナラズ、職業同盟又ハ組合ノ集會選舉ニ於テモ認めラル。之ガ爲メ折角共產黨ガ或ル有力ナル地位ヲ占メ得ルニ拘ラズ、自ラ其ノ權利ヲ破棄シ居ル場合少カラズ

大衆運動ノ成果ハ單ニ一片ノ標語ヲ發シタルノミニテ得ラルルモノニアラズ、其ノ標語ノ下ニ堅忍不拔ナル積極的活動ヲ續クルコトニ依リテ成就スルナリ。此ノ積極的活動ヲ續行スル上ニハ最モ上級黨機關ノ不斷ノ鞭撻ト後援ヲ緊要トス

(四) 職業同盟内ノ共產黨分會ハ上級黨機關ヨリ正當ナル指導ヲ受ケ居ラザルノミナラズ、分會事業ノ實行方法ハ根本ヨリ誤レリ

共產黨組織部ノ第二回總會ニ於テハ、職業組合内ニ共產黨分會ヲ組織スル件竝ニ分會事業ノ實行方法ヲ詳細ニ研究セリ。又獨逸ニ普及サレ居ル「組合日」ニ關シテモ十分ナル審議ヲ遂ゲタリ。獨逸ニ於テハ「ヤチエイカ」ハ月一、二回ノ會合ニ止マルモ共產黨分會ハ每週一定サレタル「組合日」ニ於テ集會ヲ催シ其ノ會合ノ席上ニテハ(「フオード」カ「マルクス」カ)職務上ノ「デモグラシー」問題、一般的賃銀政策、其ノ他所謂大問題ガ幾多提出セラルヲ常トス。勿論、共產黨員トシテ改良主義ノ労働者間ニ在リテ黨務ヲ行フ上ニ、此等ノ根本問題ヲ解決シ置クコトハ必要ニ相違ナシ。サレド紡績工、鑛山工、製材工、化學等ノ黨員ガ各別ニ斯ル一般的大問題ノ討論ニ特別ノ時間ヲ費ス必要果シテアリヤ否ヤ。斯カル問題ハ寧ろ直系黨機關タル「ヤチエイカ」或ハ黨集會等ニ於テ審議サルベキ性質ノモノニシテ職業組合内ニ在ル共產黨分會ハ直接労働運動ニ關スル具體的諸問題ヲ共產黨ノ立場ニ於テ決定スルコトガ其主要ナル役目ナリ。分會トシテ乃チ共產黨員トシテノ對策ヲ決定シ各任務ヲ分擔シテ大會ニ臨ム準備ヲ整フル必要アリ。故ニ分會ノ集會ハ必要ニ當リ開催スベキモノニシテ「組合日」

等ハ宜シク全廢サルベキモノナリ。要スルニ職業組合内ニ於ケル共產黨ノ活動方法手段ハ根本的變更ノ要アリ現狀ノ儘ニ放置センカ將來發展ヲ望ムコト困難ナルベシ

(五) 職業組合内ノ共產黨分會ノ指導ニ關シテハ組織部ノ第一、第二回總會ニテ一定方針確定サレタルニモ拘ラズ、未ダ甚シク不充分ナリ。例ヘバ分會委員局ガ實際職業組合内ニテ活動シ居ル人物ヨリ成立スルニアラズ、上級黨機關ヨリ派遣サレタル相當ナル共產黨員ノ場合多シ。從ツテ分會ニテ審議サルル問題モ自然工場労働者ノ日常問題ヨリ離レ、主義思想方面ノ理論ニ傾クヲ常トス。此ノ弊風ハ一掃サレ居ラズ。論者曰ク、職業組合内テ活動シ居ル黨員ノ眞方針ヲ解セズ、時ニハ黨ノ精神ニ反對シテ改良主義的傾向ヲ帶ブル場合少カラズ。故ニ共產黨分會ノ首腦部ニハ、是非確實ナル且ツ相當手腕有ル黨員ヲ用キザル可ラズ、サレド如何ニ敏捷家ニテモ職業同盟ノ内部ヲ知ラズシテ該運動ヲ指導スルコトハ不能ナリ。故ニ今後ハ勉メテ職業組合内ニ活動スル黨員ヲ以テ分會委員局ヲ組織シ若シ彼等中ニ黨ノ精神ニ反スルガ如キ言動ヲ爲シタル場合ニハ、黨ヨリ放逐シ或ハ選舉ノ投票權ヲ奪フノ懲戒ノ手段ニ出デ、優良ニシテ且ツ労働運動ニ直接精通スル人物ヲ多ク分會ノ指導位置ニ送ル可ク努力スベキナリ

(六) 尙職業組合不振ノ原因トシテ、有力ナル黨機關ノ活動ノ不足ヲ舉ゲザル可ラズ。獨逸共產黨ハ全國的職業組合評議會又ハ地方的ノ職業組合等ニ於テ、改良主義者ヨリモ多數ヲ占メ居ル場合屢々ナリキ斯カル評議會又ハ組合ハ、共產黨勢力擴大ノ爲メ絶好ノ據點ナラザル可ラズ、乃チ此ノ優勢ヲ有利ニ活用シ先ツ該評議會又ハ組合本部ヲ黨勢力下ニ置キ、改良主義ニ劣ラザル良成績ヲ舉ゲテ黨勢力ヲ漸次四圍ニ擴張セザル可ラズ。然ルニ多クノ場合此ノ好機會ヲ拐ヘズ、却ツテ活動力ノ弛緩スル模様アリ。例ヘバ獨逸ノ地方職業同盟ニ於テ共產黨員ガ幹部トナリ居ルモノ約七十名アリ。然ルニ失業者ノ示威運動ヲ組織スル訓令ヲ發シタルニ、之ヲ實行シタルモノハ僅カニ十同盟ニ過ギザリキ。斯カル現象ハ獨逸ノミナラズ「チエツロスロワキア」ニ付テモ同様ノ報告アリタリ

(七) 次ニ職業組合内ノ共產黨分會不振ノ原因ニ就テ一言セン

各國共產黨ハ此等分會ノ指導ヲ良好ニスル爲メ、労働運動部ヲ創設セリ。然ルニ此ノ労働運動部ハ分會ガ當然實施スベキ事實迄自ラ實施セムト試ミタリ。如何ニ労働運動部ガ完備スルモ、全國ニ互ル共產黨分會ノ事業ヲ直接實施スルコトハ寧ロ不可能ト謂フベク、其ノ指導監督ニ幾多ノ缺陷暴露サレ居ルハ當然ナリ。又分會トノ連絡ノミナラズ、中央ト地方トノ労働

運動部ノ連絡モ之ガ爲メニ妨害セラレツツアリ。最近「ルール」地方ノ労働運動ノ狀況報告ニ據レバ其ノ都市ニ於テハ十五ノ職業組合内ニ共產黨分會ヲ有シ居ルモ、其ノ内市黨委員會ノ労働運動部ト連絡セルモノ僅カニ三分會ニ過ギザルコトヲ發見セリ。又「ルール」地方ノ黨委員會労働運動部ハ、各都市黨委員會ノ労働運動部ト全然連絡執テ居ラザルコトモ暴露セリ斯カル状態ニ置カレタル共產黨分會ノ不振ハ勿論ナリ。一九二七年三月同地方ニ派遣サレタル黨指導員ノ報告ヲ摘記セバ左ノ如シ。

三月二十日「ボフム」市ニ於テ「ルール」地方炭坑夫代表會議開催サレタリ出席者ハ炭坑夫同盟ニ屬スル六十區ヨリ選出サレタル五百名ニシテ共產黨員ハ約十名ヲ算シタリ。本會議ハ仲裁裁判ニ依リテ提出サレタル賃銀率ヲ審議スル重大任務ヲ有シタルヲ以テ「ルール」地方四十萬ノ炭坑夫ノ視聽ヲ集メタリ。然ルニ「ルール」地方黨委員會ハ如何ナル黨員ガ當選シタルカヲ知ラズ、從ツテ此等黨員ノ會議ニ於テ執ルベキ態度ニ就テ何等ノ訓令ヲモ與フルコトヲ得ザリキ。ノミナラズ縣委員會ノ相當ノ有力者ニシテ該會議ノ開催サレタルコトすら知らザル者アリタリ。ソレ故縣委員會トシテモ何等ノ對策ヲ決定準備スルコト能ハズ、開催後僅カニ五百部ノ黨機關紙ノ撒布ニ依ツテ事足レリトセリ云々

斯カル不健全状態ハ一日モ速カニ改善サレザル可テズ。共產黨ノ労働運動ニ及ボス影響ガ依然トシテ抄々シカラザレバ、黨労働運動部ノ斯カル缺陷ノ禍セルコトヲ見通スヲ得ズ。若シツレ黨員ノ大多數ガ職業組合内ニ於テ活動シ、黨ノ労働運動部之ヲ支持シ行クニ於テハ改良主義者トノ競争ハ決シテ難事ニアラズ、而シテ其ノ成績ノ向上ト共ニ多數ノ改良主義者ヲ誘入スルコトモ可能ナルベシ。是レニ反シ依然トシテ職業組合内ノ黨事業ノ實行方法手段ヲ現在ノ儘ニ放置センカ労働大衆ハ共產黨員ノ活動ヲ認メズシテ悉ク改良主義者ノ味方トナルヘシ。假令改良主義者ガ絶ヘズ労働者ノ利益ヲ裏切ルガ如キ行動ニ出ルニシテモ、事實彼等ガ主トナリテ職業組合内ニ活動シ得ル以上彼等ニ或ル程度ノ信頼ヲ繼グニ至ルハ自然ナリ。

(八)階級的労働運動ハ左傾右傾ニ分裂シ、「プロフィンテルン」ニ加入スル赤色職業組合ガ存在スル國々ニ於テハ(佛國、「チエツコスロワキア」、和蘭)改良主義系職業組合ニ對スル共產黨ノ事業ハ全然看却サレ居ルノ觀アリ。即赤色職業組合ノ組織サルルト同時ニ、共產黨員ノ大部分ガ改良主義ノ職業組合ヲ去リタルニ歸因ス。又獨逸、「チエツク」、和蘭、波蘭、白耳義、伊太利ノ如キニ於テハ、「アムステルダム」系並ニ赤色系職業組合以外ニ宗教的系統ノ職業組合存在ス。就中優勢ナルハ「カトリック」教職業組合、基徒教職業組合コレナリ。此等ノ中

ニハ會員百萬ニ達シ且ツ青年婦女農民等ノ間ニモ組織機關ヲ設立シ、多數ノ發行部數ヲ有スル日刊新聞ヲ發行シ居ルモノサヘ存ス。但シ此等宗教系統ノ職業組合ハ、共產黨ガ其ノ内部ニ進入シテ巧妙ナル黨事業ヲ實施スルコトニ依ツテ容易ニ破壊スルコトヲ得ベシ。如何トナレバ、此等職業組合ノ指導者連中ハ、労働者ノ利益ノ眞ノ擁護者ニアラザルヲ以テナリ。現ニ此等職業組合内部ニハ最近反幹部派團體ガ組織サレツツアル有様ナリ。故ニ此等ノ國々ニ於ケル共產黨ハ改良主義系職業同盟内部ニ於テ其ノ活動ヲ盛ンナラシムル一方、此等宗教系統ノ職業同盟ニ對シテモ計畫的事業ヲ開始セザル可ラズ。

尙本項ニ於テ看過スベカラザルハ、伊太利ノ國粹黨系ノ職業組合ナリ。伊太利ニ於テハ労働者ハ悉ク本職業組合ニ會費ヲ徵收サレ、該組合ヲ經由セザレバ就職シ得ザル状態ニ在リ。故ニ伊太利共產黨ハ萬難ヲ排シテ此ノ國粹系職業組合内ニ鞏固ナル地盤ヲ築クコトニ努力セザル可ラズ。而シテ該組合ノ性質ノ反「デモクラチック」ナルコト反「プロレタリア」的ナルコトヲ機會ノ在ル毎ニ摘發シ労働者大衆ノ覺醒ヲ促シ、組合内部ノ崩壊作業ヲ行フコトヲ必要トス。又労働大衆ニ對シテハ「諸君ハ強制的ニ會費ヲ徵收サレツツアリサレド諸君ハ相手ニサレ居ラズ。國粹主義者ハ諸君ノ代表者ト欺稱シテ労働時間ヲ延長、労働賃銀ノ低下等ニ

平然賛成シツツアリ。諸君宜シク職業組合ノ「デモクラシー」或ハ一般労働者大會ノ開催ヲ要求スベキナリ而シテ其ノ大會ニ於テハ現在ノ組合祕書長ノ改選ヲ決議スル等労働大衆ノ心理状態ニ迎合スル巧妙ナル手段方法ヲ執ラザル可ラズ。此ノ點ニ於テ伊太利共產黨ノ窺フベキ間隙ハ尙幾多残存ス。

(九) 各國共產黨員特ニ活動分子ノ任務ノ分擔ハ黨事業ニ重要ナル關係ヲ有ス。各國共產黨ヨリノ報告ヲ綜合スルニ、中央ヨリモ地方黨員ノ任務ノ負擔過重ナルコトヲ認ム。之レ大衆運動不振ノ大ナル原因ヲ成スモノト云フベシ。

共產黨員ガ黨事業ヲ實行スル爲メニハ各種ノ大衆機關内ニ進入スルコトヲ要ス。今「チエツクスロツキア」共產黨ノ調査ニ成ル九二、六九一名ノ黨員ノ活動地盤ヲ表示セバ次ノ如シ。

- 職業同盟 四五、五七五
- 國際革命家後援會 二三、六七〇
- 「コペラチーヅ」 二七、三二〇
- 労働者「スポーツ」俱樂部 一六、一六〇
- 無神論者機關 一一、〇〇二

- 貧農民機關 一、八八六
- 廢兵團體 二、三八二
- 借家人組合 二、二九四
- 消防團體 六、三九四
- 其ノ他大衆團體 二、〇五〇

以上ノ各團體ハ各々集合ヲ催スルヲ以テ黨ノ活動分子ガ數箇ノ團體ニ同時ニ加入シ居ル今日ノ情況ニ於テハ一人ガ數箇ノ團體ノ集會ヲ受持タザル可ラザル關係トナル。ノミナラズ黨關係ノ集會モ職業組合内黨分會ノ集會モ決シテ少カラズ。其ノ一例トシテ伯林「ブランドンブルグ」州委員會ノ報告ニ據リ一九二五年六月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル間ノ黨分會ノ集會回数ヲ擧グレバ左ノ如シ

- 中央「組合日」 一四六回
- 分會全體會議 四〇回
- 分會委員局會議 一八五回
- 工業別ニ依ル分會會議 二二三回

地區別ノ分會會議

三五二回

四七八

勞働支部會議

三九回

縣黨勞働運動部會議

六回

分會委員長秘書ト地區黨勞働運動部長トノ聯合會議

六回

地區黨勞働運動部長會議

三回

各職業同盟評議會會員タル黨員聯合會議

三回

職業同盟區黨分會會議

四回

職業同盟幹部タル黨員會議

一回

公職ニアル黨員會議

二回

鐵道従業員タル黨員會議

一回

鑛山勞働者タル黨員會議

二回

以上ハ單ニ職業組合内ニ於ケル共產黨分會ニ關係スル集會ノミナリ此ノ外職業組合其ノ他大衆機關ノ會議、黨直系機關ノ會議等ヲ通算スルトキハ、活動分子タル黨員ハ一寸ノ餘暇モ無ク毎日夜遅ク歸宅スル外、日曜モ割カザル可ラザル有様ナリ。斯クノ如キ過重ナル負擔ハ何

人ト雖モ好マザル所ナルヲ以テ入黨希望者ノ減少スル原因トモ見ルコトヲ得

以上ノ缺陷ヲ矯正スルニハ、黨員活動分子ノ任務ヲ適當ニ分擔シ、各黨員ガ少クモ讀書スル位ノ餘暇ヲ與ヘザル可ラス。即チ黨員ハ必ス何等カノ大衆機關ニ加入スルヲ要シ、各大衆機關ニ於テ主トナリテ活動スル黨員ヲ決定シ、一人ノ黨員ニ多數ノ業務ガ重復サレザル様計畫セザル可ラズ。斯クスルコトニ依リテ一方過重ノ負擔ヲ輕減スルノミナラズ責任ヲ他ニ轉嫁セムトスル惡習ヲモ一掃スルコトヲ得ベシ。

以上ノ數項ニ互リテ述ヘタルコトノ要點ヲ舉グレバ次ノ如シ

(一) 共產黨員タル者ハ必ズ其ノ職業ヲ信ジテ職業組合ニ入り、該組合内ノ同志ト共ニ共產黨分會ヲ組織スルコト

(二) 共產黨分會ノ指導者ハ必ズ職業同盟内ニ活動シツツアル黨員タルヲ要ス

(三) 共產黨分會ノ特ニ注意ヲ拂フベキ問題ハ、當該職業組合内ニ於テ審議中ノ問題ナリ。共產黨分會ノ集會ハ規定トシテ必ズ當該職業同盟ノ各種集會ノ直前ニ行ハルベキモノナリ。黨地區委員會、地方委員會、州委員會、中央委員會ハ(其ノ勞働運動部ヲ經テ)職業同盟ノ各種ノ集會ニ於テ執ルヘキ共產黨分會ノ態度方針ヲ決定スベキモノナリ。之ガ爲メ集會

開催前ニ分會委員局並黨員ノ活動分子ヲ招致シテ是レニ關スル重要問題ヲ審議シ必要ナル材料ヲ提供スルヲ要ス

(四)「組合日」ト稱シテ定期ニ分會ノ集會ヲ催シ、所謂大問題ヲ審議スルコトハ效果無ク却テ有害ナリ。斯カル問題ハ黨直系機關ニ於テ審議サルベキモノニシテ、乃チ中央委員會、又ハ州委員ニ於テ大體ノ方針ヲ決定サレタル後、地方ノ委員會、「ヤチエイカ」等ニテ審議サルベキ性質ノモノナリ

(五) 地方ノ職業同盟評議會又ハ組合本部ニ於ケル共產黨員ガ優勢ナル場合ニハ、之ヲ根據地トシテ其ノ勢力ヲ擴大スルニ努力セサル可ラズ。之ガ爲メ當該地方ノ黨分會ノ密接ナル連絡ヲ緊要トシ之ガ指導ニ立ツ黨委員會ハ此ノ種ノ分會ニ對シ最大限ノ支援ヲ爲スヲ要ス

(六) 黨中央委員會勞働運動部ト地方委員會ノ勞働運動部トノ連絡ヲ密接ニシ、特ニ管區ト都市勞働運動部トノ連絡ニ充分ノ注意ヲ拂フコトヲ要ス。又此等ノ黨委員會ノ勞働運動部ハ其ノ管轄區域内ニ在ル職業同盟内黨分會ノ行動ヲ指揮監督スルモ、自ラ分會ニ代リテ活動スルコトハ絶對ニ避ケザル可ラズ

(七) 生産方面ニ活動スル「ヤチエイカ」ハ、其ノ企業内ニ於ケル職業組合内ノ(色彩ノ如何

ヲ問ハズ)全權委員ノ位置ヲ黨員ヲ以テ占ムルコトニ最大ノ努力ヲ拂フベキナリ。該黨員ハ勞働運動現在指導幹部ノ背信行爲ヲ非難スルコトヲ事トスルノミナラズ、進ンデ勞働者日常ノ利益ヲ保護スル爲ニ如何ナル些細ナル問題ト雖モ看却スルコトナク、煉瓦ヲ積み上グル如ク工作ヲ必要トスルモノナリ。斯カル日常ノ些事ニ互ル迄、熱心ニ且ツ獻身ノ併カモ巧妙ニ黨ノ事業ヲ遂行スル事ニ依ツテ其ノ企業内ニ於ケル勞働大衆ノ信頼ヲ獲得スルヲ得改良主義者ノ反對運動ヲ未前ニ防止シ得ルナリ。「ヤチエイカ」及ヒ黨委員會ハ此ノ種ノ黨員ニ對シ特別ニ援助セザル可ラズ

(八) 既ニ赤色職業組合ヲ有スル國々ニ於テハ、比較的他の職業組合(改良主義系統、宗教系統國民的社會主義系統等)ニ對スル共產黨事業薄弱ナリ故ニ此等ノ職業組合内ニ共產黨員ノ優勢ヲ計ル爲黨員ノ募集ヲ爲スベキナリ。必要ニ際シテハ赤色職業組合ヨリ黨員ノ一部ヲ輸入セシムル場合モアルベシ

(九) 赤色職業組合ニ在リテハ理事會並ニ幹事會ハ勿論、上層ヨリ下層ニ至ル迄各々ノ職業同盟ト同様ニ共產黨分會ヲ組織スベキナリ

本項ノ第二、第三、第四項ハ赤色職業組合ニモ適用サレル

(十) 資本主義國ニ於ケル共產黨ハ赤色職業組合ノミナラズ其ノ他ノ系統ノ聯業組合ニ於テモ黨員ノ擴張ヲ計ラザル可ラズ。黨員ノ増加ハ該職業組合内ニ於ケル共產黨勢力ノ増加ヲ意味スルモノナルヲ以テナリ

(十一) 「ヤチエイカ」其ノ他下級黨委員會ハ黨員ニ對シ適當ニ黨事業ノ分擔ヲ行フベキナリ。此際甚シキ懸隔ヲ生ゼザルコトヲ心懸ケザル可ラズ

以上ノ改善策ガ徹底サルルコトニ依リテ共產「インターナショナル」各國支部ハ、労働運動特ニ企業家ト労働者トノ共產契約締結又ハ罷業ノ場合改良主義者幹部ガ労働者ノ利益ヲ裏切ルコトヲ豫防シ、以テ労働大衆ヲ社會民主主義、「カトリック」教、基督教、國民社會主義又ハ國粹主義等ノ影響ヨリ救出スルコトヲ得ベシ

一九二六年共產「インターナショナル」各國支部ハ、組織事業ニ於テ大ナル成功ヲ收メタリ。一九二七年上半年期ハ更ニ其ノ成功擴大サレツツアリ。僚友「レーニン」ハ「此ノ事業ヲ一夜デ片付クルコトハ絶對ニ不可能ナリ」ト言ヒタルガ、其ノ完成ニハ實ニ長時日ヲ要スベシ。勿論今日ト雖モ各國共產黨ガ全部「ボリシエウキキ」式組織ニ編成ヲ變更シ終リタリト謂フヲ得ザルモ「レーニン」ガ第四回國際大會ニ於テ述べタル黨組織ノ根本方針ハ、第五國際大

會ヨリ漸次具體的ニ實現サレツツアリ。併モ此ノ根本方針ハ資本國ニ於ケル共產黨ノ組織ニモ十分適用サルルコトヲ遺憾ナク立證シ居レリ

(「オー、ビヤトニツキー」)

第十一節 「プロフィンテルン」ノ活動

第一款 「プロフィンテルン」ノ對歐洲活動

今日迄「プロフィンテルン」ノ歐洲ニ對シテナシタル戰術ガ如何ナルモノナリシカ又其爲シタル所ハ如何ナル結果ヲ齎ラシタルカヲ瞥見セン「プロフィンテルン」ハ創立勿々宣傳委員會ヲ設立スルコトニ決シタリ同委員會ハ第一ノ目的トシテ種々ナル革命的労働組合間ノ連鎖トナリ第二ノ目的トシテ「ロシア」労働組合員ガ改良主義者ノ組織スル國際労働組合同盟ニ這入り得ル素地ヲ作ラントセリ

第一ノ目的ハ達セラレタリ

宣傳委員會ハ事實「プロフィンテルン」ノ命令ヲ傳送スル機關トナリ其供給スル資金ニヨリ五大陸ニ於ケル労働者間ニ「ウォルセヴィキ」ノ宣傳ヲナシツツアリ

第二ノ目的ハ實現セラレザリキ

「ロシア」労働組合ノ企テタル食糧問題ノミガ（僅カニ票ノ差ヲ以テ）「チユリッヒ」ニ本部ヲ有スル食糧供給國際労働者同盟ノ企ニ加入ヲ許サレタルノミナリキ、改良主義者ノ各國際組合ハ其自身ノ意思ニヨリ又「アムステルダム、インターナショナル」執行局ノ壓迫ニヨリ「ヴオルセヴィスト」ノ組合ニ入り來リ之ニ根ヲ張ルコトヲ斷然拒絶セリ

前記「プロフィンテルン」ノ「プログラム」(B) (頁)ハ宣傳ニヨリ改良主義者ノ労働組合ヲ破壊セントスルモノナルガ、コレガタメ事實大々的分裂ヲ生ジタル労働組合モアリタリ例ヘハ佛國ノ労働同盟 C. G. T. ハ事實ニ派ニ分レ其一派タル労働總同盟 C. G. F. D. ハ「プロフィンテルン」ニ加盟セリ、「チエコスロヴァキア」ノ労働組合ニモ同様ノ現象ヲ見タリ、又暫クノ間「フィンランド」及「ノルウェー」ノ労働組合ハ「プロフィンテルン」ノ味方ナリキ但シ現在ハ「プロフィンテルン」ニ反對シツツアリ、「ラテンアメリカ」、支那、印度、阿弗利加、濠洲、「メキシコ」ノ諸國ニ於テ「プロフィンテルン」ハ相當ノ效果ヲ收メタリト誇稱スルコトヲ得、コレ等諸國ニ於テ改良主義的ナル労働組合ノ存在セザリシハ事實ニシテ問題ハ全然新タナル労働組合ヲ創立シ又ハ獨立セル労働者諸機關ヲ併吞セバ解決シタルナリ。而シテ「プロフィンテルン」ノ活動ハ東洋ニモ及ブベシトナス立前ナルニモ拘ラズ最初「プロフィンテルン」ノ活躍ノ目標ハ歐洲大陸及英國ノミニ限ラレタリ。

労働大衆ノ屬スル改良主義的労働組合ト間斷ナク戦ヒタルモ成功セザリシ爲「プロフィンテルン」ノ指導者連ハ其戰術ヲ改メタリ、一九二四年彼等ハ世界ヲ打ツテ一九二一年ニ單一労働組合成立ヲ熱望スル旨ヲ雄辯ニ喧傳セリ「プロフィンテルン」第三回大會（サレバ彼等ハ「アムステルダム、インターナショナル」ニ對シ世界ノ労働組合ヲ全部包含スル單一「インターナショナル」創立ニ關シ協議センガタメコレヲ招待セリ、サレド彼等（「プロフィンテルン」第三回大會）ハ同時ニ各國ノ共產主義労働者ヲ招待セリ蓋シ此等共產主義労働者ヲシテ個人トシテ又ハ其組合ヲ代表シテ當該國ノ國民的改良主義労働組合ニ加入シ以テ革命的宣傳ヲナシ改良主義ノ指導者ノ非ヲ鳴ラシ内部ヨリ其同盟ヲ破壊セシメンガタメナリシナリ、又同時ニ「プロフィンテルン」ハ全露労働組合中央評議會ヲシテ各國ノ労働代表ヲ招待セシメタリ蓋シ右ハ最上ノ宣傳ト認メタルヲ以テナリ即労働代表ノ滞在中通譯ニ當ル者ハ嚴選セラレ、代表連ハ「ロシア」ヨリ見テ都合ヨキモノノミヲ見セラレタルナリ、コノ企圖ハ非常ナル成功ヲ收メ英國労働組合ノ代表者等ハ一九二四年末「ロシア」ヘノ長途ノ旅ニ上リ専門家ノ案内人ニ案内セラレ頗ル要領ヨク取扱ハレタルタメ彼等ハ歸來、「ヴオルセヴィキ」ニトリ非常ニ有利ナル報告ヲ發表シ、全露労働組合中央評議會及英國労働組合總評議會ヨリ同數ノ代表者ヲ出シ英露委員會ヲ創設スベシト主張シ遂ニ其實現ヲ見タル程ナリキ此

英露委員會ハ「ロシア」ノ労働組合ト英國ノ労働組合トヲ結合シ其ノ發展ノタメニ斡旋スルコトヲ任務トセリ、コレ「ヴォルセヴィキ」ノ指導者達ガ熱望セル所ナリ然ルニ「アムステルダム、インターナショナル」ハ遂ニ説伏スルヲ得ザリキ。労働組合ヲ單一ニ歸セシメントスル「ソヴィエト」ノ希望ニ對シテハ賛成スルノ他ナカリシモ彼等ハ合併ノ條件トシテ「ソヴィエト」聯邦ハ「プロフィンテルン」ヲ放棄シ「アムステルダム」ニ合併スルコトヲ申出デタリ

「ウォルセヴィキ」ノ指導者ハ「アムステルダム」ト對當ノ地位ニ於テ協議センコトヲ欲シ其後今日ニ至ル迄兩者ノ間ニ往復繰返ヘサレタルモ互ニ自己ノ立場ノミヲ主張シテ相譲ラザル有様ナリ上記英露委員會ニ於テ英國ハ「ロシア」ニ對シ頗ル忠實ニ附合ヒ且ツ「アムステルダム、インターナショナル」ノ書記局ニ對シ「ロシア」ト會談セヨト勸説大イニ努メコレヲ惱マシタルモノナリ然ルニ一九二六年ノ英國鑛山労働者罷業及總罷業ニ於テ、英露委員會ハ相當活躍シタルモ「ロシア」ノ傲慢ナル態度ハ非常ナル惡評ヲ博シ英國ノ労働黨及労働組合モ眼ヲ覺マスニ至レリ、コノ鑛山労働者ノ罷業ガ悲惨ナル終結ヲ告ゲタル時英國左翼労働者ノ同情ハ「ロシア」ヨリ離レタリ「プロフィンテルン」及全露労働組合中央評議會ノ右罷業後英國労働組合總評議會及其指導者ニ對

シテトリタル遣口ノ不信ナリシタメ又未曾有ナル侮蔑ト下卑タル誹謗ヲ恣ニセルタメ兩者間ニハ越ユ可ラザル間隙ヲ生ジタリ

其後「ヴォルセヴィク」ガ英國労働組合總評議會ニ對シ英露關係ヲ速ニ復舊スベク英國政府ヲ使嗾セヨト依頼シタルモ、同總評議會ハ謙讓ナル態度ヲ以テ之ヲ拒絶セリ、英露委員會ノ存在ハ「ウォルセヴィスト」ニトリテハ重要ナル切札ノ一ツナリシガ遂ニ一九二六年九月英國上院ノ決議ニヨリ全ク其存在ヲ失フニ至レリ

サレド「プロフィンテルン」ハ労働組合ヲ從服セシメンガ爲其中ニ侵入スルコトヲ止メズ或ハ公然或ハ秘密ニ労働組合ノ改良主義ヲ奉スル指導者ヲ非難攻撃シ労働者ノ間ニ盛ニ宣傳ヲ行ヒ「プロレタリア」ノ獨裁實現ノ晩ニハ彼等ガ要求シ得ル總テノモノヲ與フベシト約束シ労働者ヲ鼓舞シテ雇主ニ對シ不可能ナル要求ヲ爲サシメ密使ヲ送り或ハ資金ヲ供給シテ罷業ノ支配權ヲ握ラントシツツアリ

其供給スル資金ハ「プロフィンテルン」ヲシテ共產主義者「ヴォルセウイスト」系新聞ヲ支持シ反労働運動指導者ヲ没落セシメ其宣傳ヲ徹底セシムルニ役立チツツアリ

第二款 「プロフィンテルン」ノ對東洋活動

第一項 太平洋労働會議

四八八

吾人ハ更ニ太平洋沿岸各國ニ於ケル「プロフィンテルン」ノ事業ヲ一瞥セン、「プロフィンテルン」ハ英國労働組合並ニ「アムステルダム」派ト協調ニ敗退セルガ（前款）更ニ支那ニ於テモ失敗セリト認メザル可ラズ、「プロフィンテルン」ハ支那ニ向ツテハ無制限ニ煽動者ト資金トヲ送り赤色労働組合ヲ組織シ支那革命ノ支持者タラント企テタリ、二三回成功シタルコトモアリシガ「コミンテルン」及「プロフィンテルン」ノ對支政策ハ悲惨ナル失敗ニ終レリ

ナレド「プロフィンテルン」ハ其素志ヲ翻サズ、一九二七年五月二十日ヨリ二十六日ニ互ル間漢口ニ開カレタル太平洋労働會議ハ經濟的見地ニ基キ、左記十箇條ノ要求ヲ評議シ太平洋沿岸各國ノ労働者ニ指示セリ

- 1 八時間労働制
- 2 毎週四十二時間ノ連続的休息
- 3 疾病不幸労働不能失業ノ社會保險
- 4 社會保險ノ全負擔ハ雇傭主又ハ政府トス
- 5 婦人ニ對スル夜間労働ノ禁止

出産前後八週間ノ給料支拂ヲ保證シ休息セシムルコト

- 5 營利ノ目的ヲ以テスル小兒ノ賣買ヲ絶對禁止ス
- 十四歳以下ノ小兒ノ労働禁止
- 6 同一労働ニ對スル同一賃銀支拂
- 7 結社集會出版同盟罷業ノ自由
- 8 職業組合ニテ選出シタル労働監督委員ノ設置
- 9 體刑、罰金、工場經營ノ商店ヨリ物品ニテ賃銀ヲ支拂フ制度及賃銀差押制度ノ廢止
- 雇傭契約ノ形式廢止

10 「ファシズム」及罷業破リ者ニ對スル労働者ノ争闘警戒團ノ組織

「プロフィンテルン」ハ太平洋労働會議ニ依リ上記ノ如キ經濟的要求ヲ提示シタルノミナラス、政治的範圍ニモ立チ入りタルコトハ明カナリ、其決議ノ一部トシテ朝鮮、臺灣ニ關スルモノヲ摘記スレハ

「極東被壓迫民族中朝鮮、臺灣ノ民族程苦シメラレタル民族ハ他ニ無シ、此二民族ハ最大ノ犠牲ヲ拂テ其支配下ヲ脱出スル爲ニ争闘セリサレド其努力モ侵掠、蹂躪、捕縛竝自由ノ褫奪ニ依テ

破ラレタリ

四九〇

會議ハ被壓迫民族特ニ朝鮮ニ於ケル國民大衆機關ノ擡頭ヲ認ムルヲ本懐トス過去ノ悲慘ナル戰
闘ヲ勝利ニ導ク途ハ唯労働者ノ労働組合ト農民ノ聯合組合トノミナリ、而シテ革命支那及全世
界労働者トノ結合ニ依テ戰捷ハ更ニ決定的トナリ、自治ヲ獲得シ羈絆ヲ脱スルコトヲ得ベシ
太平洋會議ハ此争闘ニ對シテハ完全ナル支持ヲ與フルコトヲ約ス云々

以上ノ如ク太平洋労働會議召集ノ采配ヲ振ヘル「プロフィンテルン」ハ實ニ全世界労働者ノ統一シ
タル組織機關ニ太平洋沿岸ノ労働組合ヲ結合セシメントスル組織企畫者タルノミナラス、純然タ
ル政治的機能ヲ有スル恰モ「コミンテルン」ノ本質的任務ニ立チ入り居レリ

同會議ニハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ代表者ノ外日本支那北米合衆國「ジャワ」諸國並
ニ英佛植民地代表者モ出席セリ「ソヴィエト」聯邦代表者ハ「プロフィンテルン」本部書記長「ロゾ
フスキー」(猶太人)外五名タリ右會議ハ太平洋沿岸諸國ノ労働者従業員ヲ團結セシムルノ目的ヲ
以テ太平洋労働會議ノ常設機關トシテ太平洋労働聯盟書記局ヲ設置スルノ目的ヲ達セリ「ロゾフ
スキー」ノ言ニ依レハ太平洋局ハ早ヤ既ニ太平洋沿岸諸國ニ於テ其組織アル労働者千四百五十萬
人ヲ團結セシムルヲ得タリトアリ如上太平洋局ハ千九百二十七年ニ設置セラレタルモ其前身ハ千

九百二十四年夏廣東ニ開カレタル運輸從業員會議及千九百二十六年「シドニー」ニ於テ催サレタ
ル太平洋労働者評議會トス

又太平洋労働聯盟書記局ハ日本人川崎其他支那人濠洲人米國人等四人ノ署名ヲ以テ第四回「プロ
フィンテルン」大會ニ宛テ祝電ヲ寄セ以テ太平洋労働會議カ「プロフィンテルン」ノ手先キタルコト
ヲ喋々セリ

(三月二十日「イズウエスチャ」參照)

更ニ一九二八年四月十三日「モスクワ」ニ在ル「プロフィンテルン」本部内ニ於テハ太平洋労働會
議開カレ同會議ニハ左記諸國ノ代表者出席シタリ

- 支那労働者代表者 五
- 朝鮮労働者代表者 二
- 「メキシコ」労働者代表者 二
- 米國労働者代表者 一
- 日本労働者代表者 一
- 英國労働者代表者 一

四九一

「フィリッピン」労働者代表者

「ペリユ」労働者代表者

「エクワドル」労働者代表者

蒙古労働者代表者

同會議ニ於テ太平洋労働聯盟書記局ノ決議竝ニ同聯盟書記局ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ組織的措置等ニ關スル報告演説アリタリ又會議ハ滿場一致ヲ以テ太平洋労働聯盟書記局カ羅典系ニ屬スル米國労働聯盟書記局ト密接ノ聯絡ヲ保ツヲ必要トスルコトニ關スル決議案ヲ可決シタリ同會議ハ其決議案ヲ以テ「メキシコ」、「コルムピヤ」、「エクアドル」、「ペリユ」智利諸國ノ労働者ニ勸告スルニ太平洋労働聯盟書記局ニ加ハルヘシトノコトヲ以テセリ（一九二八年四月十四日「イズウエ」エスチヤ）

第二項 日本左傾労働團體ト莫斯科トノ關係

一、「プロフィンテルン」ヨリ東京機械労働組合聯合會、芝浦労働組合、日本印刷工聯合總會ニ宛テタル書翰

（「イン、ブレ、コール」一九二四年六月七日所載）

同志諸君

吾人ハ諸君ガ國際聯盟労働局開催ノ「ゼノア」會議へ出席スベキ代表者選舉ニ參加スベシトノ請求ニ對スル回答トシテ「自由」第九六號ニ於テ發表セラレタル書翰ヲ閱讀セリ諸君ガ「アムステルダム、インターナショナル」ノ連中ニ―彼等ハ今日漸ク日本ニ「プロレタリア」ノ存在スルコトヲ思付キタル連中ナリ彼等ノ活動ハ既ニズツト以前ヨリ極東ニテ囂セラレ居リタルモ此改良主義ヲ奉スル團體ガ日本ノ戰間的ナル組織労働者ヲ指導セントスル總テノ希望ハ埋メラレタルコトヲ公然明確ニ納得セシメタルコトニ敬意ヲ表ス國際聯盟労働局及外見ノミノ國際労働會議ニ對シテモ同様諸君ノ團體ガ如何ニ斷乎トシテ此道化芝居ニ參加スルコトヲ拒絕セラレタルカヲ見ルハ欣喜ニ堪エサル次第ナリ、其理由ハ代表者選舉ノ方法ガ不正直ナリシノミナラズ諸君ガ同労働局其モノニ反對ナルガ故ナリキ、諸君ハ上記書翰ニ於テ「我等ハ我等ノ代表者ヲ毎年黄色労働團體ノ指導者、資本家及政治家（社會主義者タルト資本主義者タルトヲ問ハズ）トノ會議ニ派遣シ無用ノ決議ヲナシ、馬鹿氣タル宣言ヲナシ以テ資本家又ハ支配階級ノ優先權ヲ侵害セザル範圍内ニテ労働者ノ要求ヲ表明セントスルハ無意義ナリト思考ス」ト宣言セリ、右宣言ハ吾人ノ本問題ニ對スル態度ト完全ニ符合ス、又諸

君ハ「我等ハ汝ガ勞働階級ヲ欺滿スル裏切者又ハ罷業破リニ過ギサルコト及汝ガ資本主義制度及資本主義國家ノ番犬タルコトヲ熟知ス」ト云ヘリ、諸君ハ明カニ彼等ヲ透徹セル眼識ヲ以テ知悉セリ。諸君ハ同書翰ニ於テ更ニ日本ノ組織勞働者ハ現存スル「インターナショナル」中「アムステルダム」派、伯林派又ハ莫斯科派ノ何レニモ加盟シ居ラズト述ベラレタリ。乍失禮吾人ハ諸君ガ當然諸君ノ侮辱ニ價スル連中ト吾人トヲ十把一カラゲニセラレタルコトニ抗議ス、冗談ハサテ措キ此好機ニ際シ諸君ノ書翰中興味アル數點ニツキ議論スベシ

先ツ第一ニ申述ベ度ハ日本勞働運動ハ吾人ニトリテ事新ラシキモノニハアラス、諸君ノ問題ニツキテハ既ニ以前ヨリ考究シ居リタリト云フコトナリ日本組織勞働者ノ革命的少數派ノ代表者ハ吾人ノ大會ヲ訪問シ吾人ニ日本ニ於ケル勞働運動ニ各種ノ方向アルコトヲ知ラシメタリ、吾人ハ諸君ノ團體ガ牛耳ヲトレル若キ日本「プロレタリア」及其戰鬥的ナル前衛ノ英雄的闘争ヲ驚異ヲ以テ觀察シ來レリ、吾人ハ又現存スル個個ノ團體ヲ日本内ニ於テ一ツノ統一セル團體ニ結合セシメントスル努力ヲ最大ノ興味ヲ以テ見守リツツアリ、吾人ハ諸君ノ團體ガ階級戦ノ上ニ立チ、資本主義制度破壊ヲ最後ノ目的トセルコトヲ承知ス、「プロフィンテルン」ノ依テ以テ立ツ所モ諸君ト同様ニシテ、コレ吾人ノ改良主義的「インターナショナル」ト異ナル所以ナリ

「プロフィンテルン」ノ背柱タル「ロシア」ノ組織勞働者ノ努力ハ之ヲ證スルモノト云フヲ得ズヤ諸君ハ恐ラク歐洲勞働者ヲ革命化シ改良主義的指導者ノ惡影響ヨリ救済シ、彼等ヲ資本主義撲滅戦ノタメニ集合セシメントセル吾人ノ努力ニ氣附カレタルベシ、諸君ハ最後ノ目的ニ關スル限リ諸君ト吾人トノ間ニハ何等ノ相違ナキコトハ諒解セラルルナラン

諸君ハ同書翰ニ於テ、政治ニ關與セズ且政黨ノ圏外ニ在ランコトヲ欲スト述ベ勞働者ノ解放ハ勞働階級ノ使命ナリト結論セリ、諸君ハコレニヨリテ政治ニ關與シ政黨ニ加入スルトキハ勞働者ハ勞働者解放戦ニ於テ積極的ニ活動スルヲ得ズト云ハント欲スルヤ、若シ諸君ガ右政治及政黨ヲ單ニ現存スル「ブルジョア」政治及議會政治ノ意味ニテ主張セラルトセバ正當ナリ、サレド勞働者ハ政治ニハ興味ヲ有セズト信ゼラルルニ於テハ諸君ノ行方ハ誤リナリ、諸君ハ資本主義國家ノ崩壞ハ大ナル政治問題ト認メラレズヤ？而シテ大衆ノ團結ガ最後ノ戦ニ缺ク可ラザルモノナルコトヲ何人ヨリモ明白ニ認識セル勞働者ニ對シ何等反對スルベキコトアリヤ？

「ロシア」革命ハ「ロシア」共產黨ノ指導ノ下ニ行ハレタリ、諸君或ハ勞働者及農民ノ大衆ハ革命ニ參加セズ天ノ一方ヨリ救世主表ハレ解放ノ事業ヲ完成セルナリト主張セント欲スベシ、サレド事實ハ其然ラザルヲ示セリ

更ニ諸君ハ今日獨逸ニ起リツツアル重大ナル政治上ノ出來事ト組織ヲ有スル工場労働者ト無關係ナリト主張セントスルヤ？又同國ノ労働者ガ改良主義的労働組合指導者ニ信賴シ過キタルタメ政權把握ノ機會ガ遲延セル事實ニ非ニアラズヤ？

諸君ノ故國ニ就テ述ベンニ、諸君ハ現在日本ノ危期、一般市民ノ就職難、労働組合ノ法律上認めラレ居ラザル事實、憲兵ノ労働者暗殺及現在行ハレツツアル政治的壓迫等ノ諸事實ガ諸君ト無關係ナリトノ意見ヲ有セラルルヤ？諸君モ然リト主張スルヲ得ザル可シ、諸君及諸君ノ團體所屬者ハ此等事實ノ總テニ對スル争闘ニ參加セザル可ラズ、吾人ハ團體組織ノ形式ハ重要ナル問題ナレド之ニ關シテハ何等特ニ要求スル所ナシサレド諸君ガ解放戰ト密接ナル關係アル戰闘ニ參加セントセバ諸君ハ政治ニモ亦參加セザル可ラズ、即吾人ノ解釋ニ從ヘバ革命政治ニ參加セザル可ラズ

吾人ハ此等ノ點ヲ「プロフィンテルン」ニ加入ヲ欲スルヤ否ヤニ關係ナク一單ニ日本労働運動ノ將來ナル見地ニ立チテ熟考サレンガタメ諸君ニ提供ス。現在日本ノ大衆ガ目覺メツツアルハ確實ナリ而シテ日本「プロレタリア」ノ中ニ政治的團體ヲ組織セントスル傾向ノ強大ナルヲ認ム、若シ組織労働者ノ急進分子ニシテ袖手傍觀シ、右ノ努力ニ對シ無頓着ナリトセバ日本「プロ

レタリア」ハ改良主義者ノ手中ニ陥ルノ危険アリ後日改メテコレヲ取戻サザル可ラザルニ至ルベシ、歐洲ニ於ケル經驗ハ諸君ニ好適ナル警告ナリ、何トナレバ諸君ハコノ誤認ノ爲無數ノ人命ノ犠牲トナリタルコトヲ見ルベシ

日本ニ於ケル日尙ホ淺キ労働運動ハ現存ノ諸労働團體ヲ全日本産業労働組合ニ合體セシムルノ大使命ニ直面シツツアリ、本組合ハ中央機關ヲ有シ、中央機關ハ參謀本部トシテ労働運動ヲ組織的ニ指導セザル可ラズ、又本組合ニ労働者ヲ加入セシムベク努力セザル可ラズ、日本現在ノ二三ノ産業ニ於ケル労働條件ハ十九世紀初當ノ歐洲ニ於ケル夫レト彷彿タルモノナリ、労働組合ハ労働條件ノ改善ニ盡力セサル可ラズ、人民ノ自由及労働組合ノ法律上ノ承認ヲ得ンガ爲メ戰ハ直ニ開始サレサル可ラズ、労働者及農民ハ官僚式國家並「ブルジョア」ノ勢力ニ對シ動員セラレザル可ラズ、右ハ議會政治ヲ行ハンガタメニ非スシテ其最後ノ解放戰ニ對シテ準備セシメンガ爲ナリ諸君ハ日本「プロレタリア」中ノ革命的分子タルコトヲ主張セラルルモ吾人ニハ一言アリ、諸君ハ労働者大衆ガ自由ヲ得ンガ爲メニスル極平凡ナル闘争ニハ總テ參加スルコトヲ深トセズトスル狹隘ナル諸君ノ見解ヲ棄ツル場合始メテ諸君ノ使命ヲ果スコトヲ得ベシ、「プロフィンテルン」ハ政黨ヨリ成立セルニアラズシテ資本主義及「ブルジョア」國家ノ撲滅並勞

働者政權確立ノタメニ戰フ産業勞働組合ヨリ成レリ。コノ點諸君ト一致セズヤ？
吾人ハ諸君ガ同封ノ我大會決議文及吾人ノ定款、「プログラム」其他ノ材料ヲ詳細吟味セラレ、
如何ナル點ニ於テ異議アルヤヲ通知セラレンコトヲ希望ス

吾人ハ上述諸點及諸君ノ革命的精神ニ願ミ吾人ノ諒解スル所ハ諸君モ亦諒解セラルベキコトヲ
確信ス、更ニ吾人ハ諸君ガ「プロフィンテルン」ニ對スル態度ヲ變更セラルルコトヲ確信ス「ブ
ロフィンテルン」ハ日本「プロレタリア」ガ階級戰ノ爲團體ヲ組織センガ爲拂ヒツツアル努力ニ
對シテハ最大ノ同情ヲ以テ注意シツツアリ。吾人ハ諸君ト連絡ヲ保チ上述諸點ニ對スル諸君ノ
意嚮ヲ聽取スルヲ得バ欣懷ナリ

次回「プロフィンテルン」大會ハ一九二四年六月二十五日莫斯科ニ於テ開催セラルベシ、吾人ハ
諸君ガ本大會ニ情報聽取ノ目的ヲ以テ代表者ヲ派遣セラルルコトヲ歡迎ス諸君ハ同大會ニ於テ
革命的勞働階級ノ國際的地位及其實現セントスル使命ノ如何ナルモノナルヤヲ知ルノ機會ヲ得
ベシ

親愛ナル敬意ヲ表ス

「プロフィンテルン」執行局

書記長 「アー、ロゾフスキー」

二、亞細亞諸國及太平洋沿岸諸國ニ於ケル勞働組合運動計畫ニ關スル「アー、ロゾフスキー」ノ
所論

(「イン、ブレ、コール」一九二五年十一月七日所載)

國際的ニ勞働組合運動ヲ統一シ、各大陸ノ勞働者ヲ包括スル統一「インターナショナル」ヲ創立
セントスル企圖ハ最近迄歐洲ノ勞働貴族ノ傲慢不尊ノ態度ニヨリ甚タシク妨ケラレタリ。大戰
以前歐洲ハ經濟上、産業及政治ニ於テ世界ノ覇ヲ握レリ。勞働組合運動ノ先頭ニ立チタル歐洲限
リノ勞働組合「インターナショナル」ヲ創立セントシタルモ亦歐洲ナリキ。コノ氣持カ殘存セル
タメ現在ニテモ改良主義的勞働運動ノ指導者ハ歐洲ノ境ヲ越エテ外へ出ツルコトヲ欲セサルナ
リ。彼等ハ故意ニ大戰、十月革命、眞ノ世界の團體タル「コミンテルン」及「プロフィンテルン」
成立ノ結果生シタル非常ナル變化ヲ認メサラント欲ス最近ニ至リ改良主義「インターナシヨナ
ル」ノ連中ハ東洋ニ目ヲツクルニ至レリ、何トナレハ東洋ノ勞働運動カ革命的性質ヲ帶ヒ改良
主義ノ世界改良計畫ヲ妨ルヲ以テナリ

此間勞働運動ハ世界ノ到處ニ生シ同時ニ國際的ニ解決ヲ要スヘキ幾多ノ問題ヲ生シタリ、仍テ

最近各種ノ計畫立テラレツツアリ

現在ノ所右計畫ノ中主ナルモノハ次ノ如シ

- 一、日本ノ鈴木文治（日本「ブルジョア」新聞ハ日本ノ「ゴンバース」ト云フ）ハ國際聯盟所屬ノ國際労働局ノ大會ニ於テ印度労働組合代表者ト共ニ汎亞細亞労働大會ノ開催ニ關シテ演說シ、同労働大會ニハ鈴木ノ述フル所ニ從ヘハ日本、支那、波斯、暹羅、阿富汗、「ベルヂスタン」、「フィリッピン」、印度、埃及、「バレスタイナ」及土耳其ノ代表者出席スヘシ
- 二、濠洲労働組合長ハ太平洋沿岸諸國ノ労働組合ニ大會ヲ一九二六年五月一日招集スヘキコトヲ引受ケタリ、濠洲新聞「デーリー」、スタンダード」ノ報スル如ク労働組合書記「ガルデン」（彼ハ「プロフィンテルン」第二回大會ニ出席セリ）ハ支那、日本、「カナダ」、「フィリッピン」、「ハワイ」、「シンガポール」、印度、南阿及米國ノ労働團體ニ招請狀ヲ發送セリ
- 三、濠洲同紙「デーリー」、スタンダード」ハ濠洲労働黨執行委員ハ一九二六年十一月太平洋沿岸諸國ノ代表者大會ヲ「ホノルル」ニ開催スルコトニ決シ大會ニハ平和維持ヲ主義トスル國ノ代表者ヲ招集スヘシト報シ居レリ
- 三、日本左傾労働團體ニ關スル「ロゾフスキー」ノ演說

一九二七年十二月莫斯科ニ開催サレタル共產黨第十五回大會席上職業組合赤色「インターナショナル」中央評議會議長「ロゾフスキー」ハ、國際労働赤化運動中本邦ニ關シ、次ノ如ク述ベタリ

日本ニ於ケル労働運動ノ成行ハ特別ニ重要視セザル可ラズ。日本共產黨カ弱少ニシテ思想的ニモ全然洗練サレ居ラザルニ反シ、労働大衆運動ハ威大ナル勢力ヲ以テ勃興シ、今ヤ其ノ組織力ヲ利用シテ今日尙相當ナル健實性ヲ示シテ日本「ブルジョア」資本主義制度ニ對抗スベク新形式ヲ見出サムトシツツアリ。現在日本ニハ工業労働者ノミニテモ五百萬ノ大無産階級存在シ居ルモ、組合ニ組織サレタルモノハ僅ニ三十萬ニ過ギズ。其ノ中最モ積極的ナル戰鬥分子十萬ハ、「統一労働同盟」ニ依ツテ太平洋労働組合事務局ヲ通ジ國際労働運動左翼ト完全ニ連絡サレ居レリ。太平洋沿岸諸國ニ於ケル労働運動ノ急激ナル發展ニ連レ、労働組合ノ發達モ顯著ナリ。此ノ大勢ハ一九二七年六月漢口ニ太平洋労働會議ヲ開催セシメ、國際的ニ進出スルノ氣運ヲ作レリ。會議後「フィリッピン」労働者七萬、濠洲労働者五十萬モ之ニ加入シ孰レモ太平洋事務局ヲ經テ世界労働運動ノ左翼「プロフィンテルン」ニ結合サルコトナレリ。現在日本労働運動ノ奇蹟象乃チ共產黨カ極メテ弱少ナルニ反シ、革命運動ハ頗ル盛大

ニシテ併モ未ダ十分ニ結成サレ居ラズ此ノ矛盾ハ、日本無産階級ノ積極分子カ國際労働運動ニ進出シ、太平洋祕書局乃チ「プロフィンテルン」ノ思想政治的感化ヲ受クルコトニ依ツテ解決サルベシ

又「プロフィンテルン」ノ今後ノ方針ニ關シテ次ノ如ク述ベタリ

(一) 太平洋沿岸諸國ノ労働運動ヲ極力援助シ、特ニ支那、蘭領印度、印度、日本等ニハ最大限ノ注意ト援助ヲ與フルコト

(二) 南米労働運動ノ支持合同運動ノ支持

(三) 「アムステルダム・インターナショナル」系労働團體ヘ積極的戰

(四) 「コミンテルン」及ヒ全露労働組合同盟ハ「プロフィンテルン」ニ對シテ決定的援助ヲ與ヘ

世界無産階級ノ克服ノ事業ヲ支持スルコト

(五) 「プロフィンテルン」ノ勢力擴張

(六) 改良主義團體切崩ト新労働組合組織

(七) 合同ト共同戦線ノ積極的活用且ツ改良主義團體ノ上層ト下層トノ離間

(八) 「プロフィンテルン」ト「コミンテルン」トノ政策方面ノ協調ヲ爲スコト

四、日本共産黨事件ニ對スル太平洋労働聯盟書記局ノ通檄

莫斯科ニ於テ發行ノ露字新聞「ブラウダ」一九二八年五月五日紙上ニ太平洋労働聯盟書記局ノ通檄トシテ左記記事掲載セラレタリ

三月十五日夜半突如トシテ日本労働組合、農民組合員其ノ他ノ強硬分子一千名以上檢舉收監ナル政府ノ聲明ニ依レハ彼等ノ中ノ約百名ハ日本共産黨ニ所屬セルカ如ク傳ヘラル、日本政府ノ此ノ處置ハ議會選舉ノ直後ニ行ハレタルカ右選舉ニ際シ無産黨ハ最初ノ投票ニ方リ優ニ五十萬票ヲ贏得ラ八名ノ代表ヲ議會ニ送り「勞農政府」ニ關スル右翼ノ標語ヲ一般の標語タラシメタリ、大檢舉的反動ハ一方ニ勞銀ニ對スル資本ノ進歩勞務ノ緊張、労働時數ノ延長運動ノ理論的結果ニシテ、他方朝鮮ニ於ケル日本ノ殖民政策ノ歸結ト見ルヘシ更ニ此ノ反動ハ支那革命鎮壓ノ爲メ支那ニ行ハルル彼ノ「硬固政策」ノ國內ニ及ホセル影響ヲ夫レ自體表示スルモノナリ、之ト同時ニ此ノ舉ハ將來ノ太平洋戰ノ準備行爲トモ云フヲ得ヘシ

右檢舉カ深夜ヲ選ハレ、且新聞紙ハ本事件ニ關スル一些事ト雖モ記載ヲ許サレサリシコトハ日本帝國主義ニ特筆サルヘキ事態ナリ、然レトモ我汎太平洋職業同盟ハ日本労働組合ヨリ即評議會及労働者ノ指導機關紙「無産者新聞」ヨリ直接報道ニ接スルヲ得タリ

本事件ハ曩ニ上海ニ於テ二月ノ會合ニ際シ川崎氏カ日本勞働組合ニ關シ報告ヲナセル時既ニ豫斷セシ處ナリ、此ノ反動的試練ハ我議長ニシテ濠洲勞働組合代表タル「ジヤク、ライヤン」カ歸途日本ヲ通過シ其ノ勞働組合ヲ視察セントノ企圖ニ對シ神戸ニテ檢束サレ天津へ送還サレシ時體驗セシ處ナリ今次ノ反動ハ一般勞働者ニ甚大ノ打撃ヲ與フト雖、而モ猶日本勞働者ノ向上進取ヲ毫モ阻止スルモノニ非サルコトヲ吾人ハ告クルノ満足ヲ有ス斯ノ如キハ又日本無産者ノ國際的連繫ヲ絶ツモノニ非ラサルノミナラス、日本内部ノ此種機關ヲ潰滅シ得ルモノニ非ス、大檢舉ニ伴ヒ日本ノ勞働中心ヲ以テ動ク大反對運動ノアルコトヲ知ル、吾人ハ獨リ勞働者、農民ノミナラス凡ユル日本國民中ノ眞ニ自由且民主的階級カ來ルヘキ反動ノ拒否ト國內「デモクラシー」ノ確立ヲ名トシテ被檢舉者支持ノ爲結成スルノ要アルコトヲ理解スルニ至ラシメシコトヲ希望スルモノナリ

大檢舉ハ勞銀ヲ低下シ勞働條件ヲ改惡シ以テ産業並財政的急迫ヲ日本勞働者ノ双肩ニ轉假セントスル企業家ノ躍進的進出ノ一現象タリ、日本ニ於テハ或ハ濱松ニ芝浦ニ野田ニ此ノ種罷業ノ激烈ナル争闘行ハレツツアリ加フルニ農民争議アリ、反動ハ一面ニ政權ヲ把握スル富豪地主團體カ日本ノ勞働組合ノ發展並ニ確立シツツアル無産黨ノ將來ヲ懼ルルコトヲ證ス殊ニ

彼ノ憂懼スル處ハ日本ノ左翼派及日本無産黨ニ在リ反動ハ彼等ニ對シ向ケラル何トナレハ左派ハ即企業者其他ニ對スル勞農二分子提携ノ核心ヲ爲スモノナリ左翼中ノ積極的分子ハ國家民衆化ノ標幟ヲ高ク掲ケ或ハ言論、集會ノ自由ニ或ハ罷業權、總選舉ノ獲得ニ或ハ勞農政府ノ爲メ劃策スル處アリ

汎太平洋職業同盟書記部ハ日本ノ追窮ニ關シテ各國ノ勞働機關ニ通牒ス書記部ハ勞働及農民組合ノ蹂躪ニ對シテ不滿ヲ表シ、日本勞働者トノ協調ト而シテ彼等ニ物質並精神的支援ヲ示サンコトヲ求ム、全世界ハ日本反動派ノ犯罪ニ關シテ告知セラレ且勞働者階級ハ到ル處ニ彼等ノ醜惡ヲ刻印スヘキヲ知ルヘシ

太平洋勞働聯盟書記局長

胡 安 平

同 右書記

「エルル、ブロウデル」

上海四月二十六日

五、支那革命擁護ノ爲日本ノ對支干涉ニ反對スル太平洋勞働聯盟書記局ノ檄文

五露國共產黨機關「ブラウダ」新聞ハ支那革命擁護ノ爲メ支那ニ於ケル日本ノ干渉ト題シ太平洋
 労働聯盟書記局カ帝國ノ對支出兵ニ關シ内外労働者へ宛テタル檄文ヲ掲載セリ今其全部ヲ譯ス
 レハ左ノ如シ

太平洋労働聯盟書記局ハ支那ニ於ケル帝國主義的壓迫ニ對シ聯盟加入諸機關ノ名ヲ以テ抗議ス
 ルト同時ニ支那労働大衆及全世界ノ労働者ニ檄スルニ外國帝國主義及國民黨ノ裏切的統帥者ハ
 同様、民族的壓迫ニ對シ其ノ責任ヲ負擔スヘキモノナルコトヲ以テセリ。國民黨統帥者等ハ既
 ニ一箇年以上ニ互リ民族的解散運動ノ撲滅ニ専念從事シツツアリ、右統帥者等ハ數限リ無キ機
 關ヲ破壊シ職業同盟、農民組合、學生機關ヲ解散シ數萬ノ國民指導者ヲ銃殺セリ、國民黨ノ徒
 輩ハ激發セル大衆ヲシテ日本ノ干渉ニ對抗シ起タシムル代リニ大衆運動ヲ抑壓シ自身帝國主義
 ノ走狗ニ甘ンシツツアル始末ナリ

支那國民ハ國民黨統帥者ノ裏切的行爲ニ苦メラレツツアルニモ拘ラス新ナル壓迫ノ魔手ニ對シ
 戰ヲ挑ミツツアリ、支那ノ労働者、農民及國民大衆ハ支那ヲシテ帝國主義者ノ掠奪ノ渦中ニ投
 セシムルヲ斷シテ肯ンスルモノニ非ス、彼等ハ獨リ支那ノ獨立ヲ贏チ得シムル勞農政對ノ爲メ
 力戰奮闘スルモノナリ

現下ノ最モ重大ナル情勢ハ當ニ支那ノ將來ヲ威嚇スルノミナラス世界戰爭ノ危機ヲ胚胎スルモ
 ノナリ、茲ニ於テ乎職業同盟及全世界ノ労働階級ハ至支労働聯盟ノ爲猪突邁進スル支那大衆ヲ
 支持後援セサルヘカラス

彼等（職業同盟及全世界ノ労働階級）ハ又全力ヲ盡シ世界帝國主義ノ新ナル掠奪的突進ニ對シ
 敢然起ツテ戰ハサルヘカラス

六事態斯クノ如キニモ拘ラス田中内閣ハ鐵ノ踵ヲ以テ階級的覺醒的勞農運動ヲ蹂躪セント企圖シ
 ツツアリ吾人ハ日本労働者等カスカル仕打ニ對シ沈黙ヲ守ラサルヲ庶幾スルモノナリ卿等労働
 者ノ第一ノ義務ハ日本陸海軍ヲ支那ヨリ撤退セシムルニアリ

「支那ヨリ其ノ魔手ヲ去レ」

右ノ標語ヲ達成セシムルハ労働階級連帶ノ責任ナリ

支那革命ノ支持—之レ取リモ直サス國際「プロレタリアート」ニ取リ緊急問題ナリ
 左ノ標語ノ下ニ労働者ヲ敢然奮起セシメ全國ニ互リ示威運動ヲ斷行セシムヘシ

在山東日本帝國主義ニ抗議セヨ

全武裝的外國勢力ヲ支那ヨリ驅逐セヨ

外國干涉ヲ排除シ支那國民自身ヲシテ自國ノ問題ヲ解決セシメヨ
支那革命ノ指導者タル支那労働者及農民ヲ支持後援セヨ

太平洋労働聯盟書記局

議長 「フアン グ・ビーン」
秘書 川崎（「エム・カワサキ」）
同 「イルル・プロウデル」

一九二八年五月八日上海ニ於テ

（一九二八年六月九日「ブラウダ」紙）

六、「プロフィンテルン」執行局ノ支那労働者援助

露國共產黨機關「ブラウダ」紙ハ

「支那労働者ニ對スル國際的援助ノ二週間」ト題シ「モスクワ」ニ本部ヲ有スル赤色職業組合「インターナショナル」執行事務所カ支那ニ於ケル労働者援助ノ目的ヲ以テ赤色職業組合「インターナショナル」所屬團體宛ノ義捐金募集ノ檄文ヲ掲載セリ今其全文ヲ譯スレハ左ノ如シ
親愛ナル「トワールシチ」（同役）ヨ

支那全領土ニ互リ熾烈ナル脅威ハ依然繼續シツツアリ幾萬ノ労働者農民ハ苦メラレ射殺ノ憂目ニ遭ヒタリ。日、英、佛、米ノ警察ト軍隊ハ前衛ノ労働者等ヲ捕ヘ支那ノ死刑執行役人軍閥ノ手ニ渡セリ。爲メニ支那労働階級ノ色彩ハ自然的ニ消滅ヲ來サントシツツアリ。如斯支那労働聯盟ハ萬國ノ労働者ニ對シ絶叫スルニ火急ノ援助ノ要求ヲ以テス一度同階級ノ同胞カ救ヲ求メハ一人ノ労働者タリトモ差別ナク受動的状態ニ留ラシメ置ク能ハザルナリ。右ノ状況ニ鑑ミ「プロフィンテルン」執行局ハ七月十七日ヨリ同三十日迄支那労働運動ノ國際的援助ノ二週間ヲ決行スベク決セリ。執行局ハ所屬ノ各機關ニ對シ支那ノ労働者等ニ多大ノ同情的援助アラント期ス。之レト同時ニ支那ニ於ケル勃發事件ヲ知悉スルノ要アリ。又集參示威運動、新聞號外小冊子、特ニ醜金等ノ方法ヲ以テ支那労働者ニ實際的援助ヲ顯ハササル可ラズ。至急コノ二週間ノ準備ニ着手スベシ。全國ノ凡ユル團體（革命奮闘士救援助協會青年共產「インターナショナル」其他）ハコノ仕事ニ對シ權威アル國際的示威的運動ヲ以テ一致ト援助トヲ與フベシ

赤色職業組合「インターナショナル」執行局

千九百二十八年六月十二日

(一九二八年六月十三日「ブラウダ」紙)

七、全支勞働聯盟ノ排日煽動的檄文

露國共產黨機關「ブラウダ」新聞ハ日本帝國主義及其ノ扈從者ヲ倒セ「トノ標題ノ下ニ全支勞働聯盟ノ排日煽動的檄文ヲ掲載セリ今其全文ヲ翻譯スレバ左ノ如シ

日本帝國主義ハ夥シキ軍勢ヲ率キ支那ニ闖入シ我カ國土ヨリシテ新ナル一片ノ餌食ヲ奪ヒ取ラント企圖シタリ

日本帝國主義ハ支那革命ニ取り決死的仇敵ナリ、日本帝國主義ハ支那ニ敵對スル鬭争ヲ營ムニ當リ軍力ヲ利用シ、經濟的根據ノ確立、經濟的開發ヲ目論見其ノ他賣國的支那官憲タル已カ扈從者ヲ利用スルノ手段ニ出テツツアリ

國民黨、是レ取リモ直サス新軍國主義ノ走狗ニシテ世界帝國主義ノ新ナル扈從者ナリ、國民黨ハ血腥キ流血的手段ヲ以テ革命運動ノ撲滅ヲ期シ内政干涉者ノ爲門戸ヲ開キツツアリ、國民黨ノ徒輩ハ日本カ國際聯盟ニ於テ新ナル役割ノ一ヲ演シ居ルヲ克ク知得シ居ルニモ拘ラス衝突問題解決ニ關スル提議ヲ國際聯盟ニ提出セリ—國際聯盟トハ是レ取モナホサス弱小國民ヲ壓迫スルノ目的ヲ以テ組織セラレタル帝國主義的同盟ナリ—彼等ハ帝國主義者ノ公明ヲ證明スルニ汲

々タリ、彼等ハ支那國民ノ武裝ヲ解除シツツアリ、斯クシテ彼等ハ已カ國土ヲ敵ニ賣ル裏切者ト化シツツアルナリ

國民黨カ既ニ一箇年以上ニ互リ大衆的革命機關ヲ打破スルカ爲數萬ノ革命的勞働者及農民ヲ銃殺シツツアルヲ想起スル者ニ取リテハ國民黨ノ裏切ハ何等異トトスルニ足ラサルヘシ、國民黨ハ勞働聯盟農民組合及其ノ他ノ大衆機關ノ破壊ニ着手セシ時ニ於テ又白色恐怖制ヲ布キシ時ニ於テ帝國主義者ニ買收セラレシモノナリ

國民黨ハ東京及倫敦ヨリノ命令ニ服從シ支那革命ノ唯一ノ頼ミノ綱タル「ソヴェエト」聯邦トノ外交關係ヲ破綻ニ歸セシメタリ、茲ニ於テ乎帝國主義者等ハ安塔ノ胸ヲ撫テ下シ以テ今ヤ國民黨ハ支那國民ノ武裝ヲ解除シ茲ニ干涉ノ時期到來セルモノナリト確信スルニ至レリ支那國民、支那勞働大衆ハ帝國主義的干涉ヲ肯シタル事無ク常ニ内政干涉及干涉ノ手先ニ反對シツツアリ是レ即帝國主義者竝ニ國民黨ノ倒壞ニ對スル鬭争ヲ立證スルモノナリ

勞働者ハ帝國主義者ニ取リテハ最モ決死的ニシテ且最モ徹底的ナル鬭士タリ、而シテ此等鬭士ハ最モ大ナル打撃ヲ彼等ニ與フルモノナリ

勞働者等ハ已カ勢力ノ合同ヲ圖ラサルヘカラス、勞働階級ハ獨リ帝國主義者帝國主義ノ代理者

タル國民黨員ニ對スル鬭爭ニ於テ獨立不羈ノ戰ヒヲ爲スヲ得ルナリ
勞働者ヨ卿等ハ勞働者全體會議ニ代表者ヲ選定セラレヨ、同會議ハ左ノ決議ヲ爲スヘキヲ期ス
ルモノナリ

對日貿易及商品ニ對スル「ボイコット」日本ノ全工場ニ互ル同盟罷業山東ヨリノ日本人ノ追放
日本帝國主義ヨリノ滿洲ノ解放、全日本利權ノ撲滅

治外法權及不平等條約ノ破棄、賣國の將軍ノ走狗及國民政府ヲ組織スル大官(マンダリン)ノ
根絶、帝國主義ノ代官ヲ倒セ—卿等ハ帝國主義者ヲ粉碎シ得ルノ唯一ノ勞農政權建設ノ爲メ力
戰奮闘セヨ—日本ノ勞働者及農民等ヨ大衆的反帝國主義示威運動ヲ斷行セヨ—日本革命勞働者
及農民萬歲—

英、佛、米勞働者ヨ卿等ハ帝國主義倒潰戰爭ニ加勢セサルヘカラサルヲ記憶セヨ—
勞働者及農民ノ指揮スル凱旋的支那革命萬歲—

署名

支那勞働聯盟議長 蘇兆徵(共產黨首領)

理事 「リ、ミ、ン」

太平洋勞働聯盟理事局長 「フアング、テイン」

理事 川 崎

「イルル、プロウデル」

上海、一九二八年五月九日

(一九二八年六月十三日「ブラウダ」紙)

第三項 印度勞働組合總聯盟第八回大會ニ宛テタル

「プロフィンテルン」ノ書面

「プロフィンテルン」執行局ハ、全世界革命勞働團體ヲ代表シ印度勞働組合總聯盟八回大會竝ニ全
印度ノ勞働階級ニ對シ、親愛ト友情ノ挨拶ヲ贈リ且ツ諸君カ内外ノ壓政者ニ對シテ勝利ノ日ノ速
カナランコトヲ祈ルモノナリ

抑々印度ニ於ケル勞働運動ノ發達ハ近時目醒シキモノアリ、無産大衆内ノ階級的自覺モ逐日増加
シ搾取階級ノ政治竝ニ經濟的ノ協調モ漸次確實ヲ加ヘツツアルヲ看取シ得ルニ至レリ。從ツテ印
度勞働階級ノ刻下ノ任務ハ實ニ重且ツ大ト云ハサル可ラス。既ニ「ソヴェート」聯邦、支那及ヒ
滿領印度諸島ニ於ケル勞働者農民ニ依ツテ開始セラレタル帝國主義竝ニ植民地壓迫政策對抗戰ハ

全世界ノ勞働階級就中各植民地ノ無產階級夫レ自身ノ努力ニ依リテ最後ノ勝利ヲ博スルコトヲ得ルナリ。此ノ戰爭ニ於ケル印度無產階級ノ役割ハ頗ル大ナリト云ハサル可ラス。此ノ偉大ナル戰爭ニ際シ、印度勞働階級及ヒ其ノ勞働組合ハ常ニ「プロフィンテルン」乃至其ノ各國支部ヨリ援助ヲ期待スルコトヲ得ヘシ「プロフィンテルン」ト改良主義的「アムステルダム、インターナショナル」トノ根本ノ相違ハ、前者カ常ニ植民地又ハ半殖民地ニ於ケル民族の獨立運動ヲ積極的ニ援助シタルコトニアリ。此ノ兩者ノ相違カ最モ明瞭ニ曝露シタルハ、支那無產階級カ外國帝國主義或ハ國內ノ反革命ニ對シテ激戰ヲ交ヘタル時ナリキ。「プロフィンテルン」カ力ノ及フ限リヲ盡シテ支那革命ヲ援助セルニ、「アムステルダム、インターナショナル」ハ晏如トシテ手ヲ拱キ居リタリ。實ニ支那革命ニ援助ヲ拒絕シタルコトハ、世界ノ帝國主義反革命運動ヲ支持シタルト同程度ノ階級的罪惡ト云ハサル可ラス。「プロフィンテルン」執行委員會ハ印度勞働組合カ被壓迫ノ敵ト味方カ何レニ在ルカヲ劃然ト識別シ、全世界勞働運動ノ合同、帝國主義ノ覆滅、植民地半植民地民族ノ獨立ヲ爭鬪旗幟トスル、國際勞働團體ト同心協力ノ實ヲ擧ケラルヘキコトヲ信シテ疑ハス。

印度勞働階級萬歲

全世界勞働運動ノ合一萬歲

一九二七年十一月二十四日

於莫斯科「プロフィンテルン」中央執行局

第四項 「プロフィンテルン」執行局東方部長談話

「プロフィンテルン」執行局東方部長「ゲルレル」カ太平洋勞働會議ニ關シ新聞記者ニ語ル所左ノ如シ第一回太平洋勞働會議ハ千九百二十七年五月二十七日漢口ニ於テ開催セラレ同會議ハ太平洋亞細亞大陸沿岸諸國ノ勞働者ヲ一致團結セシメ同時ニ特ニ書記局ヲ設クルコトト決シタリ最近閉會ヲ告ケタル羅典米國系勞働聯盟會議並ニ同會議ノ結果トシテ組織セラタル書記局ハ勞働運動ニ關シ太平洋勞働聯盟書記局カ極東ニ於ケル勞働者ニ對シテ演スル同様ノ役目ヲ羅典系米國ニ於テ演スルニ至ルヘシ太平洋勞働會議ハ極東勞働運動ヲ太平洋ニ沿フ南米（「チリ」、「ペリユ」、「エクワドル」、「コルムウビヤ」、「メキシコ」）諸國ノ勞働者ト一致提携セシムルノ連鎖トス帝國主義ノ北米合衆國カ常ニ羅典系米國ニ於テ大ナル活躍ヲナサントスルノミナラス又極東殊ニ支那ニ於テ同様ノ大飛躍ヲ演セントスル秋ニ際シ太平洋全沿岸水域ニ於テ勞働運動切迫シ來リタルコトハ大ナル意味ヲ有ス（一九二八年四月十四日「イズウエスチャ」）

第三款 「プロフィンテルン」ノ對米活動

第一項 米國勞働運動宣傳總聯盟ニ宛テタル「プロフィ

ンテルン」ノ書面

——「プロフィンテルン」機關雜誌一九二七年十二月號所載——

「プロフィンテルン」局ハ、米國ニ於ケル勞働運動ノ階級職ニ重要ナル役割ヲ演ズル米國勞働運動宣傳總聯盟ノ發展ヲ祝スルモノナリ

近時米國勞働貴族階級ノ反動的的色彩ハ益々濃厚トナリ、勞働大衆ガ漸次彼等ヲ去リツツアル現象ハ、宣傳總聯盟ノ活動ヲ益々有利ニ導クモノナリ。此ノ好機ニ乘ジ宣傳總聯盟ハ其ノ活動ヲ擴張スルト同時ニ、米國勞働總同盟中ノ帝國主義的走特ニ彼等ガ勞働階級ヲ賣ラムガ爲メニ故意ニ階級争闘ノ陣頭ニ立ツカ如キ場合ハ、彼等ヲ糾弾シ其ノ非行ヲ摘發スルコトヲ心掛ケサル可ラス。從ツテ「プロフィンテルン」執行委員局ハ宣傳總同盟ノ刻下ノ任務トシテ、次ノ諸條項ニ準據スルヲ至當ナリト思惟ス

- (一) 勞働組合ノ民主化並ニ變節幹部ノ除名
- (二) 無組織勞働者ヲ團結シテ新組合ヲ組織スルコト

(三) 現在幹部ノ變節的態度ヲ潔シトセズシテ多數勞働者ヲ組合ヨリ脱退スル傾向アル地方ニ於テハ、夫テハ夫等脱退者ヲ中心トスル新組合ヲ組織スルコト

(四) 勞働組合ノ合一

(五) 階級協調反對争闘

(六) 帝國主義反對争闘

(七) 戦争發生防止運動

(八) 勞働組合ノ世界的合同

尙組織勞働者ノ團結ハ單ナル宣傳ノミニ止ル可カラズ。又勞働組合ヲ新設スルノミナラズ宣傳總聯盟ノ隊勢ヲ充足シ、眞ノ無産大衆機關タラシメザル可カラズ。乃チ米國勞働總同盟ノ内外ヲ問急ハズ速左傾分子ヲ最大限ニ糾合シ、現在ノ總聯盟ノ弱點ヲ速ニ矯正スル必要アリ

「プロフィンテルン」執行局ハ宣傳總聯盟ヲ通ジ、米國勞働階級ニ對シ敬意ヲ表スルト共ニ、宣傳總聯盟ガ階級争闘ノ宣傳ヨリ實行ノ指導機關ニ變化スベキコトヲ信ズ

一九二七年十二月二日

於莫斯科「プロフィンテルン」中央執行局

第二項 南米諸國ニ於ケル「プロフィンテルン」ノ活動

労働運動ヲ通ジテノ世界赤化運動ハ、一昨年ヨリ昨年ニ懸ケ東洋ノ天地ヲ擾亂シタルガ、南米方面ニ於テモ同様ノ企圖行ハレントシツツアリ。即昨年ノ六月漢口ニ太平洋労働秘書局ヲ設立シ、東洋各國ノ革命労働者ノ合同ヲ計リタル如ク、最近南米羅典亞米利加労働秘書局ヲ設立シ、北米資本主義ノ背後ヲ脅威セムトシツツアリ。左ノ一文ハ「プロフィンテルン」機關雜誌一九二七年十二月號所載ノ公報ナリ

羅典亞米利加労働秘書局設立ニ就テ

「プロフィンテルン」執行局ハ、十月革命十週年祭參加ノ爲メ莫斯科ニ到着シタル南亞米利加諸邦ノ代表者ト數回ニ互リ協議ヲ重ネ其ノ結果、十二月十一日羅典亞米利加労働秘書局ノ設置案ヲ可決セリ其ノ全文左ノ如シ

亞爾然丁、伯刺西爾、「コロンボ」、「キューバ」墨西哥、「ウルガイ」、智利、「エクワドル」諸國労働組合代表者ハ偶々十月革命十週年祭參加ノ爲メ莫斯科ニ於テ會合スルノ機會ヲ得、南米ニ於ケル労働階級及ビ労働組合ノ現状ヲ審議シ、十二月十一日「プロフィンテルン」執行局ニ於テ次ノ決議ヲ爲セリ

北米合衆國帝國主義ノ中南部亞米利加諸國ニ對スル侵略ハ逐日辛烈トナリ、羅典亞米利加全部ヲ北米資本ノ屬領タラシメントスル企圖ヲ明カニ窺フヲ得。又反動的労働組合幹部ノ發起ニ依リテ作ラレタル汎亞米利加労働聯盟ハ、「ブルジョア」階級ノ武器ニシテ從ツテ南北亞米利加労働階級ノ敵ナリ。今ヤ北米合衆國帝國主義ノ侵略ト、南米諸國「ブルジョア」階級ノ擯取政策ノ說鋒ト悉ク労働階級ニ指シ向ケラレ居ルニ鑑ミ羅典亞米利加全労働階級ヲ結合シテ是レニ對抗スルノ必要ヲ痛感ス。故ニ羅典亞米利加各國ニ於テハ直ニ労働階級諸團體ノ合同ヲ準備シ、一方北米帝國主義汎亞米利加労働聯盟ノ侵略主義、「ブルジョア」階級ノ擯取等ニ對抗スルト共ニ、國際労働運動ニ連繫ヲ保ツテ全世界労働運動ノ現下ノ任務タル帝章主義戰爭反對資本ノ勢力ヨリノ解放ニ向ツテ邁進セザル可カラズ

吾等ハ此ノ目的遂行ノ爲メ先ヅ、羅典亞米利加労働秘書局ヲ設置スベク、一九二八年末期ニ「モンテウキデオ」ニ全羅典亞米利加労働組合會議ヲ開催スルガ爲メニ大努力ヲ傾注スル義務ヲ自覺ス

亞爾然丁労働組合同盟代表

「アルチン」

「アチリオ」、「ピオンジ」、「レズニツク」

「ガルシア」

亞爾然丁「コルドワ」州労働組合代表

「マルエンダ」

「ウルガイ」獨立労働組合代表

「カストリリエホ」

「コロンボ」中央労働組合代表

「エルナンデス、ロズリゲス」

「キューバ」全國労働同盟代表

「ロボ」

智利労働同盟代表

「ルフィノロサス」

墨西哥全國農民同盟代表

「メンデス」

「ブエノス、アイレス」市労働組合代表

「マリウエスチーチ」

「エクワードル」鐵道従業員及労働組合代表

「バレデス」

伯刺西爾革命少數派

「ソマ」

尙墨西哥代表「シスネロス」石油坑夫「モンテマイオル」及ビ交通従業員代表「コントレラス」ハ、右主旨ニ同意セルモ莫斯科出發ヲ急ゲル爲メ本文ニ署名スルコトヲ得ザリサ

第十二節 國際労働運動統一問題

國際的労働運動トシテ一方ニ「アムステルダム」派アリ一方ニ「プロフィンテルン」アリ互ニ攻撃シツツモ労働運動ノ統一ヲ計ラントスル企圖ハ屢々行ハレタリ唯兩者ノ主張ニ根本的ナル差異アリ

リ、自説ヲ固執スルノミニシテ今日迄一致スルニ到ラザル現状ナリ

「プロフィンテルン」ノ核心ヲナス全露労働組合ト「アムステルダム、インターナショナル」ノ間ニハ由來幾回トナク合併ニ關スル往復繰返ヘサレタルガ其主ナルモノヲ左ニ摘記シ參考ニ供スベシ

第一款 「アムステルダム、インターナショナル」ト全聯邦職業組合中央

評議會トノ往復書翰(「イン、ブレ、コール」一九二四年八月九日所載)

「アムステルダム」側ヨリノ書翰

(一九二四年七月二十二日到着)

同志諸君

「アムステルダム、インターナショナル」第三回大會ハ一九二四年六月二日ヨリ七日迄維納ニ於テ開催セラレタルカ、同大會ニ於テ新タニ「ロシア」労働組合ノ「アムステルダム、インターナショナル」加入問題ニ關シ論議シ至會一致ヲ以テ左記決議ヲ採擇セリ

大會ハ「アムステルダム、インターナショナル」事務局ト全露労働組合中央評議會トノ間ニ行ハレタル交渉ニ關スル報告ヲ聴取シ「ソヴィエト」聯邦ノ労働組合カ全世界ノ主要労働組合ノ代表ニヨリテ承認セラレタル「アムステルダム、インターナショナル」ノ定款及「プログラム」ヲ

認メス未タニ國際勞働組合同盟ノ外ニ在ルヲ遺憾トス、大會ハ事務局ニ對シ「アムステルダム
インターナショナル」ノ威嚴ヲ損セサル限リ我「インターナショナル」(「アムステルダム」)ノ定
款及決議ヲ無條件ニ遵守スヘキコトヲ前提トシテ「ソヴィエト」聯邦勞働組合ヲ國際組合運動ニ
引入ルルタメ交渉ヲ繼續センコトヲ提議ス

「アムステルダム、インターナショナル」事務局ハ一九二四年七月十五日「アムステルダム」ニ開カ
レタル會議ニ於テ全露勞働組合中央評議會ヨリ維納大會ノ會長ニ宛テラレタル電報ニ對シ前記決
議ヲ通知スヘキコトヲ決議セリ

吾人ハ卿等カ右決議ニ述ヘラレタル原則ヲ基礎トシテ吾人ト交渉ニ入ラルルノ用意アリヤ否ヤヲ
承知致シ度シ若シ用意アリトセラルルニ於テハ吾人ハ「ロシア」勞働組合ノ代表者(多クトモ六
人)ト會合スヘキコトヲ提議ス

御回答相成度シ

バ
ー
セ
ル
オ
ウ
デ
ゲ
ー
ス
ト

右ニ對スル全露勞働組合中央評議會ノ回答

(一九二四年七月二十六日「アムステルダム」
「インターナショナル」ニ手交セラレタリ)

同志諸君

一九二四年七月十六日附貴輸入手セリ。吾人ハ卿等ガ國際的ニ勞働組合運動ノ統一ヲ再興センコ
トヲ希望セラルルニ對シ欣喜ニ堪エザル旨ヲ表明セザルヲ得ス

右ハ頗ル意義アルコトナリ、何トナレバ右卿等ノ希望ハ勞働對資本ノ激戰ニ於テ「プロレタリア」
ノ經濟機關ノ有スル總テノ力ヲ集中シ且ツ國際的ニ勞働組合運動ノ統一ヲ實現スルコトニヨリテ
ノミ勝利ヲ得ベシトノ吾人ノ信念ト合致スルヲ以テナリ、全露勞働組合中央評議會ハ此ノ統一實
現ノタメニハ如何ナルコトヲモ敢テ爲スノ用意アリ

サレド吾人ハ卿等ガ維納大會ノ決議ニ述ベラレタル原則ヲ基礎トシテ交渉ニ入ルノ用意アリヤ否
ヤノ質問ヲ提出セラレタルハ事理ヲ解セザルモノト云ハサルヲ得ズ

吾人ガ統一ヲ實現ノ爲メニハ有ラン限リノ力ヲ盡サントシツアルコトハ同志「バーセル」氏宛
ノ電報及本書ニ於テ完全ニ表明セリ、吾人ニ對スル條件ニ關シテハ論議スベキ時期ニアリト信ス
從テ卿等ガ卿等ノ「インターナショナル」ノ定款又ハ原則ノ承認ヲ以テ交渉ノ前提トセラルルハ
前後轉倒ニシテ右ニ關シテコソ將來交渉セラルベク卿等ノ主張ハ合併セントノ目的ト矛盾セリト

卿等ガ維納大會ノ決議ニヨリ形式整ヘリト感セララルナランモ吾人「ロシヤ」労働組合モ亦職業組合赤色「インターナショナル」(「プロフィンテルン」)ノ一部ナルコトヲ承知セラレ度シ同時ニ吾人ハ「ロシヤ」労働組合大會及ビ職業組合赤色「インターナショナル」(「プロフィンテルン」)大會ノ決議ヲ實行スルノ義務ヲ有ス吾人ハ今日迄對立セル二ツノ國際労働組合ノ間ニ諒解ノ度ヲ増シ更ニ接近セシメンガタメニハ兩「インターナショナル」ノ交渉ヲ對等ノ權利及双方妥協ノ精神ヲ以テ行フコトヲ基礎條件トセザル可ラサルコトヲ疑ハズ

吾人ハ國際的労働組合運動ノ共同一致ニ成功センガタメニハ區々タル形式ノ問題ヲ超越スベク、又統一ノ問題モ卿等ト相會シ具體的ニ交渉セバ確實ニ實現シ得ベシト思考ス依テ兩「インターナショナル」ノ會合ニハ何等ノ前提條件ヲ附セサルヲ以テ正當ナリト信ズ

吾人ハ何時ニテモ最近ノ機會ニ卿等ノ欲スル時日ニ相會スルノ用意アリ唯右會見ハ交通關係ヲ考慮シ卿等ノ回答到達以後十四日ノ猶豫ヲ與ヘラレタシ交渉地トシテハ倫敦或ハ柏林ヲ最モ適當ト認ム

回答ヲ期待シツ、

トムスキ
ドガドフ

次テ「アムステルダムインターナショナル」ノ「新聞報」ハ其第四四號ニ於テ次ノ如キ「アムステルダム」事務局ノ發表ヲ掲載セリ(「イン、ブレ、コール」一九二四年十一月二十二日所載) 全露労働組合中央評議會ハ七月二十六日附書翰ヲ以テ「アムステルダム」ト莫斯科トノ間ニ一致ヲ見出サンガ爲大會ヲ開催スベキ旨ヲ提議シ來レリ。「アムステルダム、インターナショナル」首領ハ此ニ對シ次ノ如キ回答ヲ發シタリ。

同志!

九月十一日ニ開カレタル我幹部會ハ七月二十六日附貴翰ヲ研究シ次ノ如ク回答スベキコトヲ吾人ニ委任セリ

労働組合ノ組織ヲ統一セントスル希望ニ共鳴ス、卿等ノ労働對資本ノ激戰ニ於テハ「プロレタリア」ノ經濟的機關ノ有スル力ヲ集中シ世界ノ労働組合運動ヲ統一スルコトニヨリテノミ勝利ヲ得ベシトノ主張ハ吾人ノ主張ト一致ス
サレド卿等ノ戰術ト吾人ノ戰術トノ根本的ニ異ルコトハ見逃スヲ得ズコノ異レル意見ヲ一致セシ

ムルコトハ容易ノ業ニアラズサレド吾人ハ出來得ル限り之ガ努力セント欲ス、卿等ノ提議セラレタル口頭ヲ以テスル交渉ノ以前ニ書面ヲ以テ下準備ヲナシ如何ナル點ニ於テ一致シ如何ナル戰術ニ於テ共通ナルヤヲ知ルコト必要ナルベシ仍ツテ吾人ハ卿等ノ提案ガ吾人ト共通ノ原則ニ立ツヤ否ヤヲ判斷シ得ル様書面ヲ以テ卿等ノ決案ヲ提示セラレンコトヲ請フ

吾人ガ維納大會ニ於テ將來開カルルコトアルベキ統一問題ノ交渉ニ對シ裁ト局限セラレタル委任ヲ受ケタルコトヲ卿等ハ承知ノ苦ナリ吾人ガ「アムステルダム、インターナショナル」特別委員又ハ新タナル大會ニ諮ラスシテ維納大會ノ委任ヲ越エタル決議ヲナスコト能ハザルハ特ニ追記ヲ要セザルベシ

貴答ヲ期待ス

於「アムステルダム」一九二四年九月十一日

「アムステルダム、インターナショナル」首領

バ ー セ ル

オウデーゲスト

然ルニ十月二十日右ニ對シ左ノ如キ回答「アムステルダム」ニ到達セリ

同志！

吾人ハ九月十一日附貴翰ヲ九月二十日入手セリ、全露労働組合中央評議會ハ十月二十三日總會ヲ開キタル爲ソレヨリ以前ニ回答シ得サリシ次第ナリ

卿等モ亦労働運動統一組織ノ爲メ努力センコトヲ欲セラルルハ頗ル同感ナリ
サレド吾人ハ今本書ヲ以テ個々ノ問題ヲ論議シ國際的労働組合運動ノ分裂ハ何レニ罪アリキヤヲ極メントスベキニアラズト思考ス吾人ハ唯直接ニ全世界ノ労働者ヲ包括シ強固ナル組織ヲ有シ統一セラレタル眞ノ労働組合運動ハ今日迄全然存在セザリシコトヲ斷言セント欲スルノミ

吾人ノ現在拂ヒツツアル而シテ一吾人ノ信ズル如ク一卿等トノ共同ノ努力ニヨリテ始メテ分裂ヲ排除シ統一ヲ實現シ得ベシ

來ルベキ交渉ノ基礎トナルベキコトヲ文書ニテ認メンコトヲ求メラレタル卿等ノ希望ニ對シテハ吾人ハ喜ヒテ應スベシ

吾人ハ國內的ニモ國際的ニモ労働組合運動ノ統一ヲ欲ス即コレニヨリ「プロフィンテル、アムステルダム」ノミナラズ更ニ他ノ組合ヲモ總テ合併セント努力シツツアルナリ

唯條件トシテ必要ナルハ此等他ノ組合ヲシテ階級戰ノ原則ヲ承認セシムルコトナリ

勞働組合統一ノ爲メニハ何故ニ反資本主義戰術ヲトラザルベカラザルヤニ就キテハ説明ノ要ナカ
ルベシ、彼等モ亦勞働組合ヲ統一スルコトハ資本ヨリノ攻撃、「フアシスト」的反動及全資本主義
的社會制度ノ撲滅ニ成功スル爲ノ重要ナル前提タルコトヲ熟知ス

統一ヲ現實シ唯一ノ勞働組合「インターナショナル」ノ基礎ヲ強固ナラシムルタメ最良ノ方法ハ
全部ヲ抱括スル會議即全世界勞働者大會ヲ招集スルコトナリコノ大會開催ノ時期並場所ニ關シテ
ハ卿等トノ交渉最中ニ諒解ニ達スベシ卿等トノ戰術ニ根本的差異アルハ卿等ノ云ハルル通りニシ
テ今日ニ始マリタルコトニアラス、吾人ハコノ點ニ關シ卿等ト何時何處ニ於テモ胸襟ヲ開キ相談
スルニ吝ナラス卿等ガ吾人ト眞ニ相敵對スルニモ拘ラズ共通ナル根本原則ヲ見出サルガ爲ニハ何
事ヲモ辭セズトノ申出ニハ常ニ敬意ヲ表セザルヲ得ス吾人ノ提議セントスル所次ノ如シ

一、「ブルジョア」トノ共同動作ハ其何タルヲ問ハズ完全ニコレヲ拒絶スルコト

二、全世界ノ勞働者及勞働者團體ヲ國內的竝ニ國際的ニ糾合シ世界ノ資本ニ對シテ國際的闘争
ヲナサシムルコト

右目的ヲ表示セハ總テノ眞ニ戰闘能力アル勞働階級團體ノ解放戰ニ於ケル戰闘心ヲ鼓舞スルコト
ヲ得ベシ

吾人ハ卿等ノ回答殊ニ貴我兩代表者間ニ第一回交渉ノ行ハル可キ日取場所等ノ通知ヲ期待ス
吾人ハ統一問題ニ關シテハ今後トモ必要ト認メラルル範圍ニ於テ書翰ノ往復ヲナスベキモ兎ニ角
相互ニ意見ヲ交換セバ例令ヘ其意見交換ノ結果ニ何等拘束ヲ認メザル場合ニ於テモ卿等トノ共同
目的ニ向フ道程ヲ平坦ナラシムベキヲ以テ一應相會スルコトハ時宜ノ處置ト信ス

於莫斯科一九二四年十月二十三日

全露勞働組合中央評議會議長 「トムスキー」

同 書記長 「ドカドフ」

「アムステルダム、インターナショナル」

御中

第二款 勞働組合ノ國際的ニ統一ニ關スル「アンドレー、ニン」所論

(「イン、ブレ、コール」一九二四年十一月三日所載)

十月革命ハ世界革命途上ニ一步ヲ印シタリ、「ロシアプロレタリア」ノ勝利ナカリセバ「コミンテ
ルン」モ「プロフィンテルンモ」生ゼザリシナラン「プロフィテルン」ノ存在スルコトハ十月革命
ノ世界勞働運動ニ影響ヲ及ボセル證據ナリ、「ロシアヴールセヴィスト」ハ各國ノ自覺セル「プロレ

タリア」ヲ驅ツテ資本家ノ搾取及社會民主黨ノ裏切ニ抗爭セシメ「ブルジョア」ニ對抗シ「プロレタリア」獨裁ヲ實現スベキ有力ナル規律節制アル戰闘團體ヲ世界ノ舞臺ニ登セタリ

十月革命ノ第七年ニ當リ「プロフィンテルン」ハ信頼シ得ル實力ヲ具ヘタリ、「アムステルダム」インターナショナル」ト「プロフィンテルン」トノ戰ノ強靱性ハコノコトヲ最モ雄辯ニ證言ス吾人ノ翼ハ全世界ニ擴カレルニ反シ「アムステルダム」派ハ歐洲限リノ團體ナリ。吾人ハ歐洲ニ於テ「ロシア」勞働組合ヲ除キ佛蘭西、「チエコスロヴァキア」、「ブルガリア」、芬蘭、獨逸ニ強固ナル根據ヲ有シ英國ニ於テモ絶エズ勢力ヲ増シツツアリ。「アムステルダム」、インターナショナル」ノ中ニハ強力ナル共產主義ヲ奉ズル反對派ノ外ニ更ニ左翼派ヲ生シ彼等ハ「ロシア」勞働組合ト提携シ何時ニテモ共同戰線ヲ張ラントシツツアリ

現在吾人ハ勞働組合運動ノ統一ニ全力ヲ集合セリ、「アムステルダム」派ト莫斯科派トヲ單一ノ團體ニ融合センカ爲統一世界大會ヲ開催セントスル吾人ノ企圖ハ決シテ吾人ノ弱味ヲ語ルモノニ非ス、吾人ハコノ提議ヲ二年前ニハナスコト能ハザリキ、何トナレバ吾人ハ改良主義者ニ打敗ラルルノ危險アリタレバナリ。「共同戰線」ハ「プロフィンテルン」ニトリテ死活問題ナリ其レ故最近數ヶ月ノ中ニ統一ニ對スル最モ重要ナル事業ハ爲サレントシツツアリ、吾人ガ此目的ヲ達シタル

日ハ即「プロフィンテルン」及十月革命ノ勝利ノ日ナリ

第二款 「プロフィンテルン」ト「アムステルダム」派トノ比較

一、「プロフィンテルン」ハ革命的國際的ナルニ反シ「アムステルダム」ハ改良主義的國民主義的ナリ

二、「プロフィンテルン」ハ東洋ニモ其活動範圍ヲ擴張セントスルニ反シ「アムステルダム」派ハ歐洲ノミニ限レリ

三、其所屬會員數ハ確然タル數字ヲ以テ表ハシ得ザルモ「ロゾフスキ」ニ從ヘバ一九二三年頃

ニハ「アムステルダム」派ハ千四百萬ノ會員ヲ有シタリシガ其主體ハ英獨ノ組合ニシテハ此兩國ハ「アムステルダム」派ニ屬スル總テノ組織勞働者ノ七割ヲ占メ之ニ對シ「プロフィンテルン」ハ千二三百萬ノ勞働者ヲ團結セシメ其大部分ハ「ロシア」ノ組合ニ屬スルモノナリキ

此二者ヲ直線的ニ比較セバ、「アムステルダム」派ノ方ガ多數ナルモ兩者ノ發達傾向ヲ見ルニ、「アムステルダム」派ハ漸次減少シ「プロフィンテルン」ハ絶エズ増大シツツアリ、現在「プロフィンテルン」ハ千七百萬内外ノ勞働者ヲ擁ス

四、又「アムステルダム」派ハ「プロフィンテルン」ノ中ニ味方ヲ有セザルモ「プロフィンテルン」

ハ「アムステルダム」派ノ中ニ味方ヲ有スト認ムベクコノ點ハ「プロフィンテルン」ノ強味ナリ
 五、「プロフィンテルン」ハ一九二二年ノ創立ナルモ第二「インターナショナル」ノ後身タル「アムステルダムインターナショナル」ハ其創立遙カニ以前ニシテ第二「インターナショナル」ノ形成セラレタルハ一八八九年ナリ而シテ「アムステルダム」第一大會ヲ開ケルハ一九一九年ニシテ「プロフィンテルン」創立ニ先ツコト二年ナリ
 六、凡ソ何レノ「インターナショナル」ニモ指導的地位ニ立ツ國ノアルモノナリ、而シテ「アムステルダム」派ニ於テハ英國ノ労働組合ガ指導ノ地位ニアリ、「プロフィンテルン」ニ於テハ「ロシア」労働組合ガ其地位ニアリ

第十三節 「プロフィンテルン」ニ於テ問題トナリタル諸事項

第一款 工場委員會

「ロシア」ニ工場委員會ノ發生シタルハ三月革命ノ時ナルカ當時世人ハカカル組織形態ハ「ロシア」特有ノモノニシテ労働組合存在セズ若クハ貧弱ナル特殊國情ノ下ニ生シタルモノト考ヘラレタリ然ルニ獨逸革命ニ於テ工場委員會ハ労働組合カ強大トナリ民衆ノ間ニ充分ナル權威ヲ有スル場合ニモ發生スルコトヲ證明セルカ、工場委員會ハ強大ナル労働組合ノ遂行シ得サル所ノ特殊ノ機能

ト密接ニ關連シテ又主要ナル機能トシテ労働者管理ナル問題ヲ生シ労働者管理ハ取りモ直サズ生産ノ社會化ヲ齎ラス前提ニシテ重要ナル問題ナリ

工場委員會ノ以上ノ役割ノ最モ明瞭ニ演出サレタルハ十一月革命ノ時ナリ

「プロフィンテルン」ハ工場委員會ハ社會革命ノ間及其前後ニ於テ非常ニ重大ナル役割ヲ演スルモノトナシ、既ニ合法的ニ存在スル獨、澳、洪、牙、利等ノ工場委員會ニ對シテモ（一部ノ者ハコレヲ以テ法律ニヨリ作ラレタル企業家ノ補助機關ニシテ「プロフィンテルン」ハコレヲ破壊スベシト主張シタルモ）「プロフィンテルン」ノ第一回大會ハ工場委員會ノ機能ヲ出來得ル限リ擴張シコレヲ次第二同化シ「プロフィンテルン」ノ足場ヲ築カントシ合法的工場委員會ニ對スル「ポイコット」ノ戰術ヲ排斥セリ、即其組織問題ニ關スル決議ニ於テ「工場委員會ニ依ル労働者管理」ナル標語ヲ決議セリ

第二款 産業別組合

「プロフィンテルン」第一回大會ニ於テ、職業組合ハ第一ニ労働階級ノ利益ヲ擁護スル機關ニシテ次ニ「ブルジョア」ニ向ツテ進撃スル機關ニシテ最後ニ社會主義建設ノ機關ナリト解釋セラレタリ然ルニ其敵タル「ブルジョア」ハ其對労働運動戰ニ於テ一步ヲ先シシ其組織形態ヲ變更シ産業別ニ

結合シ、一ツノ企業團體ヲ作り自己ノ團體ヲ改善シ、闘争ニ適合セシメ、労働階級ニ對スル有效ナル戰鬥機關タルベキ形態ヲ取レリ、コノ點ニ於テ労働階級ハ常ニ「ブルジョア」ニ後レヲ取レリ依ツテ「プロフィンテルン」ハ「一産業ニ一組合」ナル標語ヲ採用シ革命的労働者ニヨリ各國ニ傳ヘシメタリ、(第一回大會ノ行動「プログラム」第十六條)

從ツテ職業ニヨリ組合ヲ組織スルニ非ズ、例ヘバ同シ醫師ニテモ鐵道ニ屬スルモノハ鐵道從業労働者職業組合トナリ、又若シ鑛山ニ於テ雇ハレ居ル時ハ鑛山労働者職業組合ニ入ルト云フ如ク其産業産業ニヨリ縦ニ通ジテ一ツノ組合ヲ作り其中ニハ醫師モ技師モ會計モ皆包含セララルコトトナル面シテ「プロフィンテルン」ハ職業組合ノ形トシテ「ロシア」ノモノヲ認メ他國ニ於テモ之ニ倣ハンコトヲ獎メ居レリ、現在「ロシア」ニハ二十三ノ産業別組合アリ

第三款 國際宣傳委員會

「プロフィンテルン」ノ下ニアル國際宣傳部ノ外ニ國際宣傳委員會ナルモノアリ、「プロフィンテルン」ハ「プロフィンテルン」ノ他ニ更ニ別個ノ職業別「インターナショナル」ヲ作ルベキヤ否ヤノ問題ニ逢着シ、其必要ナシトノ結論ニ達シタリ、然ルニ一方「プロフィンテルン」ハ例外ナク總テノ労働者ヲ夫レ夫レ各自ノ職業別「インターナショナル」ニ團結スルコトヲ目的トシテ職業別國際

宣傳委員會ヲ設立セザル可ラズトノ結論ニ到達セリ

職業別國際宣傳委員會ハ職業別「インターナショナル」ヲ糾合スル爲メノ思想的中心ニシテコレニヨリテ労働大衆ヲ縦斷的及横斷的ニ包括セントスルモノナリ即「プロフィンテルン」ノ中ニ各別ノ職業別「インターナショナル」ヲ設立セシメントスルモノト察セララル

第二章 赤色農民「インターナショナル」(略稱「クレス

ナンテルン)

Красный Крестьянский Интернационал (Крестьянтерн)

Internationale Paysanne Rouge.

Bauerninternationale.

第一節 概 說

「プロフィンテルン」ハ都市工場労働者ヲ其内容トスル「インターナショナル」ナルガ「コミンテルン」ハ農民ノ國際的團體ノ必要モ認メ一九二三年一ツノ國際的農民團體ヲ創立シ赤色農民「インターナショナル」(略稱「クレスチンテルン」)ト稱スルコトセリ

加入國ハ「ソヴェト」聯邦、支那、蒙古、朝鮮、日本、印度、「ネーシヤ」、濠洲、「エストニア」

「ラトビア」、「ロシアニア」、獨逸、波蘭、洪牙利、羅馬尼、「ブルガリア」、「ユーゴ、スラヴィア」
 「チエコスロヴァキア」、伊太利、西班牙、和蘭、佛蘭西、瑞典、諾威、愛蘭、埃及、「チュニス」、「ア
 ルジェリヤ」、亞爾然丁、祕露、伯刺西爾、墨西哥、米國、加奈陀ノ三十三ヶ國ニシテ其各國別所
 屬員數ハ不明ナルモ數千萬ニ達スト稱セラレ（尤モ「ソヴィエト」聯邦ノミニテ約二千萬ノ所屬員
 ヲ算ス）

其活動狀況ヲ見ルニ一九二三年十月ノ創立會ニ於テ選舉セラレタル五十二名ニ其ノ後參加シタル
 各國農民團體ノ代表者ヲ合セ百名ノ國際農民評議員アリ全世界ノ農民ヲ地主及資本家ノ羈絆ヨリ
 解放スルコト全世界ノ勞働團體ト團結シ全世界ニ勞農政府ヲ樹立スルコトヲ標語トシ英、佛、獨、
 露ノ四ヶ國語ニテ「クレチ、インテルン」ナル雜誌ヲ發行スルト共ニ農民宣傳ノ「パンフレット」
 ヲ各國語ニテ翻譯シテ頒布シ外ニ國際農事研究所ヲ設立シテ各國ニ於ケル農民運動ヲ研究シ農民
 運動今後ノ參考ニ供スルコトトセリ最近ノ活動トシテ特記スヘキバ饑饉ニ瀕セル朝鮮農民ノ爲ニ
 盡力セルコトナリ

而シテ「クレスチンテルン」ニハ加入條件ト稱スベキモノナシ、蓋シ社會主義的世界革命ヲ結局
 ノ目的トスル共產主義者ハ世界最初ノ「プロレタリア」國ト誇ル「ソヴィエト」聯邦ヲ擁護スルト

共ニ進テ世界ノ「ブルジョア」制度ヲ顛覆センカ爲「コミンテルン」ヲ第一線トシ、「プロフィンテ
 ルン」ヲ第二線「クレスチンテルン」ヲ第三線トシ第一線ニ立ツ「コミンテルン」ノ組織ニ對シ
 テハ周到ノ注意ヲ拂ヒ其ノ加入條件ノ如キ二十一ヶ條ヨリ成リ最モ嚴格ヲ極メタルモノナルモ第
 二線第三線ト漸次嚴格ノ度ヲ減シ「プロフィンテルン」ノ如キハ必スシモ共產主義ヲ奉スルコトヲ
 條件トセス單ニ革命的階級闘争ノ主義ヲ認ムルコトヲ要求スルニ過キス「クレスチンテルン」ニ
 至リテハ別ニ加入條件ナルモノヲ設ケス各國農民團體ノ加入ノ歡迎スルモノノ如シ

第二節 「クレスチンテルン」ノ成立

全聯邦共產黨ハ元ト露國社會民主勞働黨ナル名稱ヲ有シ而モ勞働者ヲ本位トシタル關係上勞働者
 ニシテ共產黨員タルモノ少カラス從ツテ勞働者ハ共產黨ノ指揮命令ノ下ニ在ル勞働組合ヲ有スル
 モ之ニ反シ農民ハ共產黨ト沒交渉ニシテ何等農民聯盟ヲ有セス露國ニ於テ農民カ農民聯盟ヲ有セ
 サルハ敢テ必シモ農民カ之ヲ有スルヲ欲セサルカ爲メニアラスシテ共產黨及其政府カ先ツ勞働者
 ノ結合ニ盡力シタル爲メニシテ「レーニン」モ夙ニ農民ノ組合ヲ提唱シ既ニ一九二二年「コミン
 テルン」第二回大會ニ於テ農村ニ對スル共產黨ノ戰術ヲ決定セリ仍テ翌一九二三年十月莫斯科ニ
 於テ開催サレタル農民ノ國際的會議ニ依リ赤色農民「インターナショナル」創設サレタリ、其ノ目

的ハ全世界ニ勞働者農民ノ政權ヲ確立スル爲メニ、世界農民ノ國際的團結ヲ計ルニアリ

第三節 「クレスチンテルン」ノ組織

「クレスチンテルン」ノ最高機關ハ大會ナルガ第一回大會ハ國際農民評議會ヲ創設シ世界主要農民代表者五十二名ヲ選出シ莫斯科ニ常置スルコトヲ可決セリ

該評議會ノ下ニ中央書記局「グネラルヌイ、セクレタリヤート」、幹部會、書記局、情報部、出版部、國際聯絡部、東方及植民地地方部ヲ有ス
同評議會ノ任務及目的左ノ如シ

- 一、世界各國ノ農民ヲ地主及資本家ノ壓迫ノ下ヨリ解放スルカ爲メ其奮闘ヲ強大スルコト
- 二、農民大衆ノ利益ヲ保護シ農民經濟ノ向上ヲ計ルコト
- 三、全世界ノ政治經濟及産業組合的農民團體ト密接ナル關係ヲ設定シ且ツ之ヲ鞏固ニスルコト
- 四、地主及資本家ト爭鬭シ之ニ對抗スル爲メ國際的ニ村落ト都市トノ關係ヲ密接ニシ農民ト勞働者トノ聯絡ヲ計ルコト
- 五、國際農民評議會ノ綱領及事業ヲ支持スル全世界ノ有ラユル工業、勞働團體ト同胞兄弟的關係ヲ設定スルコト

六、世界各國ニ「勞働政府」ナル標語ヲ實現セシムル爲メ農民ヲ團結セシムルコト

國際農民評議會ノ議長ハコレ迄「ア、ベ、スミルノフ」ナリシモ同人ハ最近露西亞社會主義聯邦「ソヴィエト」共和國ノ副總理ニ任セラレタルヲ以テ「テオドロウイッチ」之カ後任トシテ國際農民評議會議長「ゼネラルセクレタリ」ニ任セラレタリ幹部會員ハ各國ノ主義者ヨリ成リ現在數十餘名ニシテ其内ニ日本人トシテハ林ナル者ノ名アリ又國際農民評議會ハ同シク各國ノ主義者ヨリ成リテ其内ニ日本側ノ評議員トシテハ片山、林、畑及須長「スナカ」ナル者等ノ名記載セラレ
因ニ「クレスチンテルン」長「テオドロウイッチ」ノ略歴左ノ如シ

今回新ニ國際農民評議會ノ長ニ選任セラレタル「テオドロウイッチ」(イ、ア、)ハ千八百七十五年ニ生レ千九百年「モスクワ」大學ヲ卒ヘ既ニ其學生時代(千八百九十四年)ヨリ革命運動ニ加ハリ千八百九十四年時ノ秘密結社タリシ露國社會民主黨(露國共產黨前身)ニ入黨シ千九百七年倫敦ニ開カレタル同黨大會ニ出席シ千九百十七年二月革命後第一回「ソヴィエト」大會全露中央執行委員會ノ議員ニ選ハレ千九百二十年農務省參事官ニ任セラレ千九百二十一年農務次官トナリ千九百二十五年ヨリ國際農民專門學院院長ヲ兼ネ以テ今日ニ至レリ

第四節 「クレスチンテルン」第一回大會

農民ノ國際的會議一九二三年十月莫斯科ニ於テ開催サレタリ

之レ「クレスチンテルン」第一回大會ニシテ、同大會ニ於テハ次ノ問題ヲ主トシテ審議セリ

- (一) 資本主義國ニ於ケル農民ノ狀態
- (二) 資本主義國家ハ農民ニ對スル課稅ヲ增加シ過重ナル負擔ニ苦シメ居ルコト
- (三) 帝國主義戰爭ノ再發ノ危險
- (四) 勞働階級ト農民階級
- (五) 農村ニ於ケル購買組合ノ價值

第五節 第一回大會以後加ハリタル諸國農業團體

第一回大會後間モナク獨逸、佛蘭西、波蘭、「チェッコスロワキヤ」、伊太利、墨西哥、勃牙利、羅馬尼、支那ノ農業團體モ本同盟ニ加入セリ

一九二五年莫斯科ニ於テ三十四個國代表出席ノ下ニ國際農民評議會會議開カレタリ。出席者中ノ主ナル者ハ諾威農民同盟ノ首領「レング」、北米合衆國耕地同盟代表「アルフレッド、クヌートン」加奈陀耕地同盟指導者「ボルトン、バテン」農民組合長兼獨逸農民同盟幹事長「リハルド、ビルギ」市俄古黑人組合秘書等ナリ

第六節 「クレスチンテルン」ト「コミンテルン」トノ關係

第一款 第五回「コミンテルン」大會ノ決議第一三四號

(一九二四年十月十五日「インプレコール」特別號所載)

第五回「コミンテルン」大會ニ於テ「コミンテルン」ト國際農民評議會トノ關係ニ關シ左ノ如キ決議採擇セラレタリ

一、大會ハ一九二三年十月第一回國際農民會議開催セラレ農民「インターナショナル」(國際農民評議會)創設セラレタルコトヲ欣懷トス、大會ハ第一回國際農民會議ノ採擇セル「テーゼ」ト第二回及第四回「コミンテルン」大會ノ農民問題ニ關シ採擇セル「テーゼ」トノ間ニ何等ノ矛盾ナキコトヲ確認ス、仍ツテ大會ハ「コミンテルン」ノ總テノ機關ニ對シ國際農民評議會及コレニ繫屬スル各國ニ於ケル團體ヲ支持シ農業勞働者ヲ團結セシメ以テ農民勞働者ヲ同時ニ搾取シ壓迫シツツアル現在ノ社會制度ヲ破壊センガタメ爭鬪セシメンコトヲ希望ス、大會ハ同時ニ被搾取者タル賃銀勞働者階級ト自己トノ生産手段ヲ以テ働キツツモ同様ニ搾取セラルル農業勞働者階級トノ戰鬥同盟ハ農民ヲ襲ヒ來ル農業危機或ハ重キ兵役ノ義務及將來ノ戰爭ノ恐ルヘキ危險等(コレラハ資本主義ヨリ生スル一般惡現象ノ或一部ニ過キサルモ)ニヨリ急速發展シ激

戰ノ結果大地主及「ブルジョア」政權ヲ倒シ勞働者農民ノ政府ヲ速カニ樹立スヘシト確認セルコトヲ宣言ス

二、大會ハ第一回國際農民會議ノ「テーゼ」ニ於テ宣言セラレタル見解即農民ハ勞働者ノ指導的援助ナクシテハ政權ヲ奪取シ大地主及「ブルジョア」ニ反對シテ主張ヲ貫クヲ得ス且ツ他面勞働階級モ亦勝利ヲ得實權ヲ握ランカ爲ニハ農業勞働者ノ支持ニ依ラサル可ラストノ見解ニ全然同意ス

三、共產黨ハ勤勞農民カ其現状改善ヲ目的トシ從ツテ無條件ニ支配階級ト闘争スルニ當リ全力ヲ擧ケテ彼等ヲ支持セサル可ラス、コレカタメニハ勞働者ト農民ト一時的又ハ永久的ニ團結セシムルコトヲ必要トスルコト屢々生スヘシ

四、勤勞農民ハ大地主及富農並其代理人、職業的政治家及役人等ノ勢力下ヨリ離脱シ得ル場合ニ於テノミ勝利者トナルコトヲ得。農民團體ノ大多數ハ今日迄精神のニモ組織的ニモ大地主及大農ノ支配下ニ在リ。カカル状態ニ於テ勝利ヲ得ルコトハ不可能ナリ。共產黨員ハ農民ノ大衆團體ノ事業ニ協力シ又適當ト認メラレタル場合ニハ其團體ノ中ニ這入り勤勞農民ヲ援助シテ彼等ヲ其仇敵タル大地主及大農階級ノ支配ヨリ解放シ其大衆團體ヲ階級闘争機關タラシメサル可ラ

ス

五、勞働者ノ各團體ト農民ノ各團體トノ間ニハ密接ナル協同策動ヲ必要トス。此協同策動ヲ計畫スルコトハ地方ニ於ケル産業企業或ハ農業上ノ大企業ノ中ニ活動シツツアル同志ノ何ヲ措キテモ先ツ果ササル可ラサル義務ナリ。工場勞働者及農業勞働者ハ大地主及「ブルジョア」ニ對スル農民ノ闘争ヲ如何ナル手段ニヨリテモ實現セサル可ラス且又勤勞農民ノ利益ヲ考慮シツツ大農ノ勢力ニ反抗シテ革命的方面ニ進マサル可ラス、共產黨ハ農民諸團體ニ特別ナル注意ヲ拂フノ義務ヲ有ス

六、既ニ政治上農民黨或ハ其他政治上團體アル國ニ於テハ同志ハ農民ヲ援助シテ右農民黨或ハ農民團體ヲ勤勞農民ノ階級闘争機關トナシ大地主又ハ大農ヲ其指導的地ヨリ驅逐セサル可ラス、コレカ爲同農民黨或ハ農民團體ニ分裂ヲ生スルモ己ムヲ得ス何トナレハ勤勞農民ノ利益ハ大地主及富農ニヨリ指導セララル農民黨或ハ農民團體ニヨリテハ唯歎嗚セララルノミナレハナリ

七、或國ニ於テ勤勞農民カ大地主ト「ブルジョア」的社會制度ヲ尊重シツツ土地ノ分前ニ付キ争フ場合共產黨員ハ袖手傍觀ス可ラス、進ミテ勤勞農民ヲ有凡手段（大衆集合、示威運動、議會内ノ活動其他）ニヨリ支持セサル可ラスサレト共產黨員ハ「ブルジョア」制度ノ下ニ行ハルル農民

問題改善ニヨリテハ勤勞農民ノ現状カ眞ニ改善サレ得サルコトヲ力説セサル可ラス共產黨員ハ「全部ノ大地主ノ土地ノ無賠償徵收及勤勞農民ニ對スル土地ノ無料分與」ナル標語ヲ與ヘ以テ勤勞農民ノ大衆ヲ革命的戰鬥ニ向ヒ煽動セサル可ラス又勤勞農民ノ租稅、抵當利子、借地料其他ノ低下ヲ得ントスルニ爭鬪ニ於テモ亦共產黨ハ勤勞農民ヲ支持セサル可ラス、サレトコノ場合ニモ貧農ニ對スル租稅、利子、借地料ノ免除ナル標語ヲ持出ササル可ラス。共產黨員ハ絶エス農民ノ要求カ完全ニ實現セラルルハタタ大地主及「ブルジョア」ヲ完全ニ征服シ、會議制度ノ支配權カ確立シタル後ニ於テノミ可能ナルコトヲ力説セサル可ラス

八、植民地ノミナラス就中植民地國ノ共產黨ハ植民地ニ於ケル農民ノ鬪爭ヲ支持セサル可ラス、吾人ハ各國ニ共通ナル農民ノ要求事項以外ニ植民地ノ特別事情ヨリ生スル各種ノ要求、即外國資本家ノ掠奪シタル土地ノ徵發、總テノ土着民ノ法律上ノ同權、外國軍隊ノ撤退、土民兵ヲ勞働者、農民ニ對スル戰爭ノタメ外國へ派遣スルコトヲ阻止スルコト及帝國主義的羈束ヨリ解放セラルル迄民族自決權ヲ主張スルコト等ノ實現ニ對シ全力ヲ盡シテ支持セサル可ラス

九、要之共產黨ハ國際農民評議會ニ緊屬セル團體ト常ニ接觸ヲ保タサル可ラス、共產黨員ハ自國ノ農民團體ヲ動カシテ國際農民評議會ニ加盟スル様盡力セサル可ラス。又共產黨員ハ「プロレ

タリア」ノ鬪爭ト勤勞農民ノ鬪爭トヲ融合一致セシムルニ努力シ以テ間斷ナキ鬪爭（罷業、借地料爭議其他）ニ於テ相互ニ支持スル勞働者及農民ノ團結ヲ組織シ被搾取兩大階級ハ共同ノ鬪爭ニ於テ共通利益ヲ有スルコトヲ確認セシメサル可ラス。既ニ革命的鬪爭カ勃發シタル時ハ更ニコレヲ指導スルタメ都市ニ於ケル勞働者評議會ト協力シテ進ムヘキ農民評議會ヲ組織セサル可ラス、共同ノ革命戰ニヨリテノミ兩階級ハ「ブルジョア」ノ羈束ヲ脱シ得ルナリ

第二款 一九二五年「コミンテルン」執行委員會擴大委員會ノ提議

「コミンテルン」第五回大會ハ革命遂行上「クレスチンテルン」機關ノ特ニ重要ナルヲ認メ各國共產黨ニ向ヒ其發達ニ協カスヘキコトヲ命シ又一九二五年ノ初メ行ハレタル「コミンテルン」執行委員會擴大委員會ハ「ブハーリン」ノ報告ニ基キ全共產黨ニ對シ眞面目ニ農村侵掠ニ關スル方法ヲ講スヘキコトヲ提議セリ

共產黨ノ「クレスチンテルン」ニ於ケル根本目的ハ資本家地主ノ支配下ヨリ貧農階級ヲ解放セシムルニアリ之カ爲「コミンテルン」ハ各國共產黨ニ其國ニ於ケル農村問題ヲ先ツ研究準備スルコトヲ命シ又封建制度ノ色彩ヲ多分ニ含メル農業國ニ於テハ第一步トシテ農村問題ノ提唱ヲ急務トスルコトヲ示シ、同時ニ地主ヨリ土地及財産ヲ沒收スル革命的見地ヲ以テ農村改革ノ具體的行程

ヲ監視シ貧農階級ニ對スル不當ナル分配ヲ容赦ナク攻撃スルコトノ必要ヲ說示シ居レリ

第七節 「クレスチンテルン」ト「プロフィンテルン」トノ關係

「クレスチンテルン」ト「プロフィンテルン」トノ關係ハ、一九二四年七月ニ開カレタル「プロフィンテルン」第三回大會ノ次ノ決議文中ニ據リ明ナリ

農村住民ノ大部分ハ地主又ハ富農ヨリ耕地ヲ租借シ自己ノ勞働ニ依リテ生活スルモノナリ。故ニ此ノ階級トノ連繫ヲ密ニシ耕地獲得運動ヲ支援シ、「ブルジョア」階級、智識階級及富農階級等ノ勢力下ヨリ救出スルコトハ世界勞働運動ノ重大任務ナリ。「プロフィンテルン」第三回大會ハ、國際農民評議會カ地主又ハ資本家ニ反對シテ全世界ノ勤勞農民ヲ結合スル目的ヲ以テ創立サレタル事ヲ歡迎ス。云々

第八節 「クレスチンテルン」ノ事業ニ關スル共產黨ノ政策

「クレスチンテルン」ハ農民ノ生活狀態、習慣其ノ他農民運動等ニ關シ二十個國ノ外國語ヲ以テ各種ノ出版物ヲ刊行シツツアリ、又一九二四年以來國際農民「インターナショナル」ト名ツクル月刊機關雜誌ヲ發行シ専ラ農民ノ覺醒ニ努メツツアリ

第一款 課稅問題ト勞農關係

共產黨ハ課稅問題ヲ以テ煽動宣傳ノ材料トナサントシツツアリ共產黨ハ農民ニ對スル課稅ヲ減少セシムルコトニヨリ一般「プロレタリア」負擔ノ自然増加ヲ來サシムルコトハ不都合ナリト主張シ勞働者農民ハ課稅ノ負擔輕減ニ付テハ均シク同一ノ利害關係ニ立タサル可ラス兩者ハ協同シテ課稅問題ニ對シ帝國主義國家ニ對抗セサル可ラストナスナリ、從テ直接農民ヲシテ資本主義國家ノ全機關ニ反抗セシメ延テ勞農政府樹立ノ準備ヲナサシメントスルナリ

第二款 都市工業製品ノ價格ト農民

資本主義經濟組織ノ必然的產物トシテ生スル工業「トラスト」制度ハ其優越的勢力ニ依リ都市工業製品ノ價格ヲ騰貴セシムルヲ常トス、共產黨ハ農民ニ向ヒコノ騰貴ニ對シ斷乎トシテ戰フヘキコトヲ提唱セサル可ラス斯クスルコトニヨリ獨占資本ニ對スル鬭爭ニ於テ、「プロレタリア」ト農民トヲ結合セシメ得ルト認メ居ルナリ

第三款 農村ト戰爭

戰爭ハ一面ニ於テ農村ノ財政ニ一時的好影響ヲ與フルトモ、夫ハ一時的ノモノニシテ、壯丁ヲ失ヒ其ノ他種々ノ原因ニ依リ多大ノ重苦ヲ招來スルヲ以テコレカ爲メ若干ノ國ニ於テハ農村ニ特種ノ反軍閥運動擡頭スルニ至ルヘク、其機ニ乘シ共產黨ハ此情況ヲ速ニ看取シ全力ヲ以テ積極的ナ

ル争闘ニ誘導スルコトヲ必要トス

五四八

總テ是等ノ問題ハ殖民地ニ於テ特ニ地主ノ封建的土地領有ニ依ル壓制、物價騰貴、不測ノ課税等ニ依リ、尖鋭化シ外國資本ノ投資アル場合ニハ更ニ重複セル搾取行爲ニ依テ複雑ノ度ヲ増シ加之本問題ハ壓制者ガ異種族ナル爲メ更ニ複雑トナルナリ、故ニ「コミンテルン」ハ以上ノ諸情況ニ從テ戰線ヲ展開シ行クヲ共產黨ノ任務トシ居レリ

第四款 一般的根本方針

農民ニ對スル共產黨ノ根本方針ハ、社會「デモクラート」的ニ傾クコトヲ避クルト同時ニ、「デモクラート」的ナルコトモ戒メツツアリ、其理由ハ社會「デモクラート」政策ハ共產黨ヲ受働的ノ立場ニ陥ラシメ「デモクラート」政策ハ「プロレタリー」獨裁ノ精神ト相容レサルモノアルカ爲ナリ、從テ兩政策ノ中庸ヲ探テ進ムヘキコトヲ示セリ

註 社會「デモクラート」派ハ農民ヲ「ブルジョア」階級ト認メ之トノ妥協ヲ全然否定シ居ルニ反シ「デモクラート」派ハ「プロレタリー」ト農民間ノ限界ヲ撤去シ「プロレタリー」ノミカ覇權ヲ握ラントスル主義ヲ否認シ居レリ
「ボリシエウイキール」ハ兩派ノ中庸ヲ採リ、小農トノ妥協ヲ認メ居ルモ、中農ニ對シ如何ナル政策ヲ執ルヘキカニ付テ重要ナル難點ニ遭遇シツツアルナリ

第五款 對農民組合政策

大地主又ハ富農ノ指導下ニ各種階級ノ農民ヲ網羅シタル所謂廣汎ナル組織ニ統一セラレタル機關アルトキハ、共產黨ハ小農出來得レハ中農ヲモ此支配下ヨリ救出スコトニ努メサル可ラストナシ之カ爲此機關ヲ占領スルコト換言スレハ大農指導者ヲ驅逐シ少クモ小農ト「プロレタリヤ」トカ共同スルコトヲ得ル全階級ヲ網羅スル單一ノ組織機關ニ改造スルコトヲ要シ此際共產黨ト小農組合トノ間ニハ提携ノ戰術ヲ肝要トナシ居レリ

小農組合組織ノ存セサル國家又ハ小資本主義國家ニ於テハ農民組合農民委員會或ハ是等類似ノ形ニ於テ上記ノ機關ヲ作ルコト必要ナリトシ、其組織中ニハ黨ノ小團（「フラクチャ」）ヲ設ケ之ヲ以テ黨事業ノ據點トセサル可ラストス

「コミンテルン」ハ共產黨ニ依ル特別ナル政治的農民黨ノ組織ヲ不利ト認メ、農民組合ノ下ニ其自體ノ意思トシテ階級種別ニ拘泥セス政治的黨派ヨリモ廣汎ナル意味ニ於ケル農民ノ組織ヲ認メ、從テ此組合ニ對シテ「プログラム」ノ作成、規律組織ニ就テ嚴重ナル形式ヲ要求シ居ラス、即チ一方ニ於テ廣ク農民大衆ノ獲得ヲ許シ他方ニ於テ其中心ニ各種ノ政治的潮流ノ存在ヲ是認シ居レ

リ
ナレト農民カ既ニ統一セラレタル政黨ヲ組織シ居ル所ニ於テハ（勿論各階級ノ農民ヲ含ム）共產

黨ハ其左翼小農派ヲ支持シ以テ必要ニ際シ之ヲ分離セシメ單一ナル小農組合ノ組織ニ利用スヘク
 之カ爲「プロレタリア」ノ戰捷ハ勞動者ト小農トカ結合シタルトキ始メテ完全ノ域ニ達スヘキコ
 トヲ隨時隨所ニ宣傳シツツ小農ヲ共產黨ノ勢力下ニ誘引スルコトニ努メサル可ラスト主張ス

第六款 對小作人政策

共產黨ハ小作人ノ職業機關ニ最モ眞面目ナル注意ヲ向ケサル可ラス何トナレハ此機關ヲ以テ村落
 ニ於ケル最モ堅固ナル根據地點トナシ得ルヲ以テナリ、此機關ハ出來ル丈工業「プロレタリア」ノ
 職業機關ト密接ナル連絡ヲトルト同時ニ、小農ノ機關トモ連絡ヲトラサル可ラス、但シ小農機關
 トノ連絡ノ爲ニ其獨立シタル機關ノ保持ヲ失フカ如キコトハ避ケサル可ラスト主張ス

第七款 宣傳要領

農民ニ對スル宣傳ハ唯農民ノ利益ヲ本位トセルモノニアラスシテ農民ヲ黨ノ一般的事業ニ引入ル
 ル様換言スレハ農民機關ヲ「クレステルン」ニ誘引シ得ル様ニ指導セサル可ラス、從テ共產
 黨ハ此國際的農民機關ノ發達ヲ支持スルハ勿論、更ニ之ヲ強力ノモノトナシ其事業ノ進展ヲ圖リ
 農民ノ研究、農民運動ノ實際的理論ノ研鑽其他ニ資スル所ナカル可ラス
 共產黨員ハ到ル處ニ於テ農民ニ「凡有革命ハ如何ナル教訓ヲ吾人ニ示シタルカ、農民カ「プロレ

タリア」ノ指導下ヲ離レ、獨立シタル抵抗力ヲ以テ革命進出ヲ試ミタルトキ常ニ其革命ハ自己ヲ
 破滅ニ導キ欺騙セラレタル結果ヲ招キタルニ非スヤ、農民ハ自力ノミヲ以テ政權ヲ把持スルコト
 ハ到底不可能ナリ即チ農民大衆ニ依テ支持セラレタル「プロレタリア」ノ獨裁ノミカ搾取階級ニ
 對シ戰捷ヲ保證シ得ルナリ」ト宣傳シツツアリ

此宣傳ハ目下事實上村落ニ於ケル小農小作人ニ對シ「クレステルン」カ着々行ヒツツアルモ
 ノニシテ「クレステルン」ハ特ニ中農ヲ中立ノ立場ニ置カンガ爲其宣傳事業ヲ指導スルコト
 ヲ必要トス即チ中農ハ「プロレタリア」獨裁ノ確立シタル曉ニ於テ「プロレタリア」ニ合一セラ
 ルル必然性アリトノ前提ヲ現在ニ於ケル基礎的事業ノ骨子トナスコトハ最モ危險ナルヲ以テナリ
 共產黨ノ宣傳目標ハ「高利貸、資本家、地主其他ニ依テ農民ノ上ニ加ヘラレ居ル重荷ヨリノ農民
 ノ解放」ナリ

農民問題ト人種問題トカ複雑ナル關係ニアル國ニ於テハ特別ノ注意ヲ此人種問題ニ向ケサル可ラ
 スト主張ス

國際農民專門學院

「モスクワ」ニ在ル國際農民專門學院ノ目的及任務ハ世界各國ニ於ケル農業問題及農業運動ヲ研

究シ又本問題ニ關スル資料ヲ蒐集シ且又理論的事項ニ關シ官衙及團體ニ援助ヲ與フルニ在リ同學院ハ國際農民評議會ヲ通シ赤色農民「インターナショナル」ニ附屬シ「テオドロウイッチ」(イ、ア、)ヲ以テ之カ院長トス

最近同校ガ特別ノ注意ヲ東洋特ニ支那朝鮮日本ニ於ケル農民問題ノ研究ニ傾注スルニ至リタルコトハ大ニ注意ヲ要スヘキコトナリ

第二章 青年共産「インターナショナル」(略稱「キム」)

Коммунистический Интернационал Молодежи (КИМ)

Internationale Communiste des Jeunes (I.C.J.)

Die Kommunistische Jugendinternationale.

第一節 概 說

露國革命ヲシテ將來アラシムル爲メニハ之ヲ成就セル共産主義者ノ死後彼等ニ代リテ革命事業ヲ繼承スル者アルヲ要ス。而シテ右ハ必ス之ヲ第二「ゼネレーション」ニ求ムルノ外ナシ。是レ勞農當路者カ全力ヲ擧ゲテ青少年ノ共産化ニ努ムル所以ナリ。即チ露國ハ青年共産主義者ヲ以テ各地ニ青年共産黨 (Коммунистический Союз Молодежи) ヲ組織シ此等ノ青年共産黨ヲ糾合シテ青年

共産聯盟 Всесоюзный Ленинский Коммунистический Союз Молодежи. Fédération Communiste des Jeunes.) 又ハ F.C.J. 略稱「コムソモール」ヲ組織シ又少年共産主義者ヲ集メテ少年共産團 (Pioniers 略稱「ピオネル」) ヲ組織ス。少年共産團員ハ成長後青年共産團員トナリ青年共産團員

ハ總テ共産黨員トナル可キモノナリ是レ青年共産聯盟員ヲ共産黨員ノ交代者ト呼ビ共産少年團員ヲ交代者ノ交代者ト呼ブ所以ナリ。即チ其ノ關係ハ左ノ如シ

共 産 黨 員

共産青年聯盟員 (「コムソモール」) (共産黨員ノ交代者)

少年共産團員 (「ピオネル」) (交代者ノ交代者)

露國以外ノ國ニ於テモ露國ト同様共産主義ヲ奉スル青少年ヲ以テ各青少年共産團體ヲ組織セリ。各國ニ於ケル此等青年共産聯盟ヲ糾合シテ國際的一團體トナセルモノ是レ青年共産「インターナショナル」 (Коммунистический Интернационал Молодежи. International Communiste des Jeunes. 略稱「キム」) ナリトス

而シテ青年共産「インターナショナル」ハ「プロフィンテルン」ト同シク共産「インターナショナル」執行委員會ニ直屬シ其ノ代表者ハ共産「インターナショナル」執行委員會幹部會ニ出席シテ

發言スルノ權利ヲ有ス

五五四

第二節 青年共産「インターナショナル」ノ成立

青年共産「インターナショナル」カ事實上成立セルハ一九一九年ナリ。即チ一九一九年十一月二十日青年社會黨國際同盟 Интернациональный Союз Социалистических Организаций Молодежи ノ戰後第一回大會伯林ニ開カレタルカ、其席上本同盟ハ第三「インターナショナル」ニ加入シ青年共産「インターナショナル」ト改稱スルニ決セリ

第一回大會ハ本「インターナショナル」ノ政綱並規約ヲ採用シ「マニフェスト」ヲ發表セリ。伯林會議ニハ約二十萬ノ會員ヲ有スル十四團體ヨリ十九名ノ代表者出席セリ

第二回大會ハ一九二一年夏莫斯科ニ於テ開催セラレ、六十萬ノ組織アル會員ヲ代表スル四十二團體ヨリ百三十五名之ニ出席セリ。一九一九年及ビ一九二〇年ハ青年共産「インターナショナル」ノ最モ急速ニ發達セル時期ナリ。第二回大會ハ舊規約ヲ改訂シ各種ノ青年同盟ノ政黨ニ對スル關係ヲ良好トシテ文化事業等ニ注意スル所アリタリ

第三回大會ハ一九二二年十二月莫斯科ニ於テ開催セラレタルガ、第二回ヨリ第三回大會迄ハ一九一八年—二〇年ノ革命動亂モ鎮靜ニ歸シタル結果、本「インターナショナル」所屬諸團體ノ發展

幾分停止ノ状態ニアリタリ。然ルニ第三回大會以後ハ又新勢力ヲ以テ發展シ來リ、加フルニ各國ニ於ケル青年ノ共産運動モ亦盛ントナリタリ

第四回大會ハ一九二四年開催セラレタルカ、本大會ハ第三回大會ノ決議ニ基キ實行セル各國ノ青年共産聯盟(「コムソモール」)ノ過去一年半ノ行動ヲ總計スルコトヲ得タリ

今年三月八日青年共産「インターナショナル」執行委員會總會ハ六月莫斯科ニ於テ開催ノ共産「インターナショナル」第六回大會ト聯絡シテ青年共産「インターナショナル」第五回大會ヲ開催スルニ決シ其ノ議事日程ヲ左ノ通決定セリ

(1) 共産「インターナショナル」第五回大會ノ齋ラセル諸種ノ結果

(2) 青年共産「インターナショナル」執行委員會ノ報告

(イ) 政治ニ關スル報告(青年勞働者ノ政治上並經濟上ノ地位ト青年共産「インターナショナル」ノ任務

(ロ) 組織ニ關スル報告

(3) 青年共産「インターナショナル」ノ「プログラム」

(4) 青年共産「インターナショナル」ノ煽動及宣傳方法

五五五

(5) 社會主義ノ樹立運動ニ於ケル青年ノ任務、「ソヴィエト」聯邦ニ於ケル青年勞働者ノ地位及青年共產聯盟ノ任務

(6) 植民地及半植民地ニ於ケル吾人ノ任務

(7) 青年共產「インターナショナル」ト「スポーツ」

(8) 少年共產運動ノ占ムル地位及其ノ任務

(9) 青年共產「インターナショナル」ノ規約及選舉

執行委員會ノ總會ハ大會ニ出席スヘキ各國青年共產聯盟ノ代表者ノ割當ヲ決定シ又青年共產「インターナショナル」ノ支局及共產主義ニ同情ヲ有スル「プロレタリア」青年ノ諸團體ニ對シテ第五回大會ノ招待狀ヲ送附スル旨決定セリ

第三「インターナショナル」第五回大會ハ共產「インターナショナル」ニ關シ一ツノ「テーズ」ヲ採擇セルガ右ノ中「共產「インターナショナル」第四回大會以後ニ於ケル青年共產「インターナショナル」ノ發達」ト題スル部分ヲ要譯スレハ左ノ如シ

(1) 青年共產「インターナショナル」ノ第三回大會ハ共產「インターナショナル」ノ第四回大會ノ決議ニ從ヒ(イ)既ニ青年共產「インターナショナル」第二回大會ニ於テ概括的ニ定メラレ

タル大衆ニ對スル青年「インターナショナル」任務ヲ具體化シ(ロ)青年「インターナショナル」組織ノ根本形式、青年勞働大衆活動ノ内容及方法ヲ一層具體的ニ定メ(ハ)職業細胞ヲ構成シ其ノ職業團體營業團體ニ組織ノ基礎ヲ置ク事ヲ以テ最重要ナル直接ノ任務ト定メ(ニ)共產青年聯盟ヲシテ共產黨及勞働階級ノ戰闘及問題ニ參加セシメ以テ政治化スルノ必要ヲ力説シ「ブルジョア」的軍國主義ニ對スル戰闘即チ資本家ノ戰爭ノ危險及攻勢ニ對スル戰闘ヲ以テ其ノ直接ニシテ且實際的任務ナルコトヲ明示ス

(2) 當期間内ニ於ケル青年共產聯盟ノ發達ハ右決議ノ必要ニシテ且正當ナルコトヲ證明セリ右決議ハ終始遵守セラレ青年共產聯盟ヲシテ更ニ青年勞働大衆組織ニ發達セシムルノ可能性ヲ作レリ

青年共產「インターナショナル」ハ青年共產聯盟ヲシテ青年勞働者ノ大衆組織ニ發達セシムル爲斷乎タル方針ニ出デタリ。其ノ結果主要ナル青年共產聯盟ハ絶エズ其ノ數ニ於テ増加セリ。青年共產聯盟ノ斯クノ如キ増進ハ同時ニ所謂社會主義青年運動ノ没落ト對照スル時ニ特ニ其ノ價值大ナル事ヲ認メ得ヘシ

革命ノ客觀的條件(狀況)ヲ顧慮シ、青年共產「インターナショナル」ノ第二回及第三回大

會ノ決議ヲ有效ニ遂行スル時ハ斯クノ如キ發展ハ偶然且一時的ノモノニアラズ永續的ノモノニシテ共產青年聯盟ヲシテ青年勞働者ノ廣汎ナル大衆運動ニ導キ以テ社會的又ハ社會主義ノ旗幟ノ下ニ進ム青年聯盟ヲ清算スルニ至ルヲ知ルベシ

- (3) 左ノ範圍ニ於テ青年共產「インターナショナル」ハ最も重要ナル效果ヲ收メ得タリ
- (a) 青年共產聯盟ハ勞働階級及共產黨ノ戰鬥及問題ニ參加スルコトニ依リ著シク其ノ政治的活動ヲ強メタリ

青年共產聯盟ノ準據スル政治的方針ハ正當ニシテ且完全ナルモノナリ

青年共產聯盟ハ各國ニ於テ顯ハレタル「オボチュニスト」的傾向ニ對スル戰爭ニ於テ共產「インターナショナル」ノ方針ヲ固持セル最良ノ前衛的闘士ナリキ

- (b) 職業細胞ヲ基礎トシテ共產黨ノ組織ヲ改造セントスル範圍ニ於テ青年共產聯盟ハ單ニ黨員ノ思想的改造ヲ遂ゲタルノミナラズ、既ニ二三ノ重要ナル青年聯盟ニ於テハ此ノ新ナル基礎ニ基キ其ノ運動ヲ全然改造スルノ基礎ヲ作レリ。共產青年聯盟及青年共產「インターナショナル」ハ此ノ種運動ノ先驅者ニシテ其豫備作業ニ依リ共產黨及共產「インターナショナル」ノ右任務ヲ遂行ノ重要ナル助力ヲ與ヘ且高價ナル經驗ヲ蒐集セリ

- (c) 共產「インターナショナル」ハ戰爭及帝國主義ニ對スル抗爭並「ブルジョア」軍隊内ニ於ケル活動ニ關スル青年共產「インターナショナル」ノ獻身的發意ト活動ニ對シ感謝ノ意ヲ表スルモノナリ

獨逸ノ占領地域(「ルール」占領地域)駐屯占領軍内ニ於ケル青年共產「インターナショナル」ノ活動ハ此ノ範圍ニ於テ爲サレタル實際的且具體的ノ國際的活動ノ最初ノモノナリ

佛國ノ青年共產聯盟ガ佛國軍隊内ニ於テ爲セル積極的活動モ亦最も重要ナル進歩ヲ示スモノナリ。青年共產「インターナショナル」ハ斯クノ如キ活動ハ最も困難ナル條件ノ下ニ於テモ可能ニシテ且有效ナル事ヲ證明セルモノナリ

- (d) 青年共產「インターナショナル」ハ鞏固ナル中央集權的ニシテ且國際的ナル統一團體ニ進マントスル發達ノ階梯ニ於テ著大ノ進歩ヲ示セリ
- 共產「インターナショナル」ハ左ノ事實ヲ確認ス

(イ) 最も重要ナル青年共產聯盟ガ其ノ數ニ於テ増大スルト同時ニ、青年勞働者ノ廣汎ナル大衆ニ對シテ青年共產聯盟ノ勢力ガ絶エズ益々深刻トナリツツアル事

(ロ) 各國ニ於ケル青年共產聯盟ト青年國際同盟トノ内部的結合ガ益々進歩セルコト

青年共產聯盟ノ此種活動ニ際シテ各國共產黨ノ與ヘタル支持ハ充分ナラザリキ。或ハ二三ノ共產黨（露國、佛國及獨逸）ハ青年共產「インターナショナル」ノ活動ヲ有效ニ支持セルガ、青年共產聯盟ハ其ノ任務ヲ遂行スルニ先立チ先ツ各共產黨殊ニ其ノ執行機關ノ鞏固ナル抵抗ニ打チ勝タルベカラザリキ。（例ヘバ軍國主義反對ノ活動ニ關シ波蘭ニ於テハ共產黨ハ青年共產「インターナショナル」ノ反軍國主義的活動ヲ喜バズ、又瑞典ニ於テハ青年共產聯盟及青年共產「インターナショナル」ハ共產黨ノ執行機關ト激シク抗爭セリ。又「チッコ、スロヴァキア」ニ於テハ共產黨ハ青年共產聯盟ガ職業細胞組織ノ構成ヲ開始スルヲ長ク妨害セリ等）之ヲ要スルニ青年共產聯盟ノ組織的獨立ニ關スル共產「インターナショナル」ノ第三回大會ノ決議ハ未ダ實現セラレズト云フベシ

- (4) 青年共產聯盟ハ左ノ點ニ於テ未ダ充分ニ其ノ任務ヲ遂行セリト云フヲ得ズ
- (イ) 資本主義ノ攻撃ニ對スル争闘
- (ロ) 青年労働者ノ經濟的困窮ニ對スル争闘
- (ハ) 労働組合ニ於ケル青年共產聯盟ノ活動（二三ノ國ヲ除ク）
- (ニ) 多數ノ新黨員ガ新ニ加入シ黨員ノ平均年齢ガ著シク若年トナリシコト、及戰闘上ノ任務

ガ從前ヨリモ擴大セルコトニ因リ、青年共產聯盟ノ教育事業ハ其ノ要求ニ副フヲ得ザルニ至リタルコト

(ホ) 特別ノ方法ヲ以テ誘導セラルベキ地方青年ノ數未ダ僅少ナルコト

(ヘ) 新ニ成立スルニ至リタル青年「ファシスト」運動並ニ「キリスト」教青年聯盟ニ對スル

戰闘

之ヲ要スルニ一九一九年創立以來青年共產「インターナショナル」ハ年ト共ニ發展シ現在ニ於テハ加入者三百萬人ヲ超過スルニ至レリ

第三節 青年共產「インターナショナル」ノ加入條件

青年共產「インターナショナル」ノ加入條件ハ左ノ如シ

- (1) 各國ニ於ケル十四歳乃至二十三歳ノ労働者又ハ農民出身ノ青年ニシテ青年共產「インターナショナル」ノ規約及「プログラム」ニ服從シ制規ノ黨費ヲ納入スル者ハ何人ノ推薦ヲモ要セスシテ直ニ青年共產「インターナショナル」ニ加入スルヲ得。黨費ハ國ニヨリテ其ノ額ヲ異ニス
- (2) 青年共產「インターナショナル」黨員タリシモノニシテ二十三歳以後引續キ黨員タルコトヲ希望スル者ハ、其ノ黨員タル資格ハ之ヲ保持シ且大會ニ於テ討議權ヲ有スルモ決議權ハ之ヲ失フ

モノトス。但シ同人カ尙青年共産「インターナショナル」ノ機關ニ於テ何等カノ責任的地位ニアル者ハ決議權ヲモ保有ス可シ

(3) 「プロレタリア」出身ニ非スシテ青年共産「インターナショナル」ニ加入セントスル者ハ、青年共産「インターナショナル」黨員又ハ共産黨員二名以上（此等ノ機關ニ二年以上勤続セル者）ノ紹介ニヨリ一年間黨員候補者トシテ行動ヲ監視セラル。而シテ一年ヲ經過セル後之ヲ黨員ニ採用スルヤ否ヤハ細胞（「ヤチュイカ」）ノ承認ニヨリ管區或ハ郡委員會ニ於テ之ヲ決定スルモノトス

第四節 青年共産「インターナショナル」ノ組織

第一款 青年共産「インターナショナル」ノ機關

青年共産「インターナショナル」ノ中樞ヲナスモノハ大會、執行委員會及書記部ナリ

(一) 青年共産「インターナショナル」大會

青年共産「インターナショナル」ノ最高機關ハ各國ニ於ケル青年共産聯盟ノ代表者ヲ以テ組織スル大會ニシテ大會ハ毎年一回之ヲ開催ス

一九一九年青年共産「インターナショナル」ノ成立以來本年ヲ以テ五回ノ大會ヲ開催セリ大會ニ

於テハ青年共産「インターナショナル」ノ行動及各國支部ノ事業、「プログラム」、戰略及組織ヲ決定ス。青年共産「インターナショナル」ノ「プログラム」及規約ヲ改正スル場合ハ必ス之ヲ大會ノ討議ニ附シ其ノ決議ヲ經サル可ラス。大會ハ青年共産「インターナショナル」ノ執行委員會及書記部ヲ選任ス

(二) 青年共産「インターナショナル」執行委員會

執行委員會ハ大會トノ間ニ於テ青年共産「インターナショナル」ノ諸機關ヲ統轄スル機關ニシテ、毎年二回乃至三回召集セラルルモノトス

現在ニ於テ執行委員會ハ各國ヲ代表スル二十三名ノ委員ヨリ成リ、其ノ國別割當左ノ如シ

- 「ソヴィエト」聯邦 五名
- 獨逸 五名
- 佛國 三名
- 「チエッコ、スロヴァキア」 二名
- 伊太利 二名
- 瑞典 一名

米	國	一名
英	國	一名
芬	蘭	一名
勃	牙	一名
利		一名
「ユーゴ、スラヴィア」		一名

合計

二十三名

(三) 青年共産「インターナショナル」書記局

書記部ハ青年共産「インターナショナル」ノ常時活動機關ニシテ五名ノ委員ヨリ成リ、一九二六年ニ於ケル委員ハ左ノ如シ

- 「ブーイオ」
- 「アロイエ」
- 「ギュー、ブトゥネル」
- 「ロミナドッゼ」
- 「レインガールドウ」

尙右五名ノ外ニ三名ノ補缺委員アリ

書記部ハ青年共産「インターナショナル」ノ事業ヲ遂行スル爲執務上左ノ通六ノ分擔機關ヲ有ス

- (1) 管理部
 - (2) 組織配當部
 - (3) 煽動及宣傳部
 - (4) 軍事委員部
 - (5) 經濟委員部
- 組織配當部ノ下ニ聯絡部ト特別委員アリ。特別委員ハ青年共産聯盟ノ存在ヲ許ササル國ニ於ケル秘密事業ヲ遂行スルノ任務ヲ有ス
- 煽動及宣傳部ノ下ニ圖書部ト出版部トアリ
- 軍隊内ニ於ケル赤化宣傳ヲ目的トス

職業組合ニ加入スル青年ノ經濟的争闘ヲ指導スル機關ニシテ、最近青年共産「インターナショナル」執行委員會幹部會ハ經濟委員部ノ事業ニ關シ左ノ通決議スル所アリタリ

青年ノ經濟的争闘ヲ後方陣地ニ退却セシムルコトハ大ナル誤謬ナリ。蓋シ資本主義必然ノ結果ト

シテ生スル機械工業ノ増加ト之ニ伴フ労働者ノ解雇トハ青年労働者ノ經濟的進出ニ最モ重要ナル武器ヲ與フルモノナリ。青年ノ經濟的争闘及職業組合ニ於ケル事業ハ將來ノ戦争ニ於テ重要ナル能ナリ。以上ノ見地ニヨリ青年共產「インターナショナル」經濟委員部ノ事業ハ益々之ヲ發達セシメサル可ラス

(6) 少年中央部

少年中央部ハ九歳ヨリ十四歳迄ノ少年ニ對スル共產主義宣傳ノ指導機關ナリ

第二款 青年共產「インターナショナル」ノ細胞

青年共產「インターナショナル」ノ細胞(「ヤチエイカ」)ハ本「インターナショナル」ノ基本單位ニシテ各工場、官廳事務所、中學校、大學及軍隊内ニ三名以上ノ本「インターナショナル」黨員ヲ以テ組織シ管區又ハ郡委員會ノ承認ヲ經タルモノナリ。管区内ニ存在スル「ヤチエイカ」ノ總會ニテ管區委員會ヲ選任シ、同様州、縣、郡ニ於テモ各委員會ヲ選任ス

第五節 青年共產「インターナショナル」ノ活動方針

第一款 概説

一九二四年共產「インターナショナル」第五回大會ハ青年共產「インターナショナル」ニ關シ一ノ決議文ヲ採擇スル處アリシガ其ノ中青年共產「インターナショナル」ノ將來ノ任務ニ關スル部分ヲ要譯スレハ左ノ如シ

共產主義ヲ奉ズル青年ハ主トシテ左ノ諸問題ニ注意ヲ集中スルヲ要ス

共產黨ノ活動並労働者階級ノ活動ニ參與スルコト(政治的活動)職業細胞ニ基礎ヲ置クヤウ其ノ組織ヲ改ムルコト、「ブルジョア」軍隊内ニ於テ積極的ニ活動シ以テ戦争ノ勃發ヲ妨グルコト、内亂誘發ノ準備(主トシテ軍事的)ヲナスコト、經濟的及職業組合的活動ヲナスコト、農村青年ニ對シテ活動スルコト教育普及ニ努力スルコト

(1) 政治的活動ハ特ニ其ノ不十分ナル處ニ於テ之ヲ盛ナラシムルヲ要ス。政治的活動トハ之ヲ具體的ニ云ヘバ共產黨ノ指導ノ下ニ立チツツ之ト常ニ相提携シ且労働青年ヲ動員シテ労働者階級ノ争闘ニ積極的ニ參加シ以テ共產及第三「インターナショナル」ノ諸懸案ノ解決ニ努力スルコトナリ。政治的活動ハ決シテ青年共產「インターナショナル」ノ諸種ノ任務ノ外ニ特別ナル任務トシテ存在スルモノニ非ズシテ其ノ諸種ノ任務ノ基礎トナルモノナリ。

(2) 職業細胞ノ創設問題ニ就キテハ青年共產「インターナショナル」ハ其ノ既ニ開始セル事業

ヲ繼續スレハ足ル。而シテ職業細胞ヲ基礎トスルヤウ至急本「インターナショナル」ノ組織ヲ改正シ來ル可キ第六回大會迄ニハ右改正ヲ終了セサル可ラズ

- (3) 軍隊及戰爭反對ノ活動ハ熱心ニ之ヲ繼續セザル可ラズ。之ヲ現下ノ國際狀態並革命ノ前兆ニ鑑ル時ハ此ノ活動ハ青年共產「インターナショナル」ノ任務中最モ緊要ナルモノナリ。獨逸及佛國ノ占領地域ニ於テハ單ナル宣傳運動ヨリ實際運動ニ移レリ。青年共產「インターナショナル」ハ進テ世界各國ニ於テ右佛獨二國ニ於ケルト同シク宣傳運動ヨリ實際運動ニ移ラサル可ラズ。而シテ「レーニン」ノ常ニ主張セル處ニ從ヒテ「ブルジョア」軍隊ニ細胞ヲ創設セザル可ラズ。且來ル可キ新戰爭ヲ防退スル目的ヲ以テ勞動階級ノ青年ヲ動員スルヲ要ス。社會民主主義者等ハ揚言シテ曰ク「勞動者ハ總罷業ニヨリテ戰爭ヲ防止シ得」ト是レ荒唐無稽ノ言ナリ。吾人共產主義者ハ此ノ社會民主主義者ノ言ニ對抗シテ次ノ如ク云ハントス。「戰爭勃發スル時ハ直チニ之ヲ化シテ國內戰トナシ續イテ「ブルジョア」軍隊内ニ於テ革命運動ヲ起ス可シ」ト

- (4) 幾多ノ國ニ於テハ青年共產主義者ノ政權獲得運動必要ナリ。然レトモ該運動ヲナスニ當リテハ勃牙利及獨逸ニ於ケル過去ノ經驗ヲ檢討シ右經驗ニ基キテ共產黨ノ指導ノ下ニ準備ヲナスヲ要ス。右ニ關シテハ青年共產「インターナショナル」會員ニ對シテ系統的ニ軍事教育ヲ施スコト特ニ必要ナリ

- (5) 經濟的及職業的活動ハ益々之ヲ盛ナラシムルヲ要ス。即チ青年共產「インターナショナル」ハ從來ノ如ク單ナル宣傳行爲ヲナスヲ已メテ今後ハ勞動青年ノ物質的及文化的利益ヲ擁護スルニ全力ヲ注ガザル可ラズ。且改良主義ヲ奉ズル職業組合ヲ化シテ革命主義者タラシメサル可ラズ

- (6) 農村青年ヲ糾合シテ青年共產「インターナショナル」ノ會員タラシムルハ最モ重要ナリ。是レ農村青年ハ「プロレタリア」革命ノ成功上常ニ大ナル貢獻ヲナセルヲ以テナリ。農村青年ノ糾合ハ大多數ノ國ニ於テハ尙其ノ緒ニ就キ居ラズ

- (7) 「レーニン」主義ノ教育ハ青年共產「インターナショナル」ガ其ノ會員ヲ増加スルニ從テ益々之ヲ盛ナラシメザル可ラズ。然ラズンバ青年共產「インターナショナル」ハ其ノ爭鬭ニ於テ共產主義的性質ヲ失フニ至ル可シ。而シテ茲ニ云フ教育ヲ授クルニ當リテハ主トシテ政治的的教育ヲ與ヘサル可ラズ。即チ青年ヲ教育シテ「レーニン」ノ殘セル言語及行動上ノ遺産ヲ收獲シ且繼續スルノ能力アラシメサル可ラズ。而シテ青年ニ「レーニン」主義ヲ教育スルニ